

野々市町北西部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ

# 徳用クヤダ遺跡Ⅰ

2009

石川県野々市町教育委員会

野々市町北西部土地区画整理組合

野々市町北西部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書！

とくもと  
徳用クヤダ遺跡 I

2009

石川県ののいち  
野々市町教育委員会  
野々市町北西部土地区画整理組合



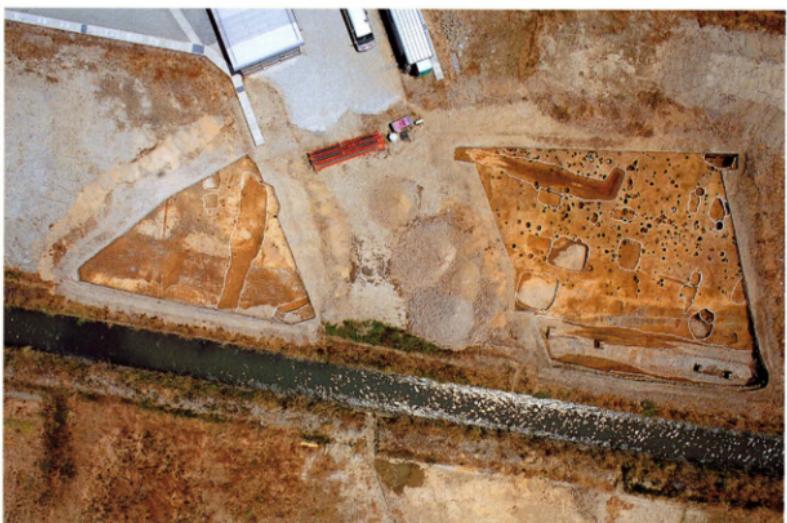
調査地遠景



第2次調査地(A・B区)全景



第4次調査地(C・D区)全景



第5次調査地(E・F区)全景

## 例　　言

- 1 本書は、徳用クヤダ遺跡(第2・4・5次)の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は石川県石川郡野々市町徳用・郷町地内である。
- 3 調査原因は野々市町北西部土地区画整理事業に伴うものである。
- 4 調査は、野々市町北西部土地区画整理組合の依頼を受けて野々市町教育委員会が行った。
- 5 現地調査は平成16・17・18年度に実施した。期間・面積・担当者は以下のとおりである。

平成16年度調査(第2次)	期　間	平成16年11月18日～平成17年1月26日
	面　積	1,585m <sup>2</sup>
	担当者	徳野裕子　野々市町教育委員会　主事
平成17年度調査(第4次)	期　間	平成17年8月10日～平成17年11月28日
	面　積	1,645m <sup>2</sup>
	担当者	徳野裕子　野々市町教育委員会　主査
平成18年度調査(第5次)	期　間	平成18年4月26日～平成18年6月14日
	面　積	666m <sup>2</sup>
	担当者	徳野裕子　野々市町教育委員会　主査
- 6 出土品の整理は平成18年度、平成20年度に野々市町教育委員会が実施した。
- 7 報告書の刊行は平成20年度に野々市町教育委員会が実施した。執筆・編集は徳野裕子(野々市町教育委員会文化振興課主査)が行った。
- 8 現地調査から出土品整理、報告書刊行に至るまでには、地元の方々をはじめとして下記の機関、個人の協力を得た。(五十音順、敬称略)

岩瀬　由美　垣内　光次郎　柿田　祐司　滝川　重徳　向井　裕知  
野々市町都市計画課　野々市町北西部土地区画整理組合
- 9 本書についての凡例は以下のとおりである。
  - (1) 方位は座標北を指し、座標は国土交通省告示の平面直角座標第VII系に準拠している。
  - (2) 水平基準は海拔高であり、T. P(東京湾平均海面標高)による。
  - (3) 掘図の縮尺は図に示すとおりである。また、写真図版における遺物の縮尺は統一していない。
  - (4) 出土遺物番号は、本文・觀察表・挿図・写真に対応する。
  - (5) 土層図の注記は、農林水産省農林水産技術会事務局・財團法人日本色彩研究所監修『新版標準土色帖』に拠った。
  - (6) 遺構名の略号は以下のとおりである。

掘立柱建物(SB)、棚列(SA)、竪穴状遺構(SI)、溝(SD)、土坑(SK)、小穴(P)、不明遺構(SX)
- 10 調査に関する記録と出土遺物は、野々市町教育委員会が一括で保存・管理している。

## 目 次

第1章 経 過 .....	1
第1節 調査の経過 .....	1
第2節 発掘作業の経過 .....	1
第3節 整理作業の経過 .....	2
第2章 位置と環境 .....	5
第1節 地理的環境 .....	5
第2節 歴史的環境 .....	5
第3章 調査の方法と成果 .....	8
第1節 調査の方法 .....	8
第2節 層 序 .....	8
第3節 遺 構 .....	9
第4節 遺 物 .....	42
遺物観察表 .....	69
第4章 総 括 .....	75
写真図版 .....	

## 挿図目次

第1図 徳用クヤダ遺跡調査区図(1/2,000) .....	3	第26図 FI <sub>1</sub> SK40~42遺構実測図(S=1/40) .....	36
第2図 徳用クヤダ遺跡試掘地点位置図・遺跡範囲 .....	4	第27図 F <sub>1</sub> SK13~46遺構実測図(S=1/40) .....	37
第3図 遺跡の位置 .....	5	第28図 B区SD01・C区SD02~04・SD06・07・09 D区SD13~15・E区SD16・F区SD17・18 遺構実測図(S=1/60) .....	39
第4図 野々市町と周辺の遺跡(1/25,000) .....	7	第29図 SB01・03・05・06・SA02出土遺物(1/3) .....	46
第5図 土層断面模式図 .....	8	第30図 SB14出土遺物(S=1/3) .....	47
第6図 A区SB01・02遺構実測図(S=1/80) .....	11	第31図 SI01~03・SI05・07出土遺物(S=1/3) .....	48
第7図 A区SB03遺構実測図(S=1/80) .....	12	第32図 SK07・08出土遺物(S=1/3) .....	49
第8図 A区SB04・SA02遺構実測図(S=1/80) .....	13	第33図 SK09出土遺物(S=1/3) .....	50
第9図 A区SB05・06遺構実測図(S=1/80) .....	14	第34図 SK11~14・SK24・25・27出土遺物 (S=1/3・1/6) .....	51
第10図 A区SK07・C区SB08遺構実測図(S=1/80) .....	15	第35図 SK32~34出土遺物(S=1/3) .....	52
第11図 DI <sub>1</sub> SB10・SA04・05遺構実測図(S=1/80) .....	16	第36図 SK38・40・42・43出土遺物(S=1/3) .....	53
第12図 C区SB09・DI <sub>1</sub> SB11・12遺構実測図 (S=1/80) .....	17	第37図 SD01出土遺物(S=1/3) .....	54
第13図 F区SB13・SB14遺構実測図(S=1/80) .....	18	第38図 SD01出土遺物(S=1/3) .....	55
第14図 A区SA01・B区SA03・D区SA06・07 遺構実測図(S=1/80) .....	20	第39図 SD01出土遺物(S=1/3) .....	56
第15図 AI <sub>1</sub> SK01・C区SK03遺構実測図(S=1/40) .....	21	第40図 SD01出土遺物(S=1/3) .....	57
第16図 DI <sub>1</sub> SK05・FI <sub>1</sub> SK06遺構実測図(S=1/40) .....	22	第41図 SD01出土遺物(S=1/3) .....	58
第17図 F区SK07遺構実測図(S=1/40) .....	23	第42図 SD01出土遺物(S=1/3) .....	59
第18図 A区SK01~07遺構実測図(S=1/40) .....	25	第43図 SD02出土遺物(S=1/3・1/6) .....	60
第19図 B区SK08~11・SI02遺構実測図(S=1/40) .....	26	第44図 SD02出土遺物(S=1/6) .....	61
第20図 B区SK12・13・C区SK14・15・16 遺構実測図(S=1/40) .....	28	第45図 SD03出土遺物(S=1/3・1/6) .....	62
第21図 C区SK18~23・SI04遺構実測図(S=1/40) .....	29	第46図 SD04・05出土遺物(S=1/3) .....	63
第22図 C区SK17・SK24~28遺構実測図(S=1/40) .....	31	第47図 SD09~12出土遺物(S=1/3) .....	64
第23図 C区SK29・30・SD09・DI <sub>1</sub> SK31・32 遺構実測図(S=1/40) .....	32	第48図 SD17・18出土遺物(S=1/3) .....	65
第24図 D区SK33・34・SD15・E区SK35・36 遺構実測図(S=1/40) .....	34	第49図 SD18・P01~06出土遺物(S=1/3) .....	66
第25図 FI <sub>1</sub> SK37~39・SD18遺構実測図(S=1/40) .....	35	第50図 P07~12・SX01・包含層出土遺物 (S=1/3・1/2) .....	67
		第51図 包含層出土遺物(S=1/3) .....	68

## 表 目 次

第1表 野々市町と周辺の遺跡 .....	6	第2表 遺物觀察表 .....	69
----------------------	---	-----------------	----

## 図版目次

図版 1 調査地遠景・A・B区近景	図版 7 出土遺物 1~39
図版 2 AI <sub>1</sub> SB01~06・SI01・P01・全景・B区SK09 光撮	図版 8 出土遺物 40~72
図版 3 B区SD01・全景・C区SK17・SD02完掘	図版 9 出土遺物 73~115
図版 4 C区SD09・SD02石塔出土状況・SD02宝鏡印塔 出土状況・全貌・SB10・11・SA04・05完掘	図版 10 出土遺物 116~146
図版 5 D区SK33・銅製品出土状況・SK34・SD13~15 全景・F区SI07完掘	図版 11 出土遺物 147~166
図版 6 FI <sub>1</sub> SK07鉄製品出土状況・SK41・SD18完掘・全景	図版 12 出土遺物 167~198
	図版 13 出土遺物 199~224
	図版 14 出土遺物 225~241

# 第1章 経過

## 第1節 調査の経過

本書に収録の徳用クヤダ遺跡第2・4・5次調査地は野々市町徳用・郷町地内に位置する。当該周辺は農地としての土地利用が主であり、開発を契機とする発掘調査はほとんど行われていなかったため、遺跡の分布の実態は不明瞭であった。しかし、近年の周辺地域の都市化に伴い、生活環境と宅地化の促進を目的とした野々市町北西部土地区画整理事業が施行されることが決定した。これをうけて、施行区域内外には埋蔵文化財存在の可能性が考えられることから、確認調査の必要が生じ、平成11年8月25日付で野々市町産業建設部長から野々市町教育長宛に土地区画整理事業区域内の埋蔵文化財の分布調査についての依頼がなされ、平成11年8月31日付で野々市町教育長から野々市町産業建設部長宛に土地区画整理事業区域内の埋蔵文化財分布調査を行う旨の回答をした。これに基づき、施行区域65.4ha内に試掘坑を352箇所（うち337箇所試掘実施）設定し、平成11年9月27日～同年10月19日まで試掘調査を行った。その結果、以前より存在の確認されていた二日市イシバチ遺跡と、新たに三日市A遺跡、二日市ヒガシタンボ遺跡、郷クボタ遺跡、徳用クヤダ遺跡が確認され、区画整理施行区域内には5遺跡が存在することが分かった。この結果は平成11年10月28日付で野々市町教育委員会教育長から野々市町産業建設部長宛に回答している。結果をうけて、土地区画整理事業組合、野々市町都市計画課、野々市町教育委員会と協議を重ね、遺跡範囲のうち道路等建設工事部分と十分な保護層が確保できない部分について調査を行う旨で合意し、平成12年4月13日付で野々市町と野々市町北西部土地区画整理事業組合との間で野々市町北西部土地区画整理事業地区埋蔵文化財に関する協定書が交わされた。これをうけ、平成13年に三日市A遺跡から発掘調査を実施することで合意した。

二日市イシバチ遺跡、三日市A遺跡、三日市ヒガシタンボ遺跡、郷クボタ遺跡、徳用クヤダ遺跡に関する文化財保護法第57条の3に基づく届出は、北西部土地区画整理事業組合理事長から文化庁長官宛に提出されたものを平成12年3月29日付で第1号により野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会教育長宛に進呈した。これを受けて、平成12年3月30日付で教文第1879号により野々市町教育委員会教育長宛に石川県教育委員会教育長から埋蔵文化財発掘調査の届出に関する通知がなされた。

徳用クヤダ遺跡の発掘調査は現在6次調査まで進捗しており、そのうち都市計画道路架橋、橋梁架造工事に伴い、第2次調査を平成16年(2004)、第4次調査を平成17年(2005)、第5次調査を平成18年(2006)の3ヵ年に渡って実施した。

## 第2節 発掘作業の経過

### ○第2次調査(平成16年度)

平成16年9月28日付で野々市町と北西部土地区画整理事業組合との埋蔵文化財発掘調査の委託契約を取り交わしている。発掘調査承諾書は平成16年9月28日付で区画整理事業組合より提出された。文化財保護法58条の2第1項の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査報告は平成16年9月28日付で教文第344号で野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会へ報告した。

現地調査は11月18日(木)より大型重機による遺構面まで土の掘削より開始し、掘削は25日(木)に終了した。同月29日(月)にはグリッド測量を行い、翌12月3日(金)からは作業員による人力作業を開始した。B区西側より草刈り、壁削り、遺構検出を開始し、中世の大溝や土坑などを確認した。同月10日(金)からはA区の草刈り、壁削り、遺構検出を開始し、A・B区と並行して作業を行った。同月15日(水)にはB区をほぼ完掘し、A区の調査のみとなった。A区西側では中世の土坑などを確認し、東側では古代の掘

立柱建物を確認した。遺構の密度は比較的低かったが、古代掘立柱建物の柱穴が深く、思った以上に時間を費やした。12月にはほぼD区も完掘したが、翌年1月に入ると天候の悪い日が続き、作業のできない日が続いたが、同月13日(木)に水汲みと清掃を行い、翌14日(金)にラジコンヘリコプターによる空中写真測量を実施し、無事に終了したことを同日に確認した。同月18日(火)からは調査区内の各遺構の清掃を行い、個別遺構の写真撮影を行った。また、遺構に残された土層断面記録のためのベルトを外す作業を並行して行い、同月24日(月)に終了した。翌25日(火)、26日(水)に調査機材等の洗浄、搬出作業を終えて、当年度の現地調査を完了した。

#### ◎第4次調査(平成17年度)

平成17年4月27日付けで野々市町と北西部土地区画整理組合との間で委託契約を取り交わし、発掘調査承諾書は平成17年4月27日に区画整理組合から提出された。文化財保護法99条の第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査報告は平成17年8月3日付け教文第166号で野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会へ報告した。現地調査は8月10日(水)より重機による掘削を開始し、同月19日(金)に掘削作業を終了、同月24日(水)にはグリッド測量を行った。同月29日(月)に作業員を導入し、C区の壁削り及び検出作業より現地調査を開始した。C区は比較的遺構密度が高く、掘立柱建物、大溝等も検出されたことから予想よりも作業時間がかかかったが、10月18日(火)にC区のほとんどを完掘し、翌19日(水)よりA区の調査を開始した。D区はC区に比べ遺構密度も低く、確認した古代の河道跡はトレチのみの確認調査に留めたため、順調に調査を進めた。しかし調査区西側に進むに従って土の粘質が強く、遺構検出及び掘進作業に若干手間取った。11月18日(金)にはD区の遺構を完掘した。21日(月)からC・D区各遺構の清掃を行うこととなったが、これまでに降った雨の水と、従前の調査地から流れ込んだ水により、予想よりも水が調査地に溜まり排水作業に時間を費やすこととなった。その後同月26日(土)には両調査区の空中写真測量を実施し、同日のうちに終了した。同月28日(月)には調査機材等の洗浄、搬出作業を終えて、当年度の現地調査を完了した。

#### ◎第5次調査(平成18年度)

平成18年4月3日付けで野々市町と北西部土地区画整理組合とで契約を取り交わしている。平成18年3月20日に発掘承諾書が提出され、これを受けて文化財保護法99条の第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査報告を平成18年3月20日付け教文第432-2号で野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会へ提出した。現地調査は4月26日(水)より重機による掘削を開始し、同月27日(木)に掘削作業を終了した。5月8日(月)より作業員を導入し、E区より調査を開始した。E区は面積も狭小で、遺構も密度が低かつたため、同月11日(木)にはほど遺構を完掘し、翌12日(金)には調査区をF区に移した。F区は遺構密度も高く、大溝や掘立柱建物、堅穴状遺構等深い遺構が確認されたことから6月12日(月)まで調査を行った。同日より調査区の清掃を行い、6月14日(水)に空中写真測量を実施し、同日に機材整理を終了し、現地調査を完了した。

### 第3節 整理作業の経過

第2次・第4次調査において出土した遺物整理作業を平成18年度に実施した。遺物の整理作業は臨時作業員が2名担当し、遺物の実測図作成及び遺物実測図トレース作業を7月14日(金)から10月18日(水)まで行った。

第5次調査の出土遺物整理作業及び報告書の刊行は平成20年度に行なった。出土遺物整理作業は臨時作業員3名が担当し、遺物の実測図作成及び実測図トレース、遺構実測図製図、報告書作成補助の作業を12月1日(月)から3月12日(木)まで行った。

報告書の執筆作業は文化財担当職員が行い、遺物の写真撮影は文化財担当職員と臨時作業員2名が3

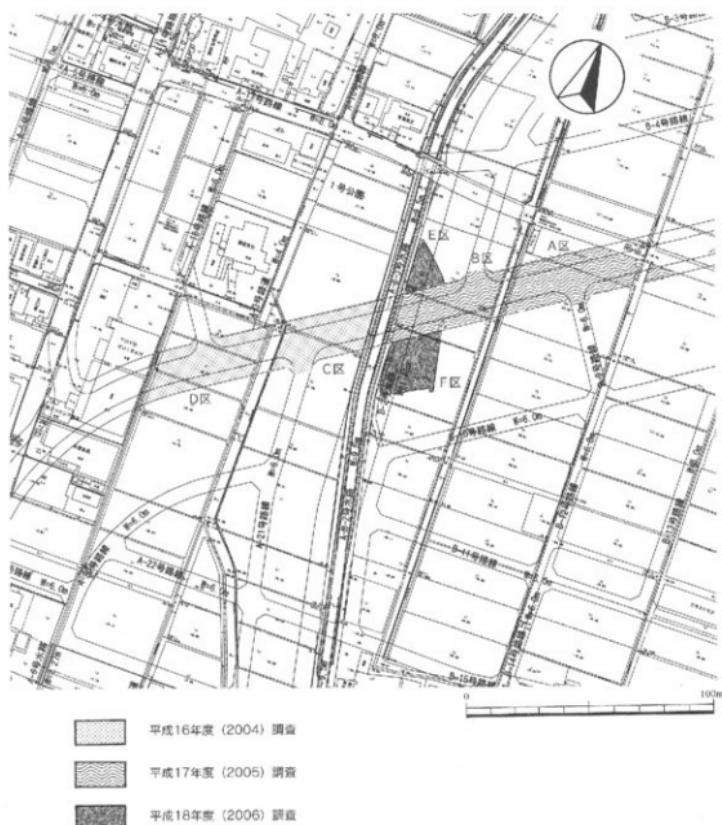
月に行った。その後すべて取りまとめた編集を行い、同年3月に刊行した。



調査作業



整理作業



第1図 徳用クヤダ遺跡調査区図(S=1/2,000)



第2図 徳用クヤダ遺跡試掘地点位置図・遺跡範囲  
(徳用クヤダ遺跡周辺のみ記載)

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

野々市町は、石川県のほぼ中央に位置する。山海のない平坦地で、北東部は金沢市、西南部は白山市とそれぞれ接している。手取川扇状地北東部の扇央から扇端部にかけて南北6.7km、東西4.5km、面積13.56km<sup>2</sup>の町域を有している。近年では、土地区画整理事業が進展するとともに、都市計画道路などの整備が進み、より一層の市街地の拡大をみせている。このような発展の中で人口も増え続け、現在では約45,000人を数える。

当町を含む石川平野は古代より稲作が発展した地域で、戦後の昭和30年代までの町内の主産業は稲作農業であった。昭和40年代の高度経済成長期以降は、県庁所在地金沢市に隣接した町という地理的条件から商業施設や住宅地の開発が著しくなる。特に、北部の御経塚地区や南部の二納・粟田・新庄地区は大型スーパーなどの立地が相次ぎ、金沢市郊外の小売業の中心地となっている。また、石川県立大学、金沢工業大学などの教育機関も多く、学園町としての性格も持ち合わせている。

現在の野々市町は平坦な地形であるが、古代以前は微高地と微低地が混在する凹凸の多い地形であった。これは手取川から派生する多くの小河川が洪水や氾濫を繰り返すことによって島状地形がつくり出されたからである。野々市町の遺跡の多くは低地と低地の間にある微高地上に所在する。

本書で取り上げる徳用クヤダ遺跡は野々市町の北西部に位置し、徳用町、郷町にまたがって広がる集落跡である。遺跡周辺は昭和30年代まで松金電車が走るのどかな農村風景が広がっていたが、現在では周辺に多くの企業や住宅が建ち並び、土地区画整理事業が着手された今ではその姿は更に大きく変わろうとしている。

### 第2節 歴史的環境

徳用クヤダ遺跡の所在する石川平野東部には縄文時代から中近世までの遺跡が数多く存在する地域である。縄文～古墳時代は標高10m以内の扇状地扇端部に多く立地する。これは、手取川から流れ込んだ伏流水が手取川扇端部で地上に吹き上がり、豊富な水に人々が集まり生活を営んだからである。

縄文時代の主要な遺跡では、3御経塚遺跡が挙げられる。この遺跡は縄文時代後・晚期の大集落跡で、竪穴建物や環状木柱列、多彩な土器・石製品などが出土している。

弥生時代は農耕文化が定着する時代であるが、野々市町周辺では中期まで目立った遺跡は存在しない。後期になってようやく各地で集落が増加していく。町内では3御経塚遺跡・10三日市A遺跡・15押野タチナカ遺跡・18高橋セボネ遺跡などがある。

古墳時代に入ると再び遺跡数は激減する。町域北西端に1御経塚シンデン古墳や8二日市イシバチ遺跡といった前期古墳がいくつか存在するが、集落では56上荒屋遺跡や58額新町遺跡程度しかなく、弥生時代後期とは比較しようがない少なさである。

奈良・平安時代には、手取川扇状地扇央部で政治勢力を背景とした新規開拓が着手される。

7世紀には町内西南端に位置する39末松寺が建立され、それをきっかけに町域南側の扇央部で生産



第3図 遺跡の位置

域の拡大が図られる。それに伴い、30三納アラミヤ遺跡・33粟田遺跡・48下新庄アラチ遺跡・50上林新庄遺跡などの大規模な集落跡が各地で確認されている。

中世に入ると、手取川扇状地の更なる開発に乗り出す在地武士の林氏と富樫氏が台頭してくる。林氏は野々市町南部から白山市鶴来地区にかけて、富樫氏は野々市町東部の高橋川流域からその北方にあたる伏見川流域一带にかけて地盤を築いていった。林氏が活躍する鎌倉時代に、高橋川を天然の要害とした武士の居館跡である24扇が丘ハイゴク遺跡が扇が丘地内出現する。この他、近隣における当該時期の集落遺跡には29三納トヘイダゴシ遺跡がある。

承久の乱(1221)以降、林氏の勢力は衰え、富樫氏が台頭してくる。承久2年(1335)富樫高家は加賀国の守護職に任せられ、その中心地となる守護所(22富樫館跡)を野々市に構えた。館の周辺では家臣団の屋敷(19山川館跡)や市場などの都市的機能をもった場や、墓地やその関連施設など信仰の場があつたことが分かっている。また当該時期の集落遺跡は、10三日市A遺跡・21扇が丘ゴショ遺跡・32三納ニシヨサ遺跡で確認されている。本遺跡の周辺でも8二日市シバチ遺跡・10三日市A遺跡・57横江館跡など多く所在する。

近世に入ると野々市町周辺では金沢城下町の近郊地として各地で農村が点在するようになる。旧徳用村・旧田中村(現在の郷町の前身)も稻作を主体とした農村である。両村を含めた周辺はまくわ瓜の産地で、田中瓜として加賀藩に献上されていた。

近代以降になると、耕地整理が進み、区画が整然とし、川排水や農道が完備され、農業発展の基礎ができていった。

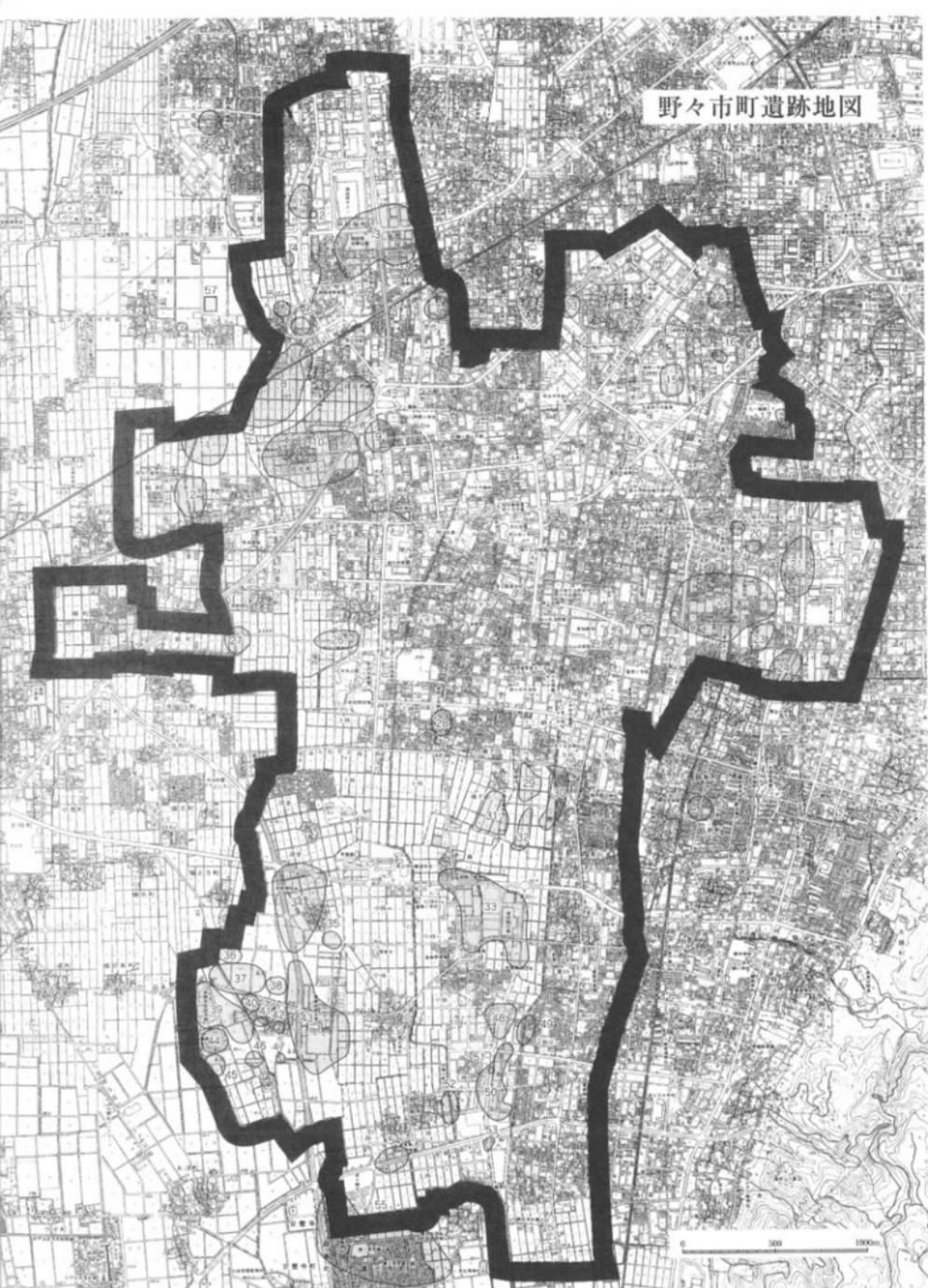
#### 参考文献

- |              |                   |
|--------------|-------------------|
| 「野々市町小史」     | 1953 野々市町役場       |
| 「野々市町史 資料編Ⅺ」 | 2003 野々市町史編纂専門委員会 |
| 「野々市町史 集落編」  | 2004 野々市町史編纂専門委員会 |
| 「図説 野々市町史」   | 2005 野々市町史編纂専門委員会 |

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	御経保シサン遺跡	弥生 古墳 中世 近世	31	勝平田ナカシンギン遺跡	中世
2	御経保シサン古墳群	中世～近世	32	三間ニショサ遺跡	中世
3	御経保遺跡	縄文 弥生 古代 中世 近世	33	粟田遺跡	縄文 古代 近世
4	御経保オツヅ遺跡	弥生 中世	34	清金アガトウ遺跡	縄文 古代 中世
5	長池ニシタホ遺跡	縄文 弥生 古墳 中世 近世	35	末松信濃館跡	古代 中世
6	長池キクノハシ遺跡	弥生 中世 近世	36	末松福正寺遺跡 福正寺跡	古代
7	野代遺跡	縄文	37	末松ダイカン通跡	古代
8	二日市インバチ遺跡	縄文 弥生 中世 近世	38	末松B遺跡	古代
9	三日市シガシタンボ遺跡	古代 中世	39	末松飛鳥寺跡	弥生 古代 中世 近世
10	三日市A遺跡	弥生 古代 中世	40	古元堂熊跡	不詳
11	瀬クボタ遺跡	古代 中世	41	末松C遺跡	古代
12	徳用ケヤク遺跡	古代 中世	42	末松古墳	古墳
13	上宮寺跡	中世	43	末松D遺跡	縄文 古代 中世
14	押野大塚跡	縄文 弥生	44	大館跡	古代 中世
15	押野タチナカ遺跡 押野鐘跡	縄文 弥生 中世	45	末松翁跡	不詳
16	押野ワツワリ通跡	弥生 中世	46	法華寺跡	不詳
17	横川本町通跡	弥生 中世	47	末松シリワん遺跡	古代 近世
18	高檜セボタ遺跡	弥生 古代	48	下新庄アラチ遺跡	古代
19	山川館跡	縄文 中世	49	下新庄タナカジ遺跡	古代
20	高橋ウバガタ遺跡	弥生	50	上林新庄通跡	古代
21	扇が丘シゴン遺跡	弥生 古代 中世	51	上林古墳	古墳
22	富樫館跡	縄文 中世 近世	52	上林テラグダ遺跡	古代
23	扇が丘ヤグラダ遺跡	古代 中世	53	上林庄ニシワラ遺跡	弥生 古墳 古代
24	扇が丘ハイゴク遺跡	縄文 弥生 古代 中世	54	上林遺跡	弥生 古代
25	雷原キリネヤブ通跡	中世 近世	55	安貴寺遺跡	弥生 古代
26	堀内屋跡	縄文 中世 近世	56	安貴寺遺跡	弥生 古代
27	田中ノダ遺跡	弥生 古墳	56	上荒尾遺跡	縄文 弥生 古墳 古代
28	三林殿跡	中世	57	横江館跡	中世
29	三納トヘイダゴシ遺跡	中世	58	額新町通跡	古墳 古代
30	三納アラミヤ遺跡	弥生 中世			

第1表 野々市町と周辺の遺跡

野々市町遺跡地図



第4図 野々市町と周辺の遺跡 (S=1/25,000) (野々市町史資料編1に加筆)

## 第3章 調査の方法と成果

### 第1節 調査の方法

本調査区の試掘調査は、1m×1mの試掘坑を設定する方法で行った。トレンチの箇所は352箇所設定したが、現状が畠地や、水没している箇所などがあり、実際調査を実施できたのは337箇所であった。試掘調査の結果、徳用クヤダ遺跡は総面積20,460m<sup>2</sup>であることが判明し、遺跡内の道路部分と遺跡保護層の確保できない部分を発掘調査することとなった。

発掘調査を行うにあたり、縦張り設定を行い、大型掘削機等で遺構面までの土砂を除去した。掘削作業終了後、グリッド杭の設定を行った。グリッド杭は10m×10mの区画を設定し、算用数字とアルファベットでグリッド番号を表記している。グリッド杭設定後、本格的な調査を開始している。作業の内容は、人力による掘削や各遺構の記録の図示、写真撮影などである。

調査の手順としては、それぞれ設定した調査区ごとに調査を行い、遺構密度の高低はあるものの、各調査区で掘立柱建物、壁穴状遺構、土坑などの遺構を確認した。遺構の土層断面などの記録作業などが完了した後、調査区内の排水作業や清掃を行い、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影と測量を実施、現地での作業を完了した。

整理作業については、出土した遺物を洗浄、記名、接合を行い、残りの良いものを選択して実測作業をし、これらの実測図や、現地で表記した遺構実測図などの製図を行った。

これらの作業完了後、遺物の写真撮影、執筆、図面、写真的レイアウト等を行い、報告書を刊行した。報告書中の遺構図版作成にあたっては、挿図の遺跡平面図に遺構番号を示し、本文中の遺構図の縮尺は、掘立柱建物、柵列1/80、土坑1/40で示した。溝については本文中に1/60断面図のみを掲載した。遺物図版作成にあたっては、縮尺は基本的には1/3で示したが大型の土器や、石塔などは1/6、銭貨は1/2で掲載した。

### 第2節 層序

層序については第5図土層断面模式図を基に説明していく。

図示した模式図は調査区C区の東壁のものである。第1層から第2層は現耕作土で、第3層から第4層は旧耕作土である。場所によっては旧耕作土が耕地整理等により削平されている所もあった。

第5層から第7層は中世の遺構面及び古代以降の包含層と考える。これらの面で詳細な精査を行うべきであったが、遺構検出など作業において時間のかかることが予想されたため、第8層手前まで掘削機で除去した。

第8層は黄色土をベースとする古代以降の遺構面及び地表面である。これより下層は砂礫層となる。

水田耕作土	第1層
水田耕作土(床土)	第2層
旧水田耕作土	第3層
旧水田耕作土(床土)	第4層
灰色(N5/1) 粘質土 (褐色(7.5Y4/4) 全体に認)	第5層
灰色(N5/1) 粘質土 (褐色(7.5YR6/4) 全体に少混)	第6層
褐色(N10V6/1) 粘質土 (褐色(7.5YR6/5) 全体に認)	第7層
黄色(2.5Y8/6) 粘質土 (地山土)	第8層

第5図 土層断面模式図

### 第3節 遺構

本調査では古代と中世の遺構を確認している。古代の遺構はA区東に集中し、掘立柱建物、欄列を確認している。中世の遺構は、密度の高低差が見られるものの、各地区で確認できた。A・B・E区では土坑、溝、ピット等確認できたが遺構密度は比較的低い。C・D・F区では掘立柱建物、堅穴状遺構、欄列など集落地で見られる遺構が集中する。

以下は、各遺構の個別の概要である。なお、堅穴状遺構と土坑については、規模が長軸3m以上のものを堅穴状遺構、以下のものを土坑と区別した。溝については本文中に断面図のみを掲載し、平面図は挿図の徳用クヤダ遺跡平面図に記載している。

#### 掘立柱建物

##### SB01(第6図)

A区北東隅に位置する軸N-8°Wの建物である。北側が調査区外となってしまうため全体の規模は明らかでないが、梁行2間×桁行2間以上の側柱建物である。梁行5.4m×桁行4.3m以上で床面積23.22m<sup>2</sup>以上である。柱穴は円形が主体で直径90~100cm、深さは29~51cmである。遺物はP1から底部に墨書きの見られる土師器塊(1)、上師器内黒塊(2)、P3から土師器壺(4)・P4から小片のため器種は不明だが、土師器、須恵器片、P5から土師器、須恵器片、須恵器壺、P6から須恵器有台壺(3)、土師器壺が出土した。

##### SB02(第6図)

A区調査区南東隅に位置する軸N-8°Wの側柱建物である。南側が調査区外となってしまうため南北の柱列2列を確認した。建物の規模は梁行2間5.2m×桁行3間7.7m以上で、床面積40.04m<sup>2</sup>以上である。直径60~80cm、深さは27~47cmであった。遺物は、P1から上師器底部片、P5から須恵器壺、土師器壺、P6からは上師器片が出土している。

##### SB03(第7図)

A区東側に位置するN-10°Wの側柱建物である。東側柱列とSB02の西側柱列の一部が切り合う形で検出した。SB02と同様、桁行が調査区外となるため南北の柱列2列を確認した。建物の規模は梁行2間5.5m×桁行4間9.3m以上で床面積51.15m<sup>2</sup>以上である。柱穴はほとんどが円形であるが、中には方形のものや歪な形のものも見られる。直径56~118cmで深さは26cm~39cmであった。SB02との切り合いから考えてSB03の方が新しい時期のものと思われる。遺物は、P1、P2から上師器片、P3から土師器片、鉄洋(14)、P4から土師器内黒塊(5~7・9~13)、上師器壺(15)、須恵器壺、土師器壺、P6から土師器片、P7から須恵器壺、P9から土師器内黒塊(8)、P10から須恵器片が出土している。

##### SB04(第8図)

A区中央北側に位置するN-4°Wの側柱建物である。北側が調査区外になるため南北の柱列2列を確認した。梁行1間5.6m×桁行3間7.3mで床面積40.88m<sup>2</sup>になる。直径60~75cm、深さは20~61cmであった。P7はSK03と重複し、切り合いからSK03の方が時期は新しい。遺物はP1から須恵器有台壺、土師器片、P3・P6から土師器片、P4から上師器内黒塊が出土している。

##### SB05(第9図)

A区中央南側に位置するN-5°Eの側柱建物である。南側が調査区外であるため南北の柱列2列を確認した。梁行2間4.9m×桁行5間10.5m以上で床面積51.45m<sup>2</sup>以上になるとと思われる。柱穴は歪な形が目立ち、P9-P10-P11の柱間が他より狭くなる。直径64~110cm、深さは20~55cmであった。遺物はP1から須恵器壺蓋(16)、土師器片が出土している。

##### SB06(第9図)

A区中央南側に位置するN-3°Wの側柱建物である。SB05と重複する。梁行1間4.8m×桁行6.9mで床

面積33.12m<sup>2</sup>である。柱穴は円形で、直径44~70cm、深さは31~64cmであった。P2、P3何れもSB05の柱穴を切っていることからSB06はSB05より時期が新しいと思われる。遺物はP1から須恵器の鉢(18)、P5から須恵器壺(17)が出土している。

#### SB07(第10図)

A区中央のやや西寄りに位置するN-5°Wの側柱建物である。梁行1間4.6m、桁行2間5.4mで床面積24.84m<sup>2</sup>である。柱穴の直径は42~72cmで深さは31~61cmであった。P1-P2柱間、P4-P5柱間はP2-P3柱間、P5-P6柱間より間隔が狭い。SB04、SB05、SB06と重複するか前後関係は不明である。遺物は何れの柱穴からも出土していない。

#### SB08(第10図)

C区南東部の造構密集地に位置する。N-9°Wの東西棟の建物で、梁行1間4.0m×桁行4間11.4mで床面積45.6m<sup>2</sup>である。柱穴の直径は36~51cmで、深さは28~63cmであった。遺物はP7より上師器片が1点出土している。

#### SB09(第12図)

C区南東部の南壁際に位置するほぼ真北を示す側柱建物である。南と東側は調査区外となるため、正確な規模は分からぬが2間以上×2間以上の建物になる。確認できた長さは、南北ライン3.8m×東西ライン4.0mであった。P1、P2はSD08と、P3はSK28と重複し、何れも柱穴の方が時期は古い。柱穴から遺物は出土していない。

#### SB10(第11図)

D区東側に位置するN-7°Wの縦柱建物である。梁行2間4.8m×桁行4間10.2mで床面積48.96m<sup>2</sup>である。柱穴の直径28~66cm、深さは20cm~48cmであった。P1、P2、P6、P11、P12と切り合っているピットがあることから改修を行った可能性がある。遺物はP10より土師器片が1点出土している。

#### SB11(第12図)

D区東側に位置するN-9°Eの側柱建物である。梁行2間3.6m×桁行3間7.1mで床面積25.56m<sup>2</sup>である。柱穴の直径20~50cm、深さは16~52cmであった。遺物は上師器片が1点出土している。

#### SB12(第12図)

D区中央西寄りに位置するN-1°Eの側柱建物である。梁行1間×桁行4間で床面積15.1m<sup>2</sup>である。遺物は出土していない。

#### SB13(第13図)

F区北側SD17西側に位置するほぼ真北を示す側柱建物である。1間×1間で東西ライン4.9m×南北ライン4.5mを測り、床面積22.05m<sup>2</sup>である。柱穴の直径40~58cm、深さは50~73cmであった。いずれの柱穴からも遺物は出土していない。

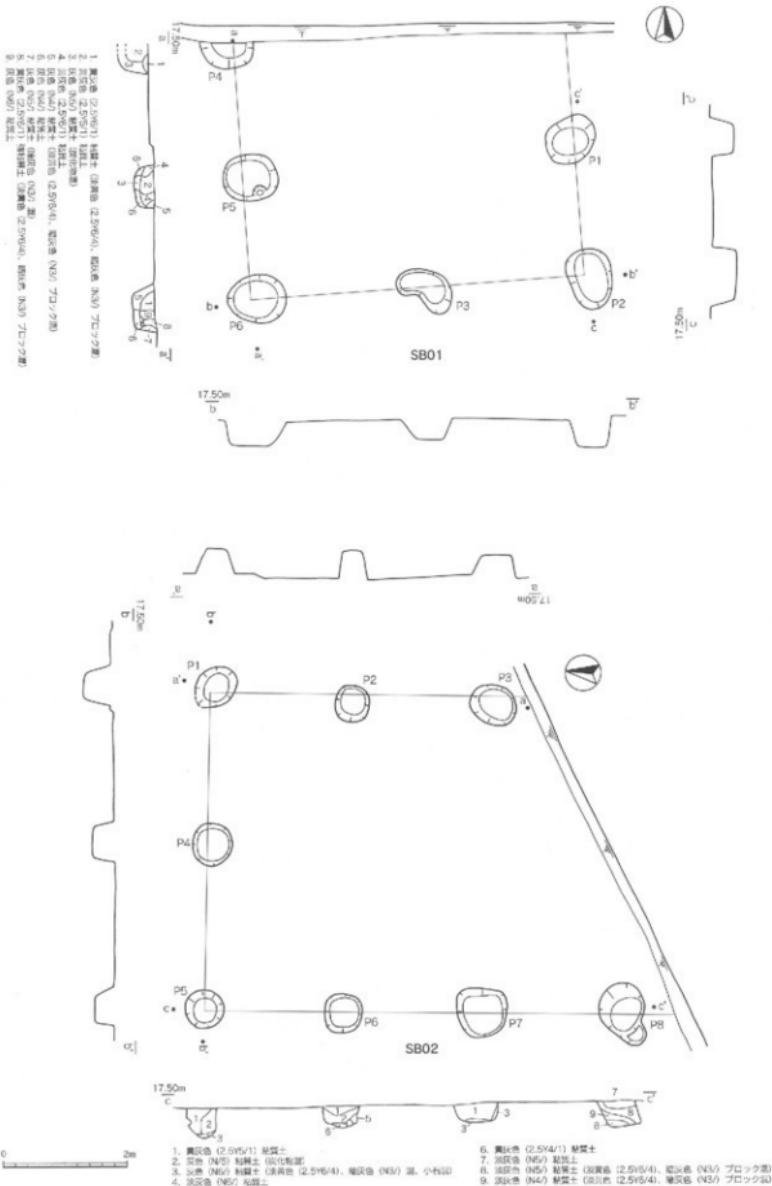
#### SB14(第13図)

F区中央より南側に位置するN-1°Wの縦柱建物である。梁行2間8.4m×桁行4間9.6mで床面積80.64m<sup>2</sup>である。柱穴の直径は36~76cm、深さは17~74cmであった。遺物はP2から珠洲焼のすり鉢(21・22)、P5から土師器皿(23)、P10からは石鉢(20)が出土している。

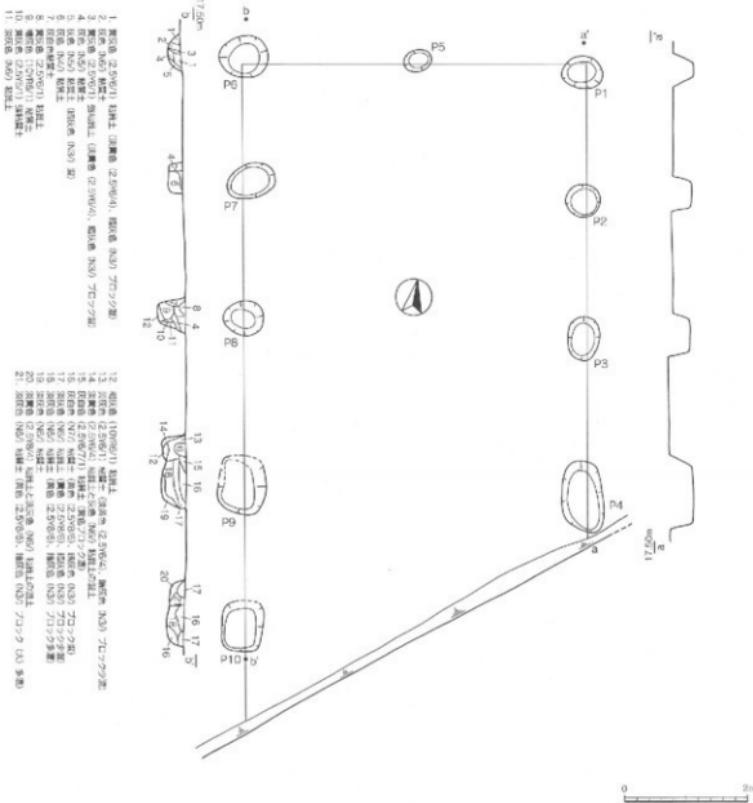
## 柵列

#### SA01(第14図)

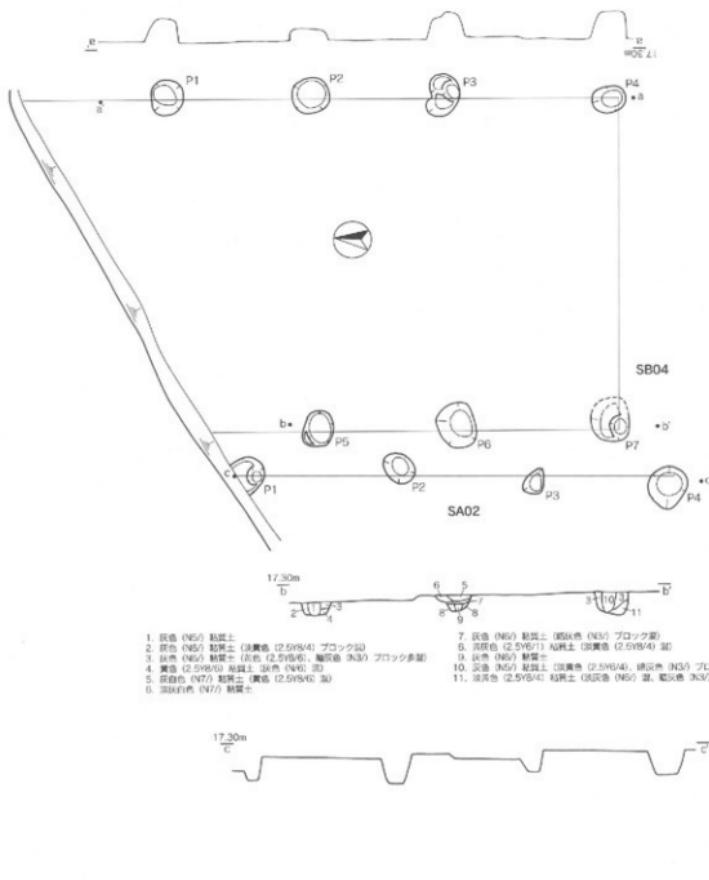
A区SB03の西側に位置する柵列である。柱間はP1-P2間2.3m、P2-P3間2.2m、P3-P4間2.3m、P4-P5間2.3m、P5-P6間2.3mの計11.4mでほぼ同間隔で並ぶ。P3は歪な形をしているが、他の柱穴は円形か楕円形である。柱穴の直径は26~80cm、深さ13~33cmであった。遺物は何れの柱穴からも出土していない。



第6図 A区SB01・SB02透構実測図 ( $S=1/80$ )

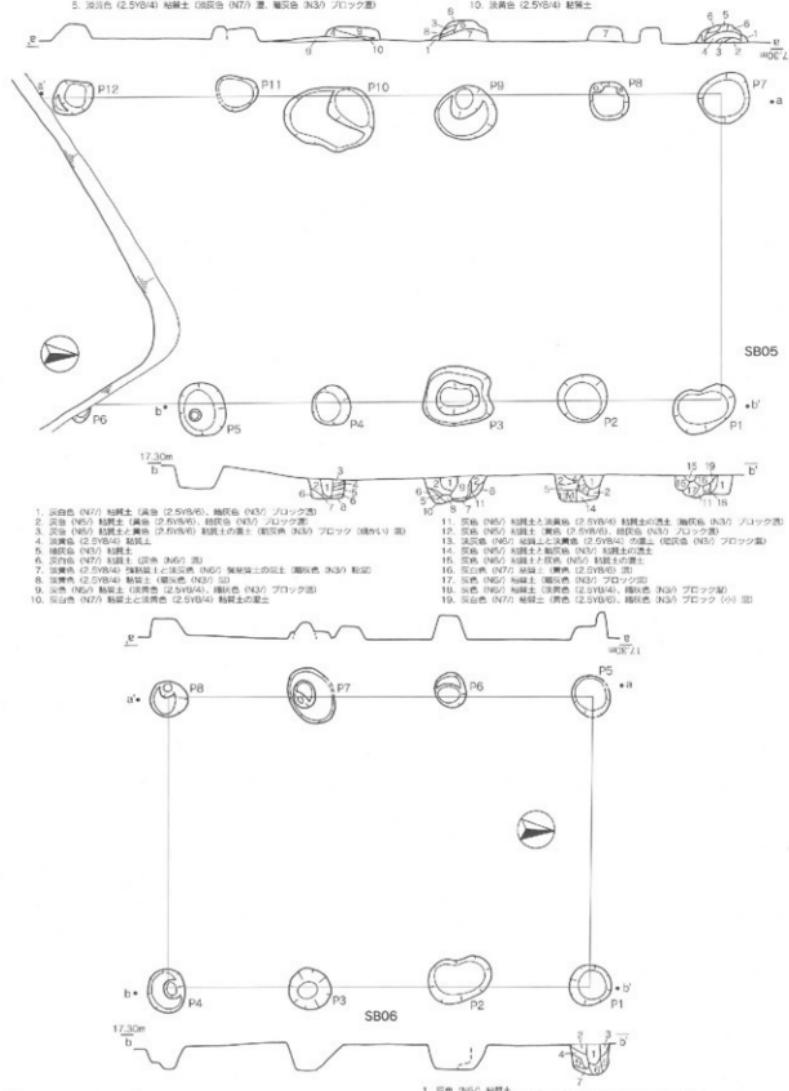


第7図 A区SB03遺構実測図 (S=1/80)

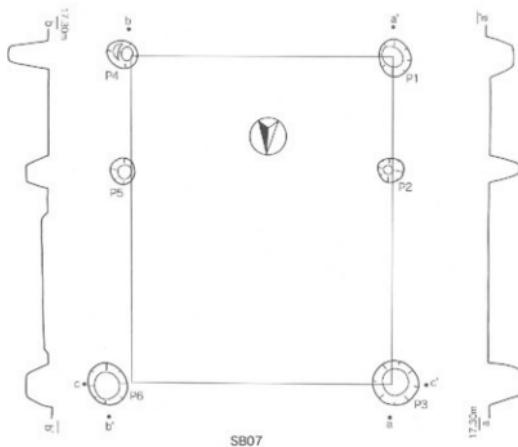


第8図 A区SB04・SA02透構実測図 ( $S=1/80$ )

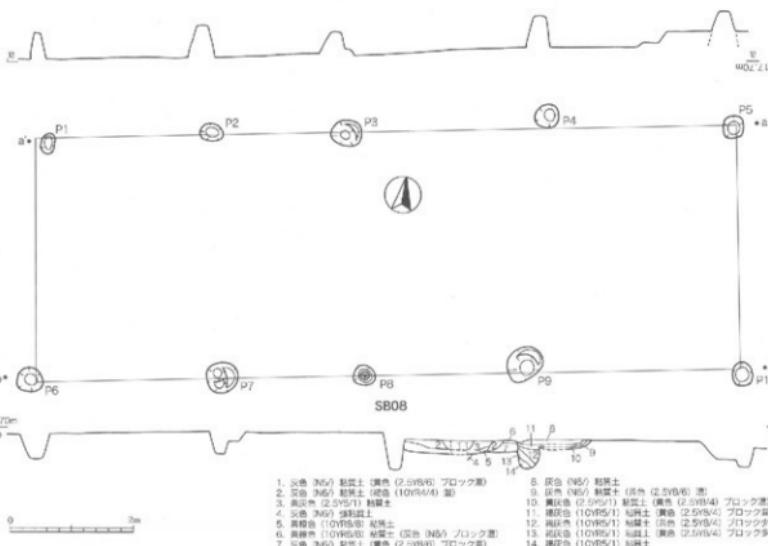
1. 淡黄色 (N7) 砂質土
2. 黄色 (N5) 粘土質と黄色 (2.5V5/6) 粘質土の混土 深黄色 (N3) ブロック (強がり) 土
3. 黄白色 (N4/1) 粘質土・灰質土 (N6) 土
4. 黄白色 (N7) 粘质土・黄土 (2.5Y8/9) 深黄色 (N3) ブロック (強)
5. 淡黄色 (2.5V5/4) 粘质土 (N7) 土・黄白色 (N3) ブロック (強)
6. 淡黄色 (N7) 粘质土 (N7) 土・黄白色 (N3) ブロック (強)
7. 淡黄色 (N5) 粘质土 (黄土 (2.5V5/6) 深黄色 (N3) ブロック (強) 土)
8. 白色 (N1) 粘质土と漂灰土 (N3) 粘质土の土
9. 黄色 (N7) 粘质土
10. 淡黄色 (2.5V5/4) 粘质土



第9図 A区SB05・SB06遺構実測図 (S=1/80)

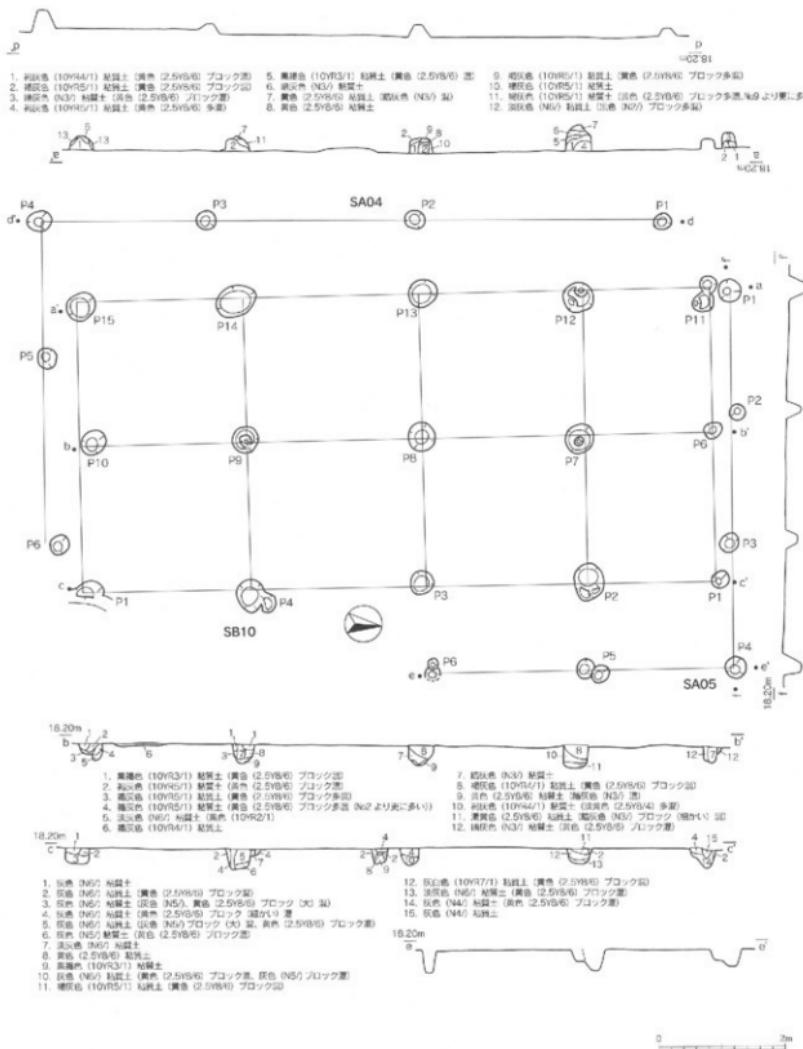


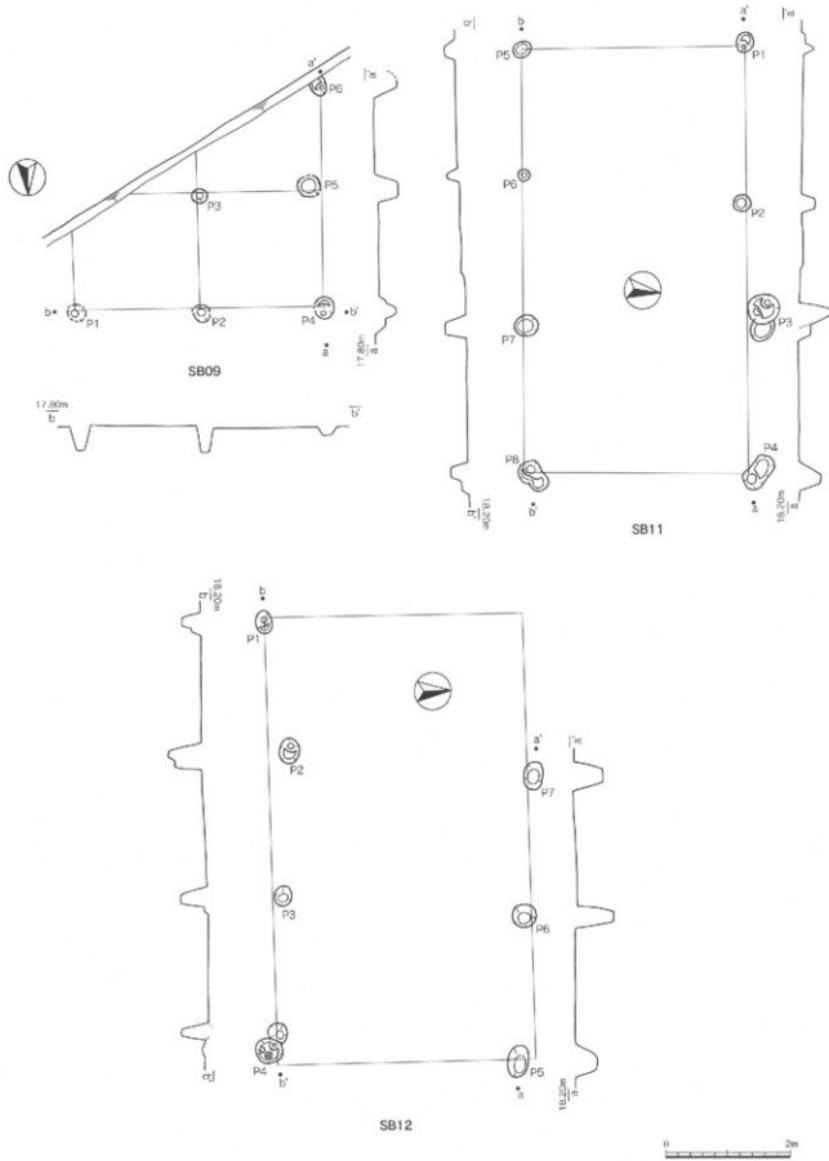
1. 砂岩 (NS5) 砂質土 (黄褐色 (2.5V8/6), 黑褐色 (10V3/1) ブロック層)
2. 砂岩 (NS5) 砂質土 (黄褐色 (2.5V8/6), 黑褐色 (10V3/1) ブロック多層)
3. 砂岩 (NS5) 砂質土 (黄褐色 (2.5V8/6), 黑褐色 (10V3/1) ブロック層)
4. 砂岩 (NS5) 砂質土 (黄褐色 (2.5V8/6), 黑褐色 (10V3/1) ブロック層)
5. 砂岩 (NS5) 砂質土 (黄褐色 (2.5V8/6), 黑褐色 (10V3/1) ブロック層)
6. 砂岩 (NS5) 砂質土 (黄褐色 (2.5V8/6), 黑褐色の層土)
7. 砂岩 (NS5) 砂質土と黒褐色 (NS5) の層土 (黄褐色 (2.5V8/6) ブロック層)



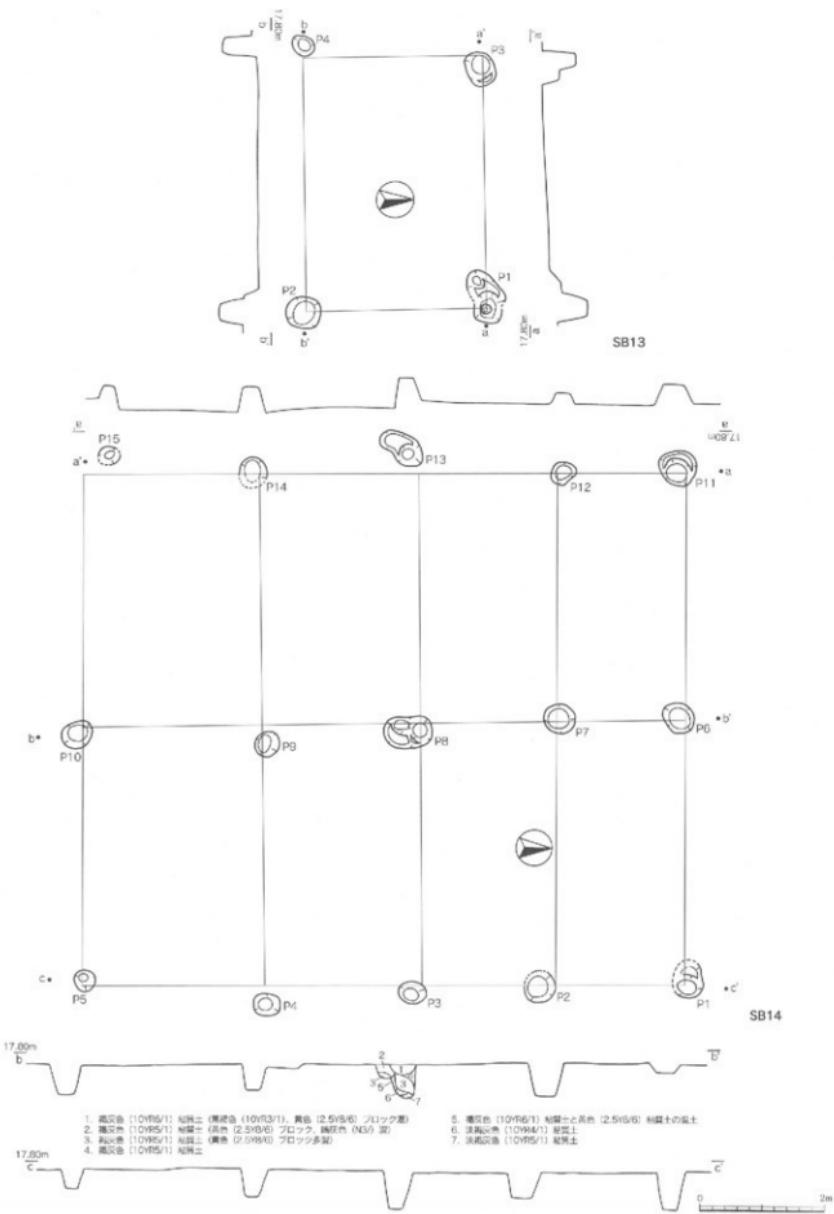
1. 砂岩 (NS5) 砂質土 (黄褐色 (2.5V8/6) ブロック層)
2. 砂岩 (NS5) 砂質土 (黄褐色 (10V3/1) ブロック)
3. 砂岩 (NS5) 砂質土
4. 砂岩 (NS5) 砂質土
5. 砂岩 (NS5) 砂質土 (黄褐色 (2.5V8/6) ブロック層)
6. 砂岩 (NS5) 砂質土 (黄褐色 (2.5V8/6) ブロック層)
7. 砂岩 (NS5) 砂質土 (黄褐色 (2.5V8/6) ブロック層)
8. 砂岩 (NS5) 砂質土 (黄褐色 (2.5V8/6) 層)
9. 砂岩 (2.5V5/1) 砂質土
10. 黑褐色 (2.5V5/1) 砂質土 (黄褐色 (2.5V8/6) ブロック層)
11. 黑褐色 (10V5/1) 砂質土 (黄褐色 (2.5V8/6) ブロック層)
12. 黑褐色 (10V5/1) 砂質土 (黄褐色 (2.5V8/6) ブロック層)
13. 黑褐色 (10V5/1) 砂質土 (黄褐色 (2.5V8/6) ブロック層)
14. 黑褐色 (10V5/1) 砂質土

第10図 A区SB07・C区SB08過構造測図(S=1/80)





第12図 C区SB09・D区 SB11・SB12過構実測図 (S=1/80)



第13図 FZ SB13・SB14遺構実測図 ( $S=1/80$ )

#### SA02(第8図)

A区SB04の西側に位置する柵列である。SB04同様北側が調査区外であったため柱穴4基のみ確認したが、柱穴はさらに北に伸びる可能性がある。柱間はP1-P2間2.4m、P2-P3間2.2m、P3-P4間2.1mの計6.7mを測る。直径38~68cm、深さ37~52cmであった。P2からは土師器内黒塊の底部(19)が出土している。

#### SA03(第14図)

C区中央南壁寄りに位置する。P1-P2間1.1m、P2-P3間2.8m、P3-P4間2.0mで、深さは35cm~75cmであった。何れの柱穴からも遺物は出土していない。

#### SA04(第11図)

D区SB10の南辺と西辺を囲むように位置する。4基の柱穴を確認した。柱間はP1-P2間4.0m、P2-P3間3.4m、P3-P4間2.7mの計10.1mを測る。柱穴の直径は28~40cm、深さ12~28cmであった。遺物は出土していない。

#### SA05(第11図)

D区SB10の北辺と東辺を囲むように位置する。柱間はP1-P2間2.0m、P2-P3間2.2m、P3-P4間2.0mで東西ライン6.2mを測る。南北ラインはP4-P5間2.4m、P5-P6間2.5mで計4.9mを測る。柱穴の直径は24~38cm、深さ15~37cmであった。遺物は出土していない。

#### SA06(第14図)

D区西に位置する。柱間はP1-P2間2.7m、P2-P3間2.0m、P3-P4間1.9m、P4-P5間1.2m、P5-P6間2.3mで計10.1mを測る。柱穴の径は36~52cm、深さは38~61cmであった。何れの柱穴からも遺物は出土していない。

#### SA07(第14図)

D区西に位置し、SA06の南に位置する。

柱間はP1-P2間1.6m、P2-P3間2.0m、P3-P4間1.8mで計5.4mを測る。柱穴の径は28~40cm、深さは25~43cmであった。遺物は出土していない。

### 豊穴状遺構

#### SI01(第15図)

A区調査区西壁際に位置する。南北3.2m×東西1.66m以上で、最深部は44cmを測る。北側に29cmのテラスを一段有し、南側を更に深く掘りこんでいる。遺物は土師器皿(24・25)、珠洲焼すり鉢(26・27)などが出土している。

#### SI02(第19図)

B区南東、SK11の東に切り合って位置する。重ではあるが東西に長い楕円形をしている。長軸3.8m×短軸1.56mで、深さは最深部で29cmであった。遺物は珠洲焼すり鉢(28)、土師器皿(29)、青磁壺(30)、青磁碗(31)、瀬戸美濃天日碗底部(円盤状陶製品)(32)などが出土している。

#### SI03(第15図)

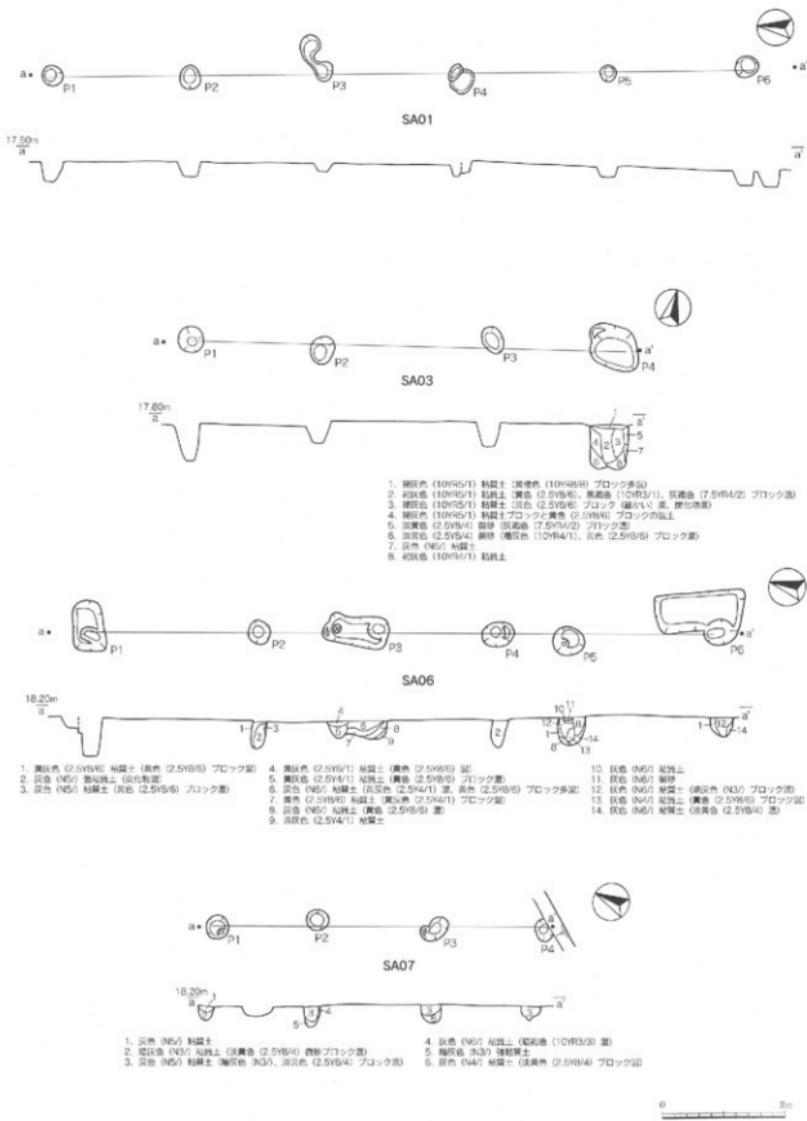
C区東側に位置する。SD03・04・05と重複するため、プランは明確ではない。遺物は土師器皿(33)、鉄釘、瀬戸美濃片、青磁片が出土している。

#### SI04(第21図)

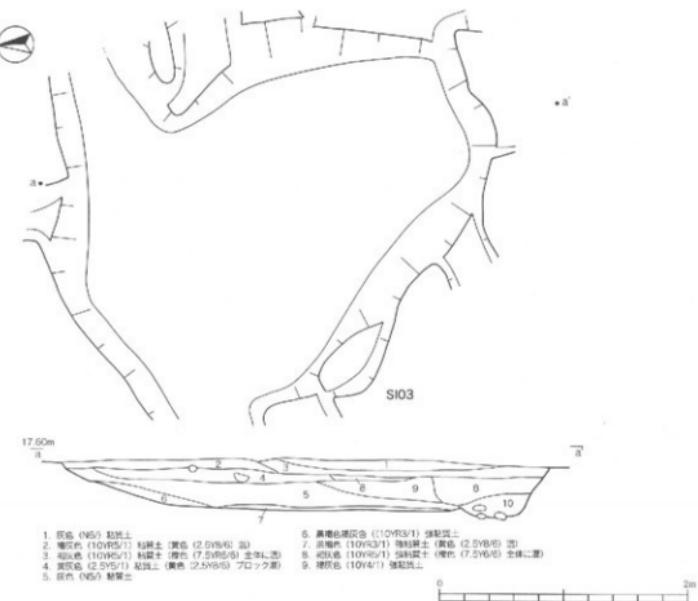
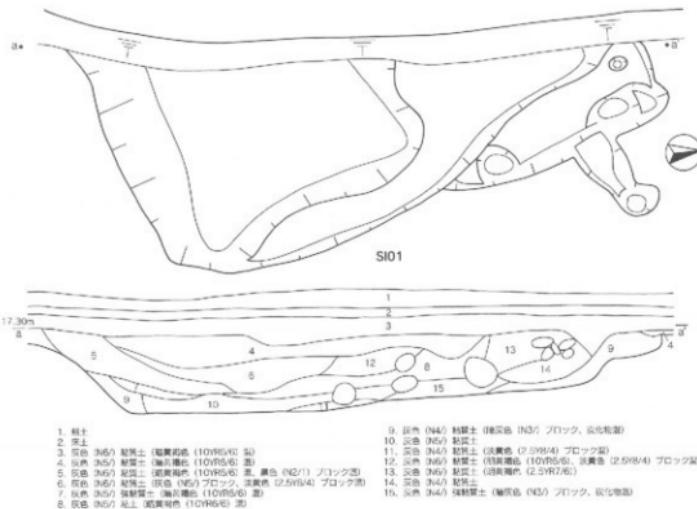
C区南東部に位置する。後世の擾乱により一部は壊されている。長軸3.7m×短軸2.18mの長方形で、深さ22cmを測る。遺物は土師器片、珠洲焼片、青磁片、繩文土器片が出土している。

#### SI05(第16図)

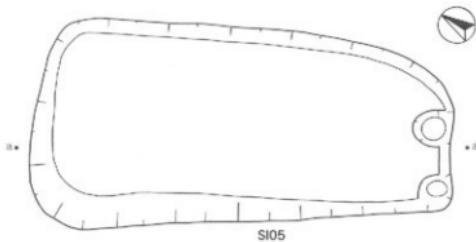
D区中央西よりに位置する。隅丸長方形プランで、長軸3.4m×短軸1.6mで、深さは17cmであった。内



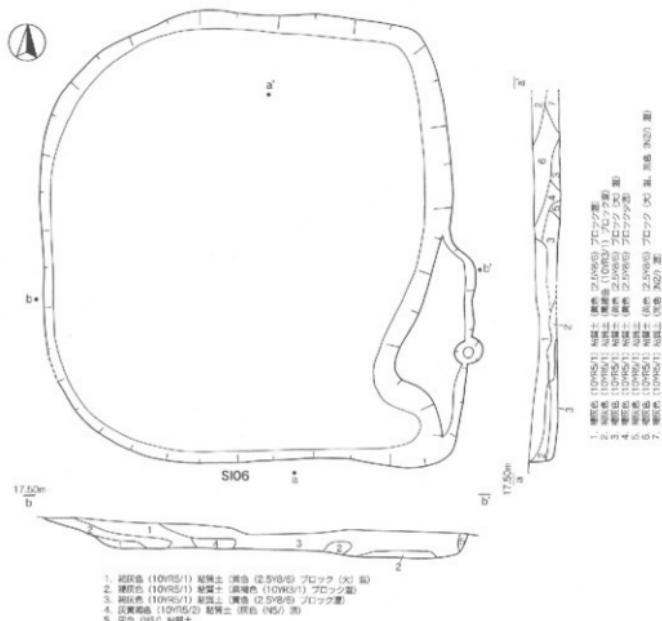
第14図 A区SA01・B区SA03・D区SA06・SA07遺構実測図(S=1/80)



第15図 A区SI01・C区SI03造構実測図 (S=1/40)



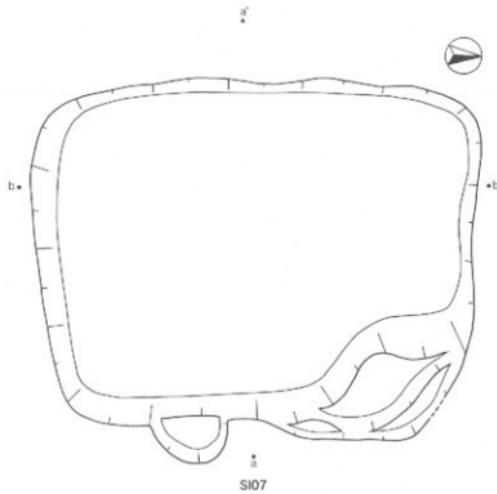
1. 黄砂 (N65) 粘土質 (泥化粘土)  
 2. 黄砂 (N65) 粘土質 (泥化粘土) 1段, 黄砂 (2.5W4/1) 層, 黄砂 (2.5W5/6) ブロック層  
 3. 黄砂 (N65) 粘土質 (泥化粘土) 2段, 黄砂 (2.5W4/1) 層, 黄砂 (2.5W5/6) ブロック層  
 4. 黄砂 (2.5W5/6) 粘土質 (泥化粘土) ブロック層



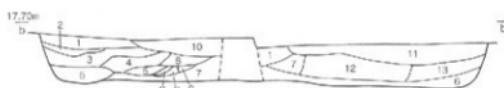
1. 岩状砂 (10W5/1) 粘土質 (泥化) ブロック (大) 層  
 2. 岩状砂 (10W5/1) 粘土質 (泥化) (10W3/1) ブロック層  
 3. 岩状砂 (10W5/1) 粘土質 (泥化) (2.5W5/6) ブロック層  
 4. 岩状砂 (10W5/1) 粘土質 (泥化) (2.5W5/6) 層  
 5. 黄砂 (N65) 粘土質



第16図 D区SI05・F区SI06遺構実測図 (S=1/40)



1. 黄色 (2.5V8/6) 和頁土、灰岩 (N6) 墓、礫岩巖 (10V8/4/1) ブロック層  
 2. 細灰岩 (10V8/6/1) 和頁土 (黄色 (2.5V8/6) 多量、礫岩巖 (10V8/4/1) ブロック層)  
 3. 黄色 (2.5V8/6) 和頁土 (N6) 墓、礫岩巖 (10V8/4/1) ブロック層  
 4. 黄色 (2.5V8/6) 和頁土 (N6) 墓、礫岩巖 (10V8/4/1) ブロック層  
 5. 黄色 (2.5V8/6) 和頁土 (N6) 墓、礫岩巖 (10V8/4/1) ブロック層  
 6. 黄色 (N6) 和頁土 (N6) 墓、黃色 (2.5V8/6) ブロック層  
 7. 黄色 (N6) 和頁土  
 8. 黄色 (N6) 和頁土 (黄色 (2.5V8/6) ブロック (細かい) 多量)  
 9. 細灰岩 (10V8/6) 和頁土 (黄色 (2.5V8/6) 多量)  
 10. 細灰岩 (10V8/6) 和頁土 (黄色 (2.5V8/6) 多量)  
 11. 黄色 (N6) 和頁土 (黄色 (2.5V8/6) ブロック層)



1. 黄色 (2.5V8/6) 和頁土 (N6) 墓  
 2. 細灰岩 (10V8/6) 和頁土 (黄色 (2.5V8/6) 多量)  
 3. 黄色 (2.5V8/6) 和頁土 (N6) 墓、礫岩巖 (10V8/4/1) ブロック (細かい) 多量  
 4. 黄色 (N6) 和頁土 (黄色 (2.5V8/6) ブロック (細かい) 多量)  
 5. 黄色 (N6) 和頁土 (黄色 (2.5V8/6) 少量)  
 6. 黄色 (N6) 和頁土  
 7. 黃灰色 (N3) 和頁土  
 8. 黃灰色 (N3) 和頁土 (黄色 (2.5V8/6) 因)  
 9. 黄色 (2.5V8/6) 和頁土 (N6) 墓、礫岩巖 (10V8/4/1) ブロック層  
 10. 細灰岩 (10V8/6) 和頁土 (黄色 (2.5V8/6) 多量、和頁土)  
 11. 黄色 (10V8/6) 和頁土 (黄色 (2.5V8/6) 墓、礫岩巖)  
 12. 黄色 (N6) 和頁土 (黄色 (2.5V8/6) 因)  
 13. 黄色 (N6) 和頁土 (黄色 (2.5V8/6) ブロック層)



第17図 F区SI07遺構実測図(S=1/40)

部にはピットが2基掘られ、そのうちの1基はSB12の柱穴になる。遺物は出土していない。

#### SI06(第16図)

F区北側壁際に位置する。隅丸方形プランで長軸3.64m×短軸3.33mで深さ28cmを測る。遺物は壺の肩部(34)、砥石(35)、炉縁石(36・37)、鉄滓、土師器皿が出土している。

#### SI07(第17図)

F区中央北寄り、SI06の南東に位置する。隅丸方形プランであるが2基の造構が切り合っているのが土層断面図から確認できた。長軸3.51m×短軸2.75mで最深部57cmを測る。遺物は白磁皿(38)、土師器皿(39~41)、砥石(42)、鉄製品(43)、珠洲焼すり鉢破片などが出土している。

### 土 坑

#### SK01(第18図)

A区のほぼ中央、SB04とSB05との間に位置する長軸2.1m×短軸2.0mで、深さは15cmである。SB05より時期は新しく、遺物は土師器片が出土している。

#### SK02(第18図)

A区の中央SK01の南側に位置する。長軸2.68m×短軸1.12mで深さ24cmである。楕円形で一部にテラスをもつ。土師器皿の小片が出土している。

#### SK03(第18図)

A区のほぼ中央、SK01の西隣りに位置する。長軸2.28m×短軸2.1mで深さは14cmである。プランは隅丸方形であるが南部分が若干広がる。遺物は土師器の小片が出土している。

#### SK04(第18図)

A区中央南側、SB05内で確認した。長軸1.0m×短軸0.74mで深さ59cmである。切り合うピットからは中世土師皿が出土しているのでそれよりも古い時期のものであると思われる。遺物は出土していない。

#### SK05(第18図)

A区中央よりやや西よりに位置する。長軸1.72m×短軸1.62mで、深さは20cmを測る。プランは隅丸三角形である。遺物は出土していない。

#### SK06(第18図)

A区中央よりやや西、SB05・SB06の西側に位置する。SK05と切り合うためプランは明確ではないが、実際には隅丸方形に近い形になると思われる。南北1.64m×東西1.84mで、深さは35cmである。遺物は須恵器壺が1点出土している。

#### SK07(第18図)

A区西側に位置する。プランは東側に広がる楕円形で、東西にテラスを有している。下層の覆土は粘質が強くなる。長軸2.36m×短軸1.64mで、最深部は57cmを測る。遺物は青磁碗(44)と鉄滓(45)、珠洲焼のすり鉢(46・47)、行火(48~50)、が出土している。

#### SK08(第19図)

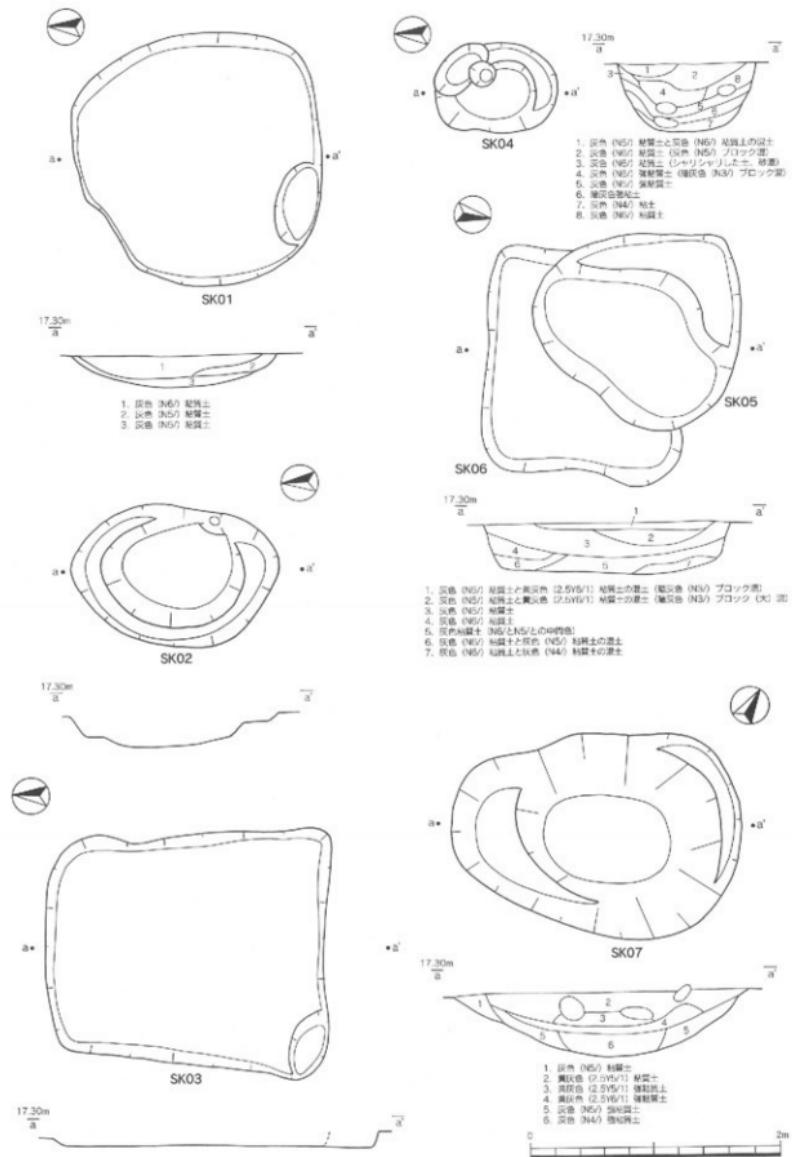
B区北東に位置する。やや歪ではあるが方形プランになる。長軸1.6m×短軸1.4mで、深さは最深部で29cmである。覆土に筋状の炭化物を含む。遺物は土師器皿(51・53)、瀬戸美濃の折縁小皿(52)、瀬戸美濃の直縁大皿(54)が出土している。

#### SK09(第19図)

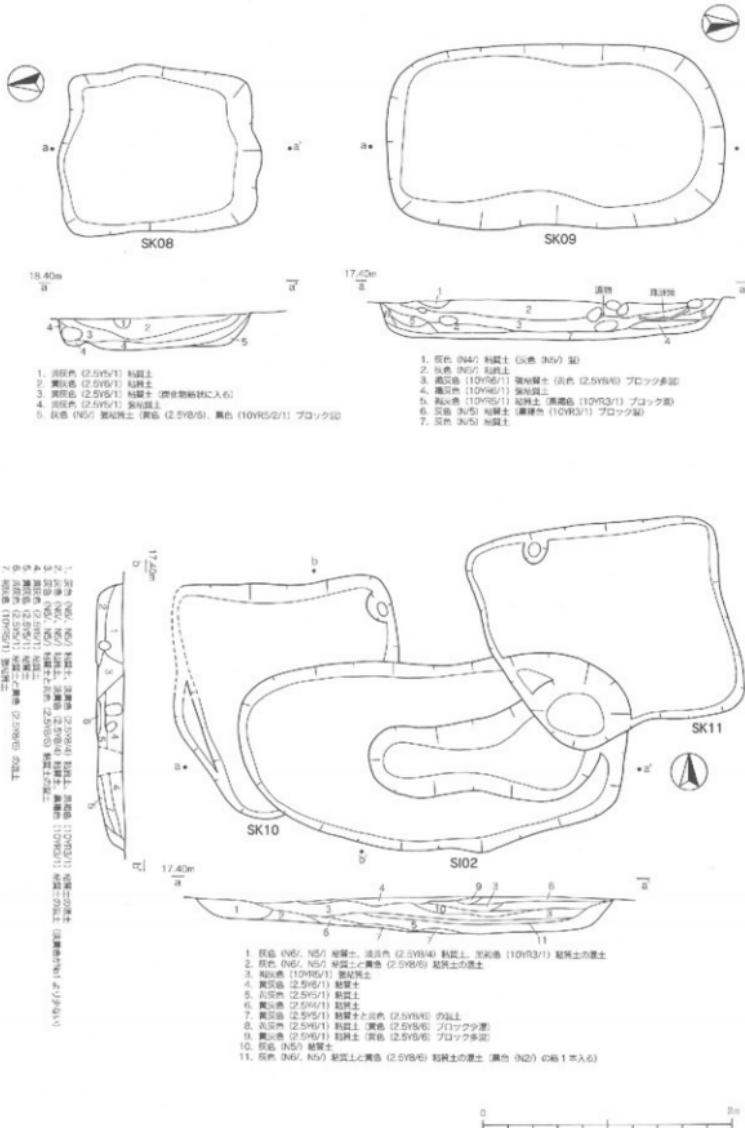
B区南東に位置する長軸2.76m×短軸1.5mの長方形プランで、深さは32cmを測る。遺物は炉縁石(55・56)青磁壺(57)、被熱した石(58・59)、珠洲焼甕(60)が出土している。

#### SK10(第19図)

B区南東に位置する。詳細なプランは分からないが、長軸1.94m×短軸1.8mで、最深部で20cmであつ



第18図 A区SK01・SK02・SK03・SK04・SK05・SK06・SK07遺構実測図(S=1/40)



第19図 B区SK08・SK09・SK10・SK11・SI02過構実測図 (S=1/40)

た。北東隅に深さ4cmのピットを有している。切り合いからSI02よりも古いことが分かっている。遺物は出土していない。

#### SK11(第19図)

B区南東、SI02の東隣りに切り合って位置する。正な方形をしており、長軸2.0m×短径1.84mで、深さは最深部で15cmであった。北西部に深さ13cmのピットを有する。切り合い関係からSI02、SK10よりも時期は新しい。遺物は磁石(61)土師皿(62)、珠洲焼甕が出土している。

#### SK12(第20図)

B区北東、SK10の西隣りに位置する。プランは方形で、長軸1.56m×短軸1.26mで、深さは最深部で26cmを測る。遺物は行火(63)、珠洲焼甕体部が出土している。

#### SK13(第20図)

B区北東、SK12の北隣りに切り合って位置する。形は歪でSK12より時期は古い。東西1.2m×南北1.0m以上で深さは29cmを測る。遺物は炉緑石(64)と珠洲焼甕口縁が出土している。

#### SK14(第20図)

C区北東に位置する。長軸2.68m×短軸2.62mと形状は正方形に近く、深さは最深部で51cmであった。出土遺物は火箸(65)、土師器皿(66)、天目茶碗(67)、槐形洋(68)骨片などが出土した。

#### SK15(第20図)

C区東壁中央付近に位置する。長軸2.44m以上×短軸1.02mで東部は調査区外となるが、長方形プランになると想定される。深さは29cmであった。遺物は土師器皿の小片が出土している。

#### SK16(第20図)

C区SK15の南隣りに位置する。一部は調査区外となるが隅丸長方形になると思われ、長軸1.42m×短軸0.94mで深さ12cmであった。遺物は出土していない。

#### SK17(第22図)

C区南東に位置する。隅丸方形プランで長軸1.82m×短軸1.62mで、深さは58cmであった。遺物は珠洲焼すり鉢の口縁、天目茶碗、青磁の破片、炉緑石が出土している。

#### SK18(第21図)

C区南東部に数基の土坑が切り合っているうちの1基である。長軸、短軸とも1.44mの歪な形をしており、深さは最深部で20cmであった。SB08のP9より古いことが、土層断面から確認できた。遺物は青磁片などが出土している。

#### SK19(第21図)

C区南東部に位置し、SK18と切り合っており、SK18の方が時期が新しいことが土層断面より分かっている。プランは南側が調査区外になるのと、SK18と重複しているため詳細は分からない。遺物は出土していない。

#### SK20(第21図)

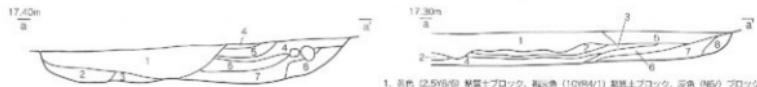
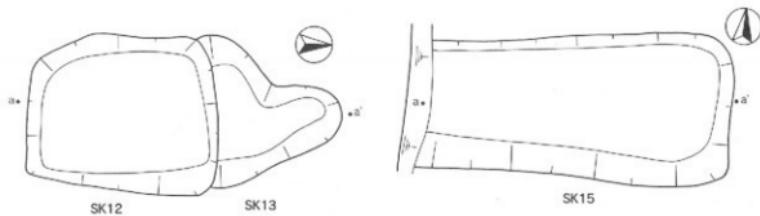
C区南東部に位置し、SK18・19よりも時期は古い。土坑内には17~30cmの深さをもつ3つのピットを有する。形は歪で、北西-南東2.4m×南西-北東2.1m以上で、深さは最深部で32cmを測る。遺物は珠洲焼の体部が出土している。

#### SK21(第21図)

C区南東部に位置し、SK18、SK20、SI04と切り合っているので詳細なプランは確認できない。遺物は出土していない。

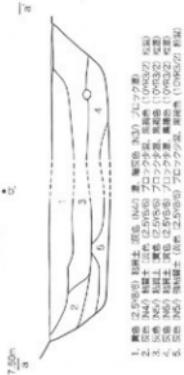
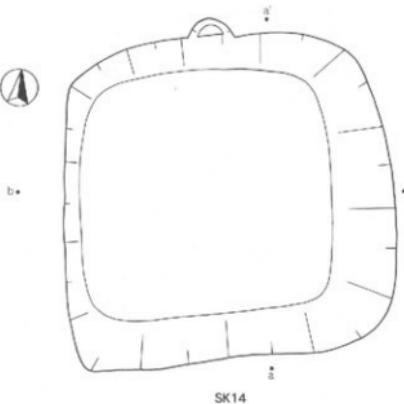
#### SK22(第21図)

C区南東部に位置する。遺構の一角が攪乱により壊されているが形状は方形になる。長軸1.88m×短軸1.84mで深さは12cmを測る。土層断面の状況からSI04よりも時期は新しい。遺物は流れ込みによると思



1. 黄色 (2.5V6) 粘質土、黒褐色 (10VR3/1) 粘質土、灰色 (N6) 粘質土の上。
2. 黄褐色 (10YR5/1) 粘質土、灰色 (N6) 粘質土の上。
3. 黑褐色 (2.5V6) 粘質土。
4. 淡灰色 (2.5V5/1) 粘質土 (黒褐色 (10YR3/1) ブロック部)
5. 黑褐色 (2.5V4/1) 粘質土 (黒褐色 (10YR3/1) ブロック部)
6. 黑褐色 (2.5V6/1) 粘質土。
7. 淡灰色 (2.5V6/1) 粘質土 (淡色 (2.5V6/6) 黑褐色 (10YR3/1) ブロック部)

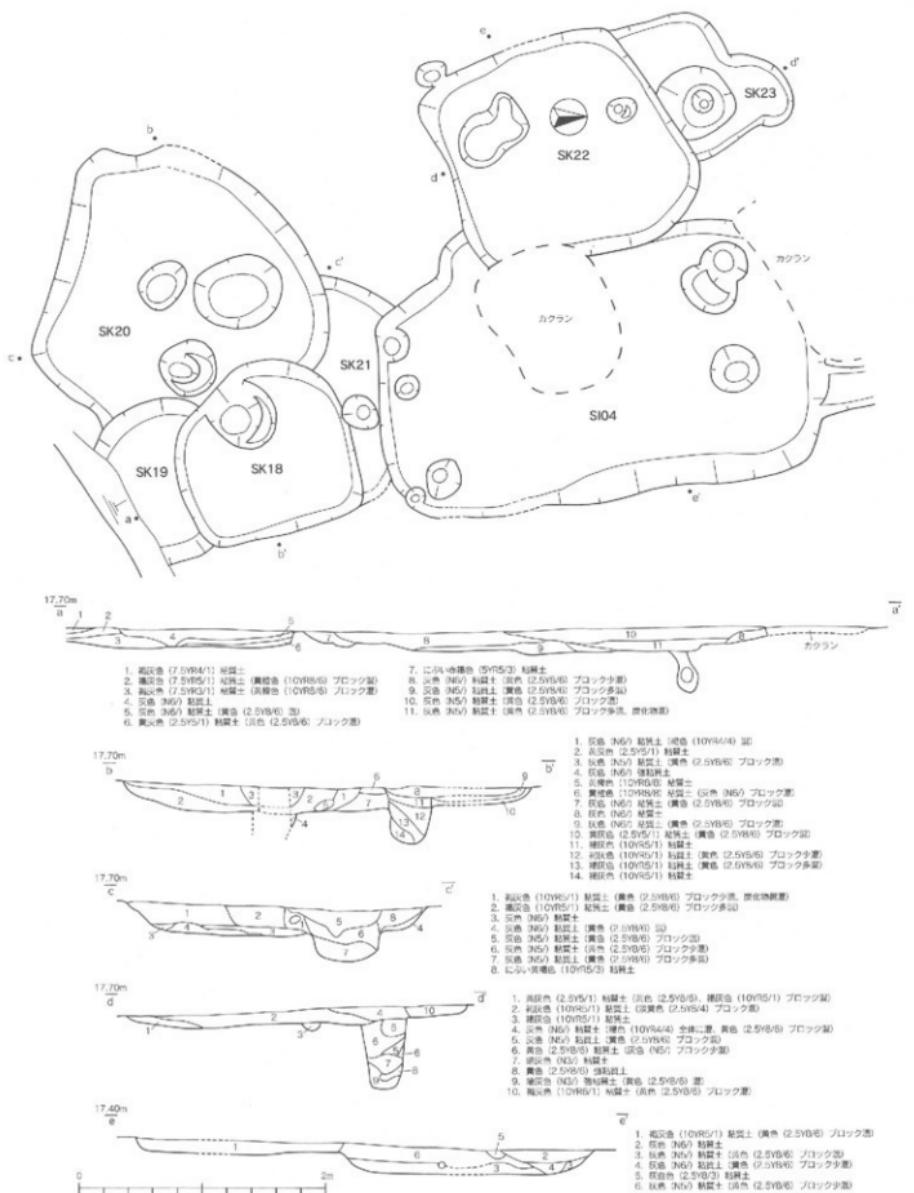
1. 黄色 (2.5V6) 粘質土ブロック、淡灰色 (10YR4/1) 粘質土ブロック、灰色 (N6) ブロックの上。
2. 淡色 (2.5V6) 粘質土。
3. 淡灰色 (N6) 粘質土。
4. 淡灰色 (2.5V6) 粘質土 (黄色 (2.5V8/4) 部)。
5. 黑褐色 (2.5V4/1) 粘質土。
6. 黑褐色 (2.5V6) 粘質土 (黄色 (2.5V6/6) ブロック、淡黄色 (2.5V8/4) 部)。
7. 淡灰色 (10YR4/1) 粘質土。
8. 黄色 (N6) の 黑褐色 (2.5V6/6) の上。



1. 黄色 (2.5V6) 粘質土 (灰色 (N4/4) 部)、淡灰色 (N6) ブロック部。
2. 黑褐色 (2.5V5/1) 粘質土 (小量)。
3. 黑褐色 (2.5V5/1) 粘質土 (黑色 (2.5V6/6) ブロック部)。
4. 黑褐色 (10YR5/1) 粘質土 (黑色 (2.5V6/6) ブロック部)。
5. 黑褐色 (2.5V6) 粘質土 (黑色 (2.5V6/6) 少量)、灰色 (10YR3/2) 黑褐色。
6. 黑褐色 (10YR5/1) 粘質土 (黑色 (2.5V6/6) ブロック、黑褐色 (10YR3/2) ブロック部)。
7. 黑褐色 (2.5V6/1) 粘質土。
8. 黄色 (2.5V6) 粘質土 (灰色 (N6) 部)。
9. 黑色 (N6) 粘質土 (黑色 (N6) 部)。
10. 黑色 (N6) 粘質土 (黑色 (2.5V6/6) ブロック部)、淡黄色 (10YR4/1) 粘質土。
11. 黑色 (N6) 粘質土 (黑色 (2.5V6/6) ブロック部)、黑褐色 (10YR3/2) 粘質土。



第20図 B区SK12・SK13・C区 SK14・SK15・SK16遺構実測図 (S=1/40)



第21図 C区SK18・SK19・SK20・SK21・SK22・SK23・SI04遺構実測図(S=1/40)

われる縄文土器片が1点出土している。

#### SK23(第21図)

C区南東部に位置し、SK22と切りあう。歪な形で中に深さ66cmのピットを有する。土坑の最深部は14cmと浅い。遺物は出土していない。

#### SK24(第22図)

C区中央付近、SB08内の北西隅に位置する。形状は隅丸方形に近いが少し歪な形をしている。長軸1.4m×短軸1.1mで、深さは56cmであった。内部には深さ12cmの楕円形のピットを有している。鉄滓(69)が1点出土している。

#### SK25(第22図)

C区中央付近、SB08内の南西に位置する。形状は直径1.18mの歪な円形で、深さは26cmであった。覆土は自然に堆積したようである。遺物は行火(70)が出土している。

#### SK26(第22図)

C区中央南寄りに位置する。SD08とは切り合っており、土層断面からSD08の方が時期が新しいことが分かっている。形状は円形に近い楕円形をしており、長軸1.48m×短軸1.32mで、内部には2段のテラスを有し最深部は32cmである。遺物は出土していない。

#### SK27(第22図)

C区中央に位置する隅丸長方形の土坑である。長軸1.32m×短軸0.68mで、深さは31cmであった。最下層の覆土には炭化物が多量に含まれていた。遺物は上師器片数点と椀形滓(71)が1点出土している。

#### SK28(第22図)

C区中央SK27の北東隣りに位置する。形状は直径1.38mの歪な円形で深さは42cmであった。覆土には炭化物や灰のようなものが入り混じっていた。尖端はできなかつたが漆器の皿が出土している。

#### SK29(第23図)

C区南西に位置する。SD06と09と切り合っており、SD06より新しく、SD09よりも古いことが分かっている。プランは明確でないが隅丸の方形か長方形になると思われる。東西2.2m×南北2.3m以上になり、深さは28cmを測る。遺物は出土していない。

#### SK30(第23図)

C区南西に位置する。SD09と切り合っており、SD09の方が時期は古い。形状は隅丸方形になると想定する。長軸1.12m×短軸1.06mで深さは31cmを測る。遺物は出土していない。

#### SK31(第23図)

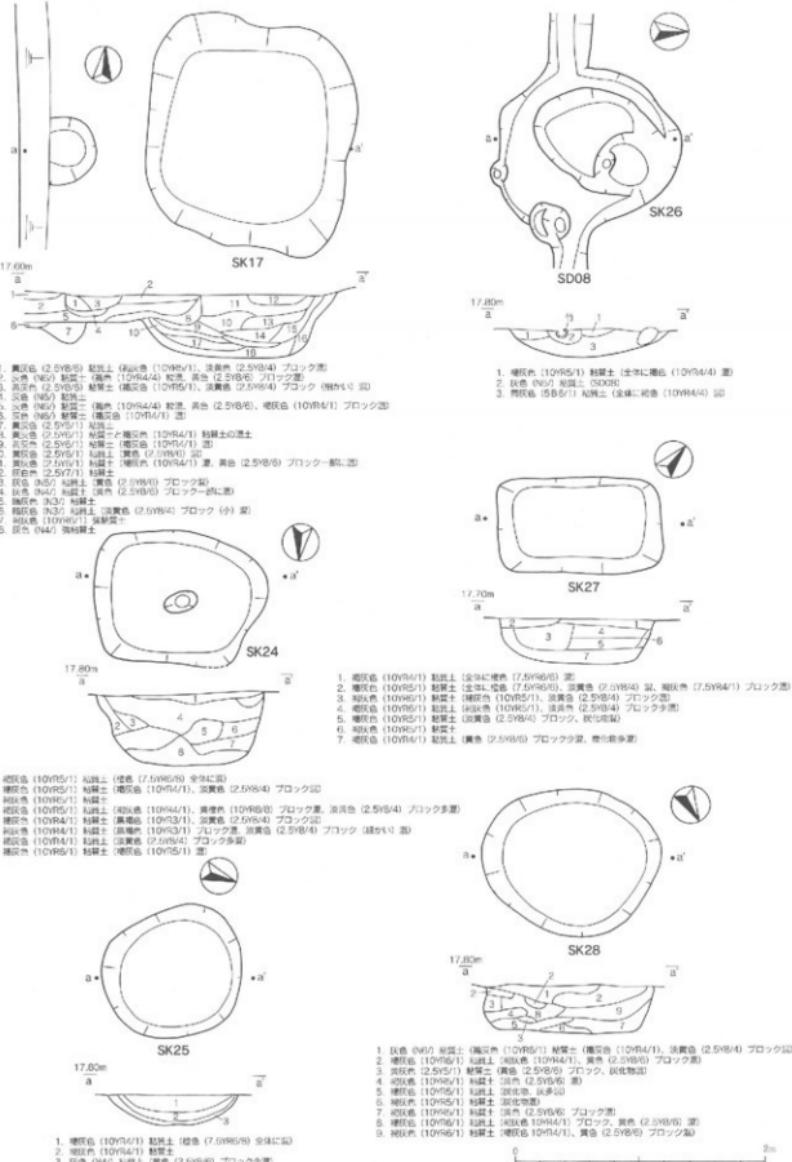
D区東壁際に位置する。東側が調査区壁にかかるため、全体は明らかでない。確認できた部分で南北0.92m×東西0.57m以上で深さは21cmであった。遺物は出土していない。

#### SK32(第23図)

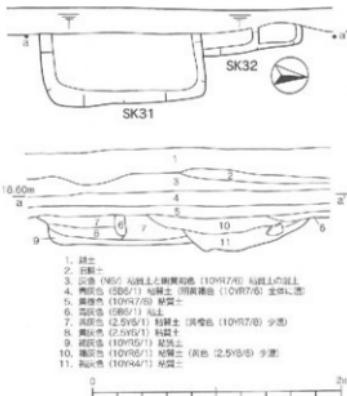
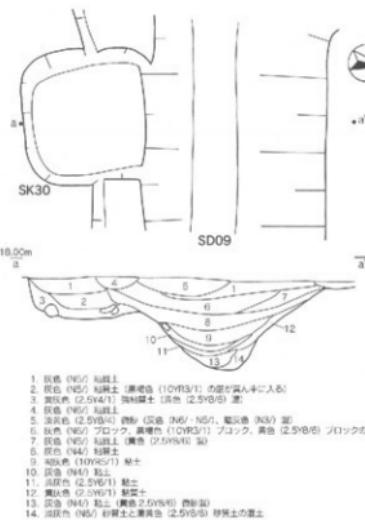
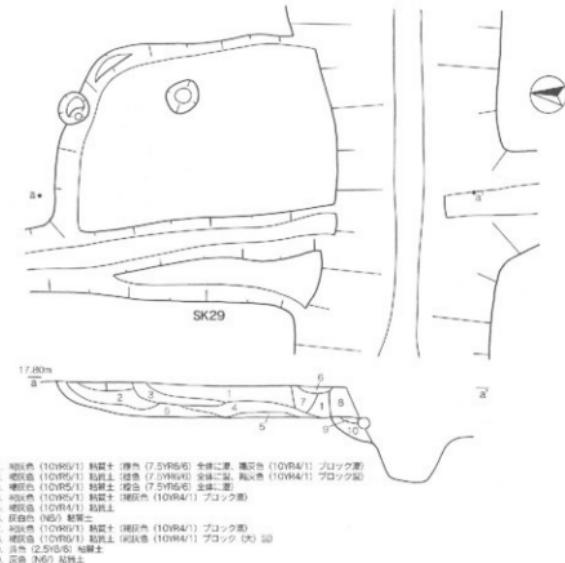
D区東壁間にSK31と切り合って位置する。遺構図上ではSK31の方が時期が新しいが、断面図で確認したところ、SK32の方が時期が新しいことが分かった。SK31同様、東側が調査区壁にかかるため、全体は明らかでない。確認できた部分で南北1.30m×東西0.19m以上で深さは8cmであった。遺物は珠洲焼のすり鉢(72)が出土している。

#### SK33(第24図)

D区南東隅に位置する。遺構のはほとんどが調査区壁にかかってしまうため、詳細なプランは明らかでない。確認できた部分で南北3.27m×東西0.81mの歪な形で、深さは最深部で42cmであった。内部に石が多量に詰まっており、数点の遺物が出土している。遺物は包丁(73)、砥石(74~76)、瀬戸美濃の鉢(77)、が縁石の残欠が出土している。



第22図 C区SK17・SK24・SK25・SK26・SK27・SK28還構実測図 (S=1/40)



第23図 C区SK29・SK30・SD09・D区 SK31・SK32遺構実測図 (S=1/40)

#### SK34(第24図)

D区北西に位置する。SD14・15と切り合っており、SD14よりも古く、SD15よりも新しいことが土層断面から分かっている。覆土には炭化物が多く混じり、最下層には炭化した竹が含まれていた。遺物には土師器皿(78・79)、越前焼の壺(80)、青磁片が出土している。

#### SK35(第24図)

E区東壁際に位置し、東側は調査区外となる。南北1.56m×東西1.7m以上で深さは15cmであった。遺物は土師器片が数点出土している。時期を特定できるものではなかった。

#### SK36(第24図)

E区SK35の西隣りに位置する。1.3m×1.3mの隅丸方形プランで、深さは12cmであった。遺物は青磁片、瀬戸美濃片、土師器皿片が出土している。

#### SK37(第25図)

F区北東に位置する。SD17と切り合っているためプランの詳細は明らかでないが、隅丸方形か長方形になると思われる。南北2.3m×東西1.34m以上で深さは最深部で18cmであった。遺物は灯明皿の破片が1点出土している。

#### SK38(第25図)

F区中央北のSI07北側に位置する。西南隅が突き出た形状になっており、南北2.31m×東西1.75m(最も突き出たところは2.3m)で深さは最深部で24cmであった。遺物は瀬戸美濃の燭台(81)、砥石(82)、天目茶碗、珠洲焼などの破片が出土している。

#### SK39(第25図)

F区中央に位置する。隅丸方形プランで長軸2.8m×短軸2.21mで14cmの深さをもつ。遺物は出土していない。

#### SK40(第26図)

F区南東に位置する。東西に長い長方形をしている。長軸2.05m×短軸0.85mで16cmの深さをもつ。遺物は炉縁石(83)上師器皿片、瀬戸美濃片が出土している。

#### SK41(第26図)

F区南東隅に位置し、東側は調査区外になる。プランは明らかでないが、南北2.88m×東西1.0m以上で、深さ104cmであった。

#### SK42(第26図)

F区南壁際に位置する。西側に広がる梢円形で、長軸2.3m×短軸1.58m、最深部で30cmの深さをもつ。チラス部の深さは18cmであった。遺物は青磁の皿(84)、珠洲焼甕体部が出土している。

#### SK43(第27図)

F区南西に位置する。歪な方形プランで長軸1.34m×短軸0.95m、深さ26cmである。遺物は青磁碗(85)、珠洲焼すり鉢(86)、瓦質火鉢(87)、土師器片が出土している。

#### SK44(第27図)

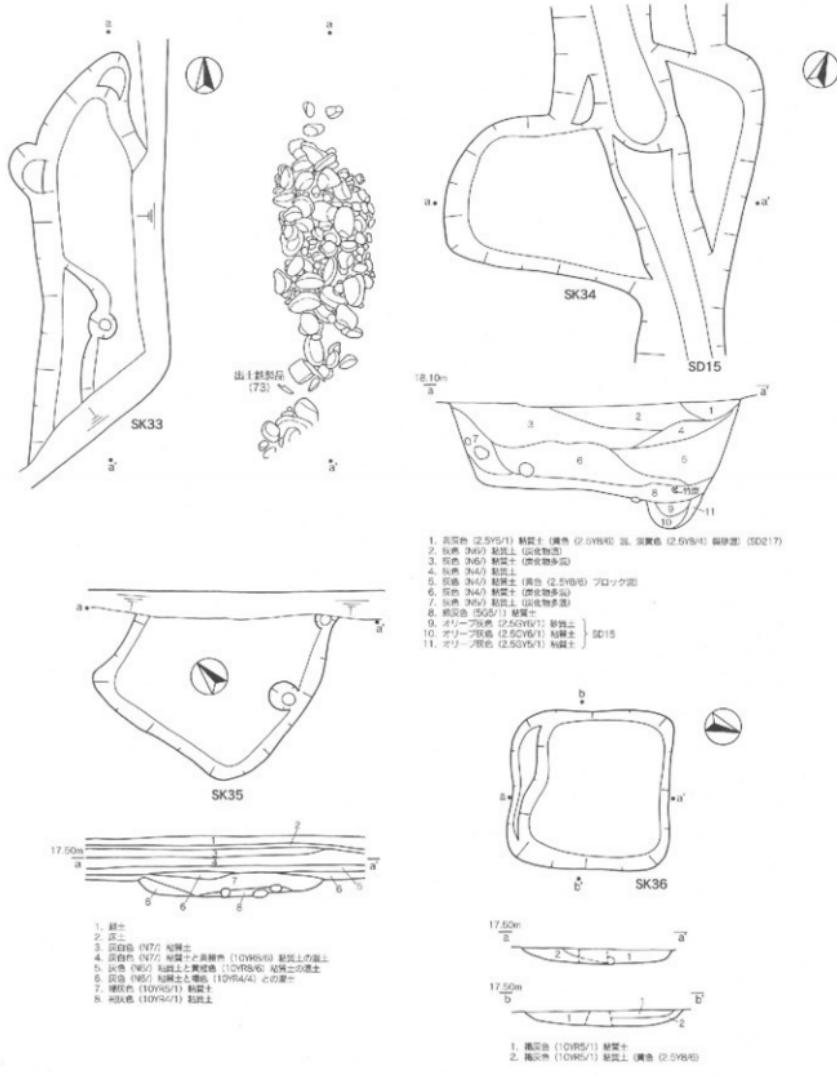
F区南西SK43と切り合って検出された。やや歪な方形プランをし、SK43よりも古いことが土層断面の観察から分かっている。長軸1.56m×短軸1.22m深さ20cmを測る。遺物は炉縁石の残欠と土師器皿の破片が数点出土している。

#### SK45(第27図)

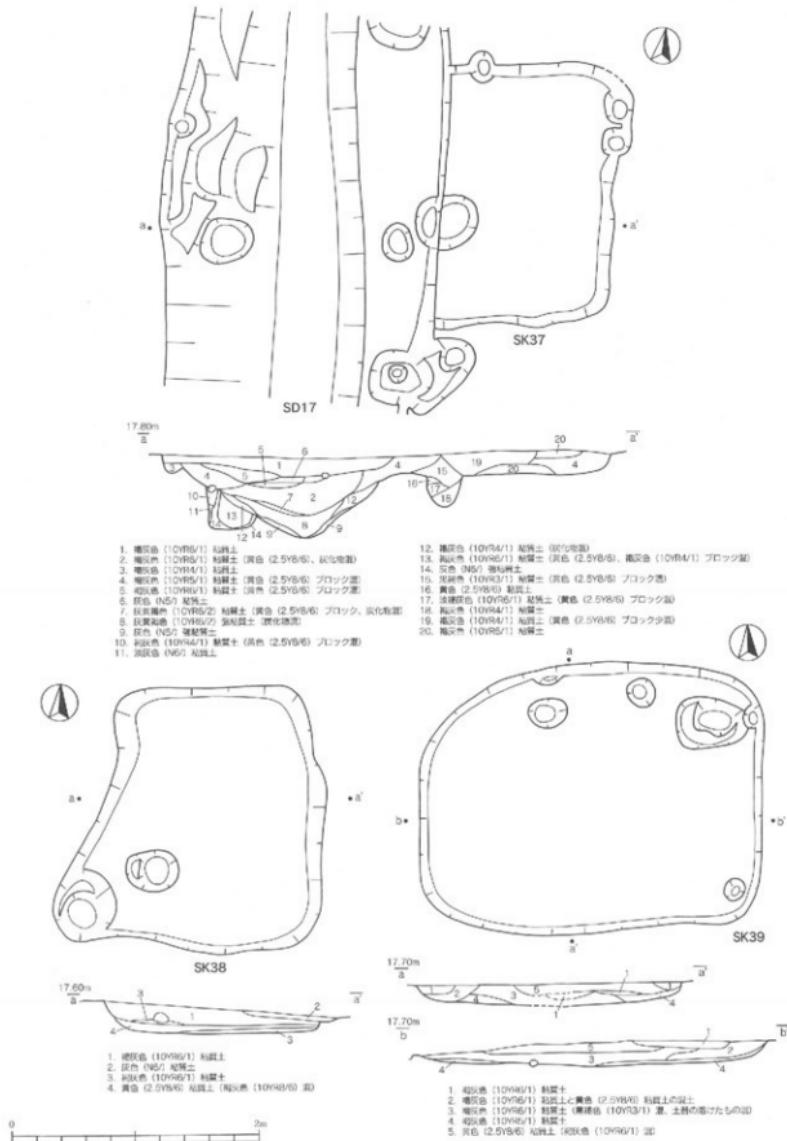
F区南壁間に位置し、一部は調査区外になる。隅丸長方形で、長軸2.38m以上×短軸1.48mで20cmの深さをもつ。遺物は珠洲焼甕の体部が出土している。

#### SK46(第27図)

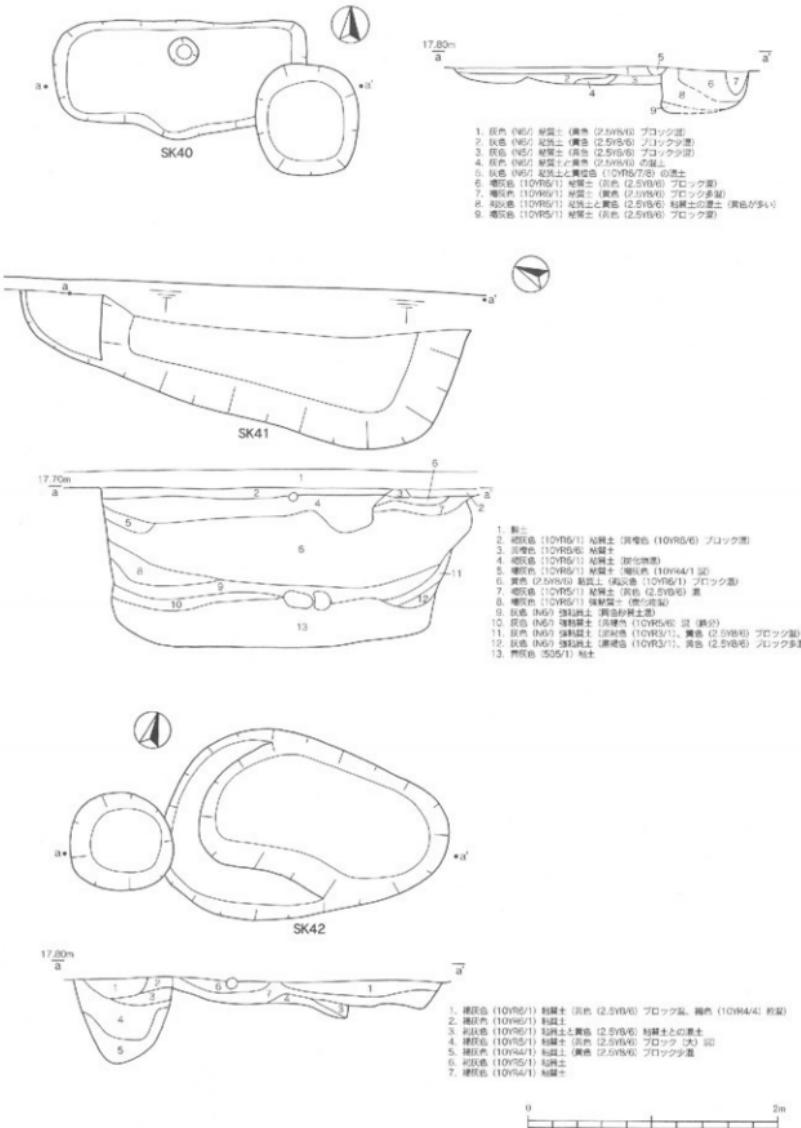
F区南西に位置する。歪な梢円形で長軸1.75m×短軸1.05mで最深部51cmを測る。繩文土器と推される



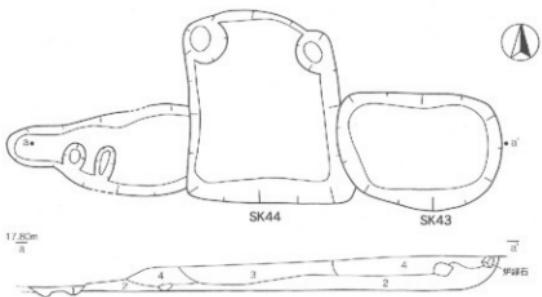
第24図 D区SK33・SK34・SD15・E区SK35・SK36遺構実測図(S=1/40)



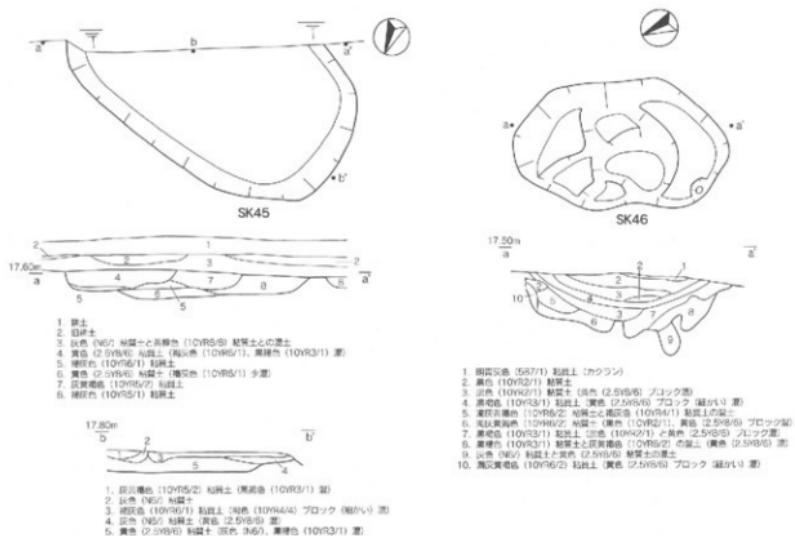
第25図 F区SK37・SK38・SK39・SD17遺構実測図 (S=1/40)



第26図 F区SK40・SK41・SK42遺構実測図(S=1/40)



1. 灰岩 (10YR5/1) 粘土
2. 礁灰岩 (7.5YR5/1) 粘土上 [薄色 (2.5Y5/6) ブロック層, 壳化石多量, 土苔の発達したもの]
3. 礁灰岩 (10YR5/1) 粘土上 (生物少) (薄色 (10Y7/6/4) 粘土)
4. 礁灰岩 (10YR4/1) 粘土上 (生物少) (薄色 (10Y7/6/4) 粘土)



1. 粘土
2. 礁灰岩 (10YR5/1) 粘土上 [薄色 (2.5Y5/6) ブロック層]
3. 正色 (10YR2/1) 粘土上
4. 礁灰岩 (10YR5/1) 粘土上 [薄色 (2.5Y5/6) ブロック層]
5. 礁灰岩 (10YR5/1) 粘土上 [薄色 (2.5Y5/6) ブロック層]
6. 礁灰岩 (10YR5/1) 粘土上 (薄色 (10YR2/1) 粘土上) [薄色 (2.5Y5/6) ブロック層]
7. 礁灰岩 (10YR5/1) 粘土上 (薄色 (10YR2/1) 粘土上) [薄色 (2.5Y5/6) ブロック層]
8. 礁灰岩 (10YR5/1) 粘土上 (薄色 (10YR2/1) 粘土上) [薄色 (2.5Y5/6) ブロック層]
9. 礁灰岩 (10YR5/1) 粘土上 (薄色 (10YR2/1) 粘土上) [薄色 (2.5Y5/6) ブロック層]
10. 礁灰岩 (10YR5/1) 粘土上 (薄色 (2.5Y5/6) ブロック 層)



第27図 F区SK43・SK44・SK45・SK46遺構実測図 (S=1/40)

遺物が出土している。

## 溝

### SD01(第28図)

B区南西に位置する大溝である。南方から13m進み、東方へ直角に折れ曲がり、23m進んで調査区外に更に伸びていく。溝幅は、西端が調査区外であるため、南北ライン3.8m以上で、東西ラインは2.3m～3.3mを測る。深さは、南北ラインで82cm～108cmで、東側に深さ13cm～37cmのテラスを有する。東西ラインは58cm～83cmと、南北ラインの方が深くなっている。後述するF区SD18と同一の遺構であるが、調査区が異なるため、遺構番号は別とした。遺物は土師器皿(88～95)、青磁皿(96)、青磁碗(97～101)、青磁壺(102)、青磁盤(103～105)、白磁皿(106)、瀬戸美濃口縁部(107)、瀬戸美濃縁袖小皿(108)、瀬戸美濃直線大皿(109～110)、瓦質火鉢(111)、珠洲焼甕(112)、珠洲焼すり鉢(113～121・125)、越前焼甕(122～124)、砥石(126～127)、炉緑石(128・131～133・135～138)、行火(129～130・134)、石斧(139～140)などの遺物が出土している。

### SD02(第28図)

C区北東隅に位置する大溝である。ほとんどが調査区外であるため全容は明らかでないが、確認できている溝幅は最も広いところで6.6m、長さは確認できただけで19mであった。いくつかの溝が切り合っており、深さは東壁際で74cm、北の壁際で77cmを測り、最深部は111cmであった。遺物は土師器皿(141～142)、青磁碗(143)、瀬戸美濃瓶子(144)、瀬戸美濃卸皿(145)、瀬戸美濃平碗(146)、白磁皿(147)、白磁碗(148)、白磁皿(149)、珠洲焼甕(150)、珠洲焼鉢(151～152)、炉石(153)、砥石(154)、打製石斧(155)、炉緑石(156～159)、五輪塔空輪(160)、宝塔基礎石(161)、五輪塔水輪(162～165)、宝篋印塔等(166)などが出土している。

### SD03(第28図)

C区東壁中央から派生する。東壁からの長さは10mで先端はカクランとぶつかるので確認できなかつた。深さは東壁際が一番深く70cmで、西に向かうにしたがってだんだんと浅くなり、西端は29cmであった。SI03と切り合うが、土層断面図からSI03より時期は新しいことが確認できた。遺物は土師器皿(167～168)、青磁盤(169)、珠洲焼すり鉢(170)加賀焼底部(171)、越前焼甕(172)、楕形滓(173～175)、鉄滓(176)、小柄(177)、石臼(178)が出土している。

### SD04(第28図)

SD03同様、C区東壁中央から派生し、東壁から22mの地点で終了する。この溝はSI03、SD03と切り合っており、時期がSI03よりも新しく、SD03よりも古いことが土層断面図から確認できた。

遺物は鉄軸の瓶類底部(179)、炉緑石(180)などが出土している。

### SD05

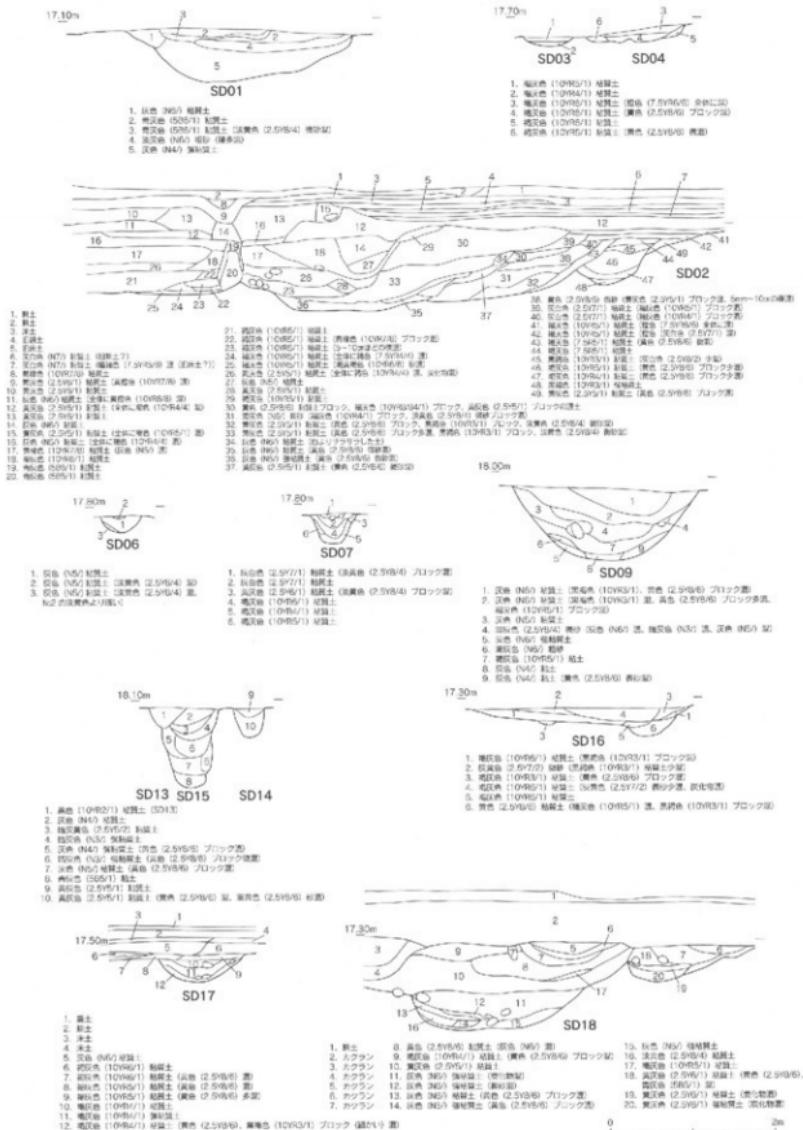
C区に位置する東西溝である。溝幅は50cmで、深さは西側が浅く、東側が深い。最深部で17cmを測る。遺物は珠洲焼甕(182)、鉄製棒状製品(183)、土師器皿(184)が出土している。

### SD06(第28図)

C区中央西寄りに位置する南北溝である。一見するとSD04がクランクして南北ラインになっているようにも見えるが、SD04の西端とSD06の北端は接していない。北端から少しカーブを描いて南下し、SD08、SK29、SD09と切り合ってさらに南下し、調査区外へ抜けていく。溝幅は40cm～100cmで深さは13cm～45cm、南に向かうにしたがって深くなる。遺物は青磁碗の破片と土師器片が出土している。

### SD07(第28図)

C区中央西寄りに位置する南北溝で、SD06と並行して走っている。全長5.5m、溝幅60cmで深さ32cm～37cmを測る。SD08と切り合っており、SD08より時期は古い。遺物は出土していない。



第28図 B区SD01・C区 SD02・SD03・SD04・SD06・SD07・SD09  
D区SD13・SD14・SD15・E区 SD16・F区 SD17・SD18土層断面図(S=1/60)

## SD08

C区南壁より派生する東西溝である。西端は22.5m進んだところでSD09とぶつかる。その間SK28、SD06・07と切り合うが何れの遺構よりも時期は新しい。中には竹が一列に横たわった状態で確認された。本遺跡の主体となる時期よりも新しい時期の晴果であると思われる。遺物は出土していない。

## SD09(第23図・第28図)

C区西に位置する大溝である。北壁から派生し17m南下したところで東に直角に折れ曲がり、14m進んだところで調査区外に抜けていく。溝幅は南北ラインが2.4m、東西ラインが1.7m～1.9mを測り、深さは南北ラインが77cm～93cm、東西ラインが45cm～76cmで、南北ラインの方が深い。遺物は石製品(185)、瓦塔(186)、瀬戸美濃御皿(187)、青磁碗(188)、白磁皿(189)、珠洲焼鉢(190)、珠洲焼すり鉢破片、炉縁石の残欠などが出土している。

## SD10

D区中央付近に位置する。本遺跡の集落が形成される前に南北に流れていた自然河道の上層に流れている近世溝である。遺物は素焼きのすり鉢(191)、蓮華(192)、染付けの碗や皿など出土している。

## SD11

SD10同様D区自然河道の上層にある南北溝である。全長は11mで深さは72cmであった。遺物は打製石斧(193)、青磁碗片、土師器片などが出土している。

## SD12

D区北壁中央部分で一部のみ検出した。北壁から3.0m南下し、直角に折れ曲がり7.0m西に進み、調査区外に伸びていく。溝幅は南北ラインで1.1m、東西ラインは80cm～110cmで、深さは26cm～50cmで、南北ラインから東西ラインに折れ曲がったあたりから徐々に深くなる。遺物は珠洲焼すり鉢(194)、白磁皿片、土師皿片、行火、炉縁石残欠などが出土している。

## SD13(第28図)

D区西側に位置する南北溝である。北壁から10m進んだところでSD15と切り合い、少し折れ曲がるようにして再びSD15とぶつかる。SD13の方がSD15より時期は新しい。溝幅は40cm～50cmと大きく変化することはなく、深さは16cm～34cmを測り、少し低くなってはまた高くなるという若干の高低を繰り返しながら続いているようである。遺物は出土していない。

## SD14(第28図)

D区SD13の西隣りに位置する南北溝である。北壁から5.0m進んだところで、SK34とぶつかり、更にSD15とぶつかって更に南に伸びて調査区外へ抜けていく。各遺構の前後関係は、古い順にSD15、SK34、SD14であることが土層断面図から分かった。溝幅は30cm～50cmを測り、深さは3cm～41cmで、SD15より北は底の深さが3cm～21cmと浅く、SD15より南では40cm前後と深くなる。遺物は出土していない。

## SD15(第24図・第28図)

D区西側に位置する南北溝である。北壁から南壁に向かって北西—南東ラインに走っている。北壁から6.0m進んでSK34、SD14と切り合い、更にSD13と切り合って南壁に抜けていく。溝幅は60cm～110cmで、深さは92cm～132cmで近接する他の溝と比べても深いことが分かる。遺物は炭化した竹や、土師器片が出土している。

## SD16(第28図)

E区に位置する東西溝である。確認できた長さは12.5mで、南壁の手前で途切れる。溝幅は、西壁から5.0mあたりまでは170cm～200cmで、それより東は250cm～280cmと幅は広がる。深さは6cm～22cmを測る。遺物は土師器片、珠洲焼片、青磁片、打製石斧など出土している。

## SD17(第25図・第28図)

F区北東に位置する溝である。南北ライン13mで、ほぼ直角に折れ曲がり2.5mで東西ラインは終了す

る。溝幅は100cm～240cmを測る。内部両側は深さ16cm～32cmのテラス状になっており、底は若干すぼまる様な形状で深さは35cm～61cmを測る。遺物は青磁碗(195)、珠洲焼壺(196)、鉄釘(197)、炉縁石(198)、上師器皿片などが出土している。

#### SD18(第28図)

F区西に位置する大溝である。前述したとおり、B区SD01と同一遺構である。F区調査区を縦断する形で確認した。確認できた長さは21mであった。東側に溝幅60cm～100cm、深さ31cm～62cmの小溝が並行して走っており、大溝よりも時期が古いことが上層断面図から確認できた。大溝の西肩は調査区外となるため確認できたのは一部分のみであった。溝幅は確認できた部分で、2.7m、底の深さは73cm～97cmで南にいくに従って深くなる。西側には底よりも30cm～50cm高い位置にテラスが設けられており、そこから徐々に西肩に向かってレベルが高くなっていくと思われる。遺物は土師器皿(199)、青磁碗(200)、白磁皿(201～202)、瀬戸美濃焼台(203)、瀬戸美濃平碗(204)、輪の羽口(205・206)、炉縁石(207～209)、珠洲焼すり鉢片などが出土している。

#### 不明遺構

##### SX01

B区中央に位置する不整な梢円形で、長軸2.2m×短軸0.9mで深さは最深部でも11cmと浅い。遺物は銭貨(222)が三枚重なった状態で出土している。

## 第4節 遺物

出土遺物については、縄文時代、古代、中世、近世の4時期のものが出土している。

縄文時代については土器片及び打製石斧などの石製品が数点程度である。

古代においては、出土遺物のほとんどがA区からの出土であった。中世では、ほとんどの調査区で確認されており、遺物量も最も多い。12世紀代の遺物も出土しているが、14世紀中頃～15世紀代の遺物が多く、土師器、国産陶器、中国製磁器、炉緑石・砥石などの石製品、五輪塔・宝篋印塔などの石塔、釣・火箸などの鉄製品などが出土している。

### 掘立柱建物・欄列(SB01・03・05～06・14) (SA02) (第29図・第30図)

1～18、20～23は掘立柱建物、欄列の柱穴から出土したものである。

1・2、5～13、19はSB01、03、SA02出土の土師器内黒塗である。磨耗により図示できていないものもあるが、すべて内面にミガキ調整が施されている。

1は底部のみの出土で、底部外面には回転糸切り痕が確認でき、底径は6.6cmを測る。底部外面に墨書きが確認できるが判読するには至らなかった。5は口径が9.0cmと小型のものである。外面は強くナデつけられており、凹凸が目立つ。7は外面の磨耗が著しく、口縁は端反りである。8は口縁に向かって広がるタイプのものである。9は口径が18.8cmと大型のもので、外面にはナデが強く施されている。8同様、口縁に向かって外に広がるタイプのものである。10は7と同様に、口縁が端反りのものである。11は内面口縁付近にミガキの調整が見られる。13は台付きの碗である。3は須恵器の壺で、4は土師器の甕である。15は土師器の瓶の口縁部分で、18は須恵器鉢である。20～23はSB14からの出土である。20は方形の石鉢で、石質は輕石凝灰岩である。辰口の岩本産の石で作られており、瓦質火鉢の模倣品である。21・22は珠洲焼のすり鉢で口縁端部には櫛目波状文が施されている。23は土師器皿で口縁端部が外に広がるタイプである。

### 竪穴状遺構(SI01～03・06～07) (第31図)

24・25・29・33・39～41はSI01～SI03・SI07出土の土師器皿である。24・33・41は口縁端部に灯芯油痕が付着しており、灯明皿に使用したものである。25は京都系の皿で、口径が16cmを測り、外面にはヨコナデ痕が強く残っている。26～28はSI01、03出土の珠洲焼すり鉢で、何れも口縁端部に櫛目波状文が施されている。30～32はSI02出土である。30は龍泉窯で焼かれた青磁の香炉で、釉薬が分厚くしっかりとかけられている。31は青磁の碗で口唇部に丸みを持つ。32は天目茶碗の底部を打ち欠いた円盤状陶製品である。34はSI06出土の瀬戸美濃の壺である。体部外面には崩日が無作為に施されている。35、42はSI06・07出土の砥石である。35は京都鳴滝の中山産土上砥石である。携帯用として持ち歩いていたものである。36～37はSI06から出土した炉緑石である。38はSI07出土の白磁の皿である。口唇部は面取りされており、外面の釉は体部下半で止まる。43は鉄製品で、桜の花びらを模したものにリング状の金具が付けられている。これは手箱などの漆製高級蓋付容器に付けられていた紐留金具と推定される。金具自体が大きめのものであることから、漆器の容器も大型のものであったと思われる。

### 土坑(SK07～09・11～14・32～34・38・42～43) (第32～36図)

44～87は土坑から出土した遺物である。44～50はSK07からの出土で、44は青磁碗で体部外面には鏽迹弁文が施されている。釉はやや厚くかけられ、運弁はやや不明瞭である。漆締ぎの痕跡が見られる。46～47は珠洲焼のすり鉢で、何れも口縁端部に櫛目波状文が施されている。48～50は行火である。49は側壁部分で内面にはノミ状の工具痕が残る。50は右前方部の破片である。台脚が残っており、外外面にノ

ミ状の工具痕が残る。

51～54はSK08からの出土である。51は灯明皿で内外面に灯芯油痕が付着している。52は瀬戸美濃の折縁小皿で底部には回転糸切り痕が見られ、内面全体と口縁端部外面に灰釉がかかっている。口縁を外反させた後で、端部を垂直に引き上げている。54は瀬戸美濃の直縁大皿で、底部内外面には割れた後に被熱したのか煤が付着している。

55～60はSK09からの出土である。55～56は炉緑石である。57は青磁の壺で、30の青磁壺と同一の個体であることが本報告書執筆時に分かった。60は珠洲焼の壺で、頸部が短く口縁端部に挽き出し痕が見られる。

61・62はSK11からの出土で、61は備水産の中磁石である。長辺四面に使用痕が確認できる。

63はSK12からの出土で、行火の残穴で右後部にあたると思われる。内外面にノミ状工具の痕が見える。65～68はSK14からの出土である。65は鉄製火箸でねじれの痕跡が確認できる。67は天目茶碗で口縁部外面に強いナデ痕があり、口縁端部はつまんだように細くなっている。

72はSK32からの出土の珠洲焼のすり鉢で、体部～底部内面は使用痕のため磨耗が著しい。二次的被熱が見られる。

73～77はSK33からの出土である。73は鉄製品の包丁で、先の方は破損しているため確認できなかった。74～76は磁石である。74は福井の常教寺産の中磁石である。石質は非常に滑らかで上質である。75は青灰色をおびた凝灰岩質の砥石で黒く細かい理点が入る。群馬県の上野産のものである可能性がある。76は古代の砥石である。77は瀬戸美濃の鉢である。底径22cmと大型で、底部に糸切り痕を残す。おそらく脚部は三脚になると思われる。

78～89はSK34からの出土である。80は越前焼の壺である。底部内面に自然釉がかかっている。

81・82はSK38の出土である。81は瀬戸美濃の燭台の一部で、鉄軸がかけられている。82は備水産の砥石で、ナタのような刃物を研いだものである。

84はSK42出土の青磁碗である。器壁は厚めで、高台の内側まで釉がかかること。見込み部分の釉は削り取られるが、印花文が認められる。

85～87はSK43からの出土である。87は瓦質の火鉢で体部のみの出土である。外面に1本のみ凸線が確認できる。

#### 溝(SD01～05・09・12・18・19) (第37～49図)

88～140はSD01からの出土である。88～95は土師皿で94には灯芯油痕が残っている。体部外面には工具による凹線が1本巡らされている。96は青磁皿、97～101は青磁碗で99は鶴連弁文の碗である。外面の釉は厚くかかり、内面には茶先の痕が残っている。101は高台内部にまで釉がかけられ、豊付の雜は削り取られている。外面底部付近には僅かではあるが連弁文の文様が確認できる。102は青磁の小壺で龍泉窯で焼かれたものである。103から105は青磁の盤である。103は豊付を含んだ高台内部の途中まで釉がかけられている。104は豊付の途中まで釉がかかるが、削り取られている。105に施された文様は、文様部分を別に作り、貼り付けた後に焼き上げている。確認できる文様は植物の葉部分である。106は白磁の皿で、全体に貫入り入り、口縁端部は面取りされている。108は瀬戸美濃の綠釉小皿で、口縁部の内外面に薄く釉がかけられている。109・110は瀬戸美濃の灰釉直縁大皿である。110の底部内面には煤が付着している。111は瓦質土器の火鉢で、体部に二条の凸線とスタンプ文による文様帶を巡らせていている。112は珠洲焼の甕で、口縁部は短頭で、くの字形状に屈折する。113～121は珠洲焼のすり鉢である。外面に指頭圧痕が残るなど粗雑なつくりのものが多い。117は内面に二次的被熱を受けており、火鉢などに転用したものであろうか。122～124は越前焼の壺、125は越前焼のすり鉢である。126・127は砥石で、127は天草産の中磁石である。128・131～133・135～138は炉緑石である。138は砥石に転用した可能性がある。129・130は

行火で、129は右前方下部で内外面にノミ状の工具痕が残り、130は左前方下部で内面と前方側面にノミ状の工具痕が残る。134は小型の炉緑石である。

141～166はSD02からの出土である。142は灯明皿で内外面に灯芯油痕が確認できる。144は瀬戸美濃の瓶子で、外面と底部内面の一部に灰釉がかかる。145は瀬戸美濃の綠釉御皿で、底部は回転糸切り痕を留め、2本の圧痕が残っている。146は瀬戸美濃の平碗で口縁部を僅かに内湾させ、端部を細くしている。147は白磁皿で、高台部分に3ヶ所の抉り込みと、底部内面には2ヶ所の胎上目を確認できた。148・149は白磁の小杯である。何れも口縁部を外反させている。151・152は珠洲焼のすり鉢で、151には底部内面まで詰目が施されており、底部は静止糸切り痕を留める。153は自然石であるが二次的被熱を受け煤が付着している。154は鳴滝中山産の仕上砥石で、側面が丸みを帯びた形状をしている。本地師が鉋などの工具を研ぐ際に使用したものである。160～166は石塔である。160は五輪塔の空輪で丸みを帯びた形をしているが、安定させるため一部を平坦にさせている。161は宝鏡印塔の基礎である。材質は凝灰岩質で、下から第1段目の高さ18.2cm、幅26cm、2段目の高さ1.8cm、幅21.2cm、3段目の高さ1.6cm、幅18.4cmを測る。162～165は五輪塔の水輪で、球形の上下を切り、最大径を中位におく様式の水輪である。162は最大径27.8cm、高さ16.8cmを測る。円相は直径13.4cmで、刻まれている種子は「パン」である。163は、材質は砂岩質で、最大径31.8cm、高さ23.6cmを測る。円相の右上部分が欠損している。円相は最大径18.2cmで、種子の「キリーク」が刻まれている。164は最大径35.8cm、高さ21cmを測り、出土した水輪の中では径が一番大きい。砂岩質のためもろく、剥離が目立つ。円相や種子は刻まれていない。165は凝灰岩質で、最大径23cm、高さ19.4cmを測る。円相、種子は刻まれていない。意図的であるかは不明であるが、切り口付近が幅約4cm、長さ13cm抉られている。166は宝鏡印塔の笠である。隅飾突起の先端が欠損している。材質は緑色凝灰岩である。

167～178はSD03から出土したものである。167・168は灯明皿である。167の口縁端部から内面のほとんどに油煤が付着している。167は口縁端部内外面に煤が付着しており、体部外面に強いナデを施している。169は青磁の盤の折線状の口縁部である。岡化はされていないが、体部内面にごく僅かではあるが鉢目状の文様が入れられている。173～176は鉄滓で、173～175は楕円洋である。177は銅製の小柄である。178は石臼でほとんどが欠損している。

179～181はSD04からの出土である。179は瀬戸美濃の底部である。鉄粒が施されているが器種などの詳細は不明である。180は炉緑石の台形タイプである。反刃の両端は欠損しており、上面と、側面にはノミ状工具の痕がはっきりと残っている。

182～184はSD05からの出土である。182は珠洲焼の斐口縁部である。短頭で、肩の張り出しが弱い。183は鉄の棒状製品で、火箸の可能性がある。

185～190はSD09からの出土品である。186は瓦塔の屋根部分である。流れ込みによるものと思われる。187は瀬戸美濃の御皿で、口径11.9cmと小型のものである。189は白磁皿の底部で、高台に抉り込み、見込みには胎上目が4ヶ所確認できた。高台内部には墨書き痕が見える。190は珠洲焼のすり鉢で、口縁端部はほぼ水平に仕上げている。

194はSD12からの出土で、珠洲焼のすり鉢である。口縁端部は水平で柳目波状文が施されている。

195～198はSD18からの出土である。196は珠洲焼壺の底部で、胎上は外面が灰白色、内面が褐灰色を呈しており、黒色の粒を多く含んでいる。底部には静止糸きり痕を留めている。197は鉄釘で、頭部を平たく鍛き伸ばしており、先端は折れ曲がっている。

199～209はSD19から出土したものである。201・202は白磁皿で口縁端部が面取りされている。貫入は全体に細かく入る。203は瀬戸美濃で、釉薬が外面は口縁、内面は体部の途中までかけられている。燭台の一部と考えられる。208は石製品で、材質は輕石凝灰岩の炉緑石の破片である。コの字型と二本線の工具痕が残っている。

## 小穴 (P01~12) (第50図)

210~221は小穴から出土したものである。210は内黒塊で、全体に歪みがあるがほぼ完全な形で出土した。底部は回転糸切りの後、ナデ調整を施している。212は風字硯風の方形硯である。比較的大型で、石材は鳴滝産のものである。ほとんどが欠損しているが墨溜まりの一部が残っている。213は鳴滝産の仕上砥石で刀子や包丁を研いでいたと思われる。研ぎ面の横に見える細かい筋は石切のこの削痕である。215・221は台形タイプの炉縁石である。216は鉄製の環状金具で、何かの取っ手として付いていた可能性がある。218は球形をした玉である。製品であるかは不明であるが、遊戯具の一種である可能性がある。

## 不明遺構 (SX01) (第50図)

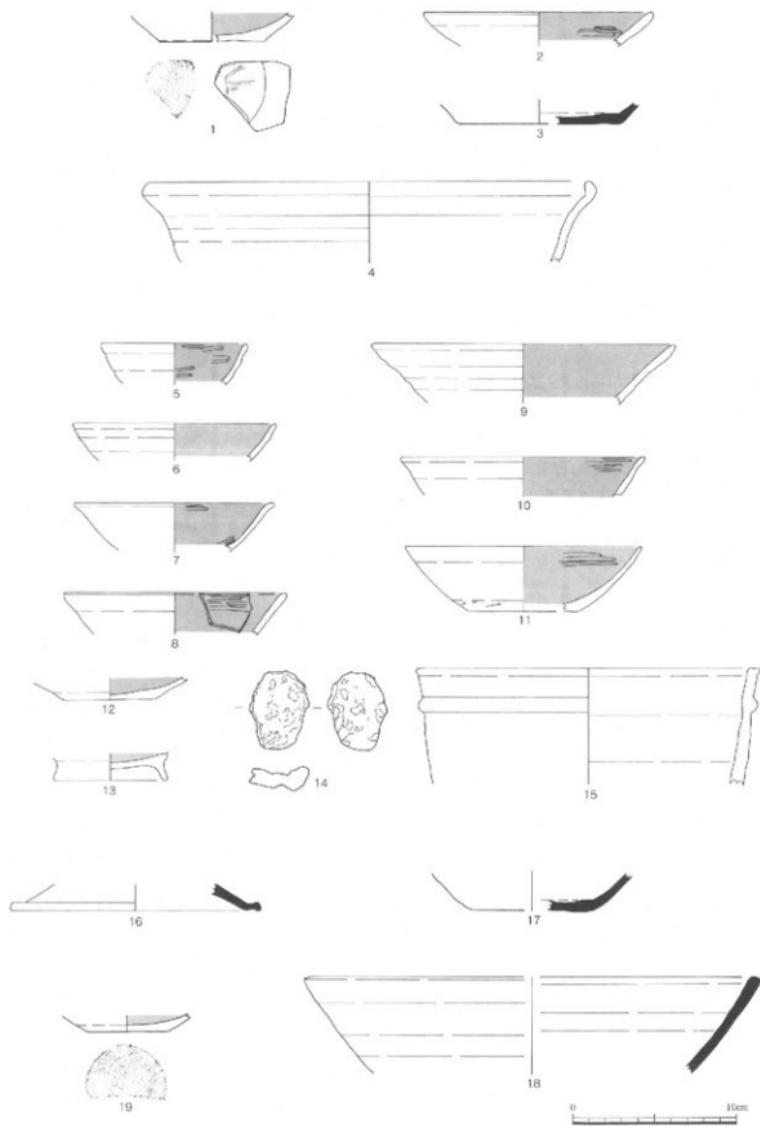
222はSX01から出土した銭貨である。三枚重なって出土した。中央の銭貨は取り外すと両端2枚が破損する恐れがあるため確認することができなかつた。確認できる両端2枚は同じものではなく、222aは「明道元寶」、222bは「景祐元寶」である。

## 包含層 (第51図)

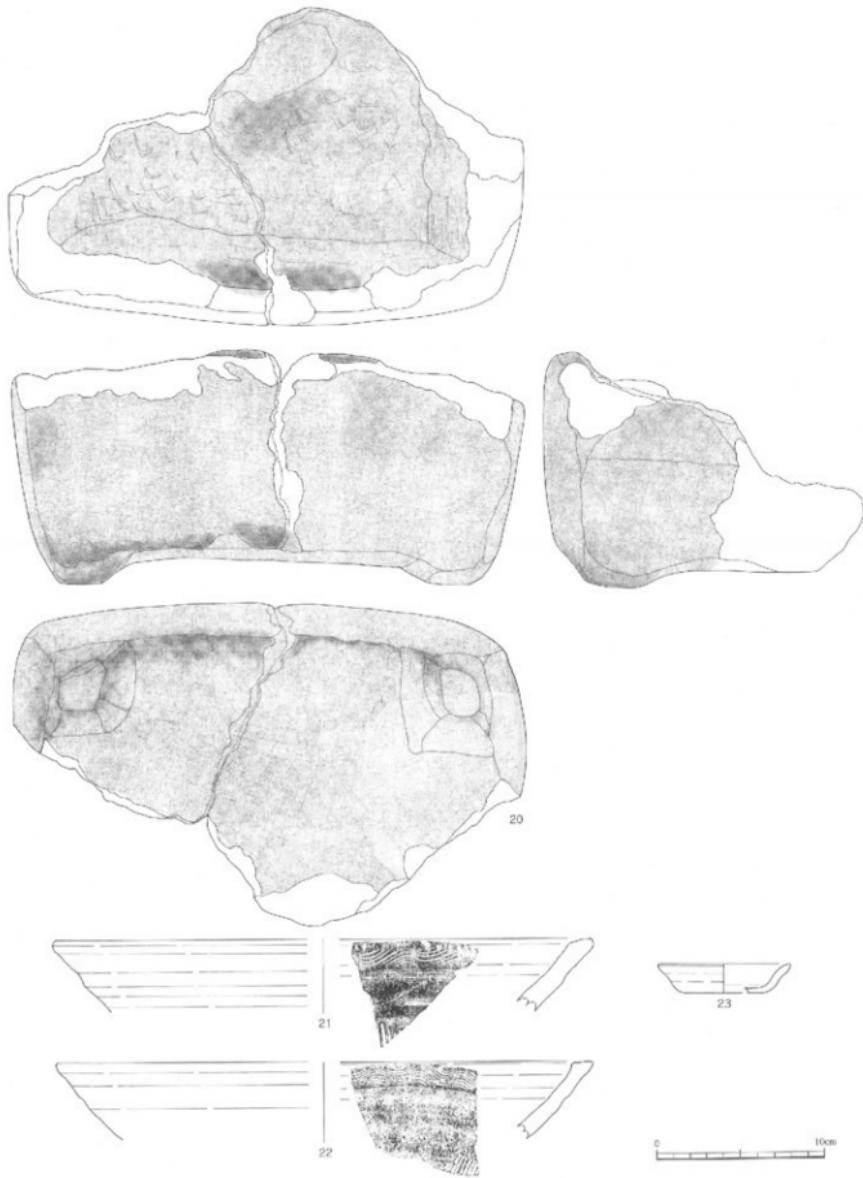
223~241は包含層から出土したものである。壁面や排土などからの確認も包含層出土とした。223~227は古代の土器で、すべてA区から出土したものである。228~230は土師器皿で、灯芯油瓶が確認できる。229と230は体部外面のナデ調整が強い。233は越前焼の甕の底部で底部外面に板状圧痕の痕が見える。234は素焼きのもので体部に穿孔があり所確認できる。風炉の可能性があるが、付近の包含層で近世の遺物が混在している箇所もあるため、時期が新しいかもしれない。237は珠洲焼のすり鉢で、口縁には柳井波状文がある。漆巻きの痕跡が確認できる。238は常教寺産の砥石である。241は石臼の下臼で、石材は火山礫凝灰岩である。

### 註

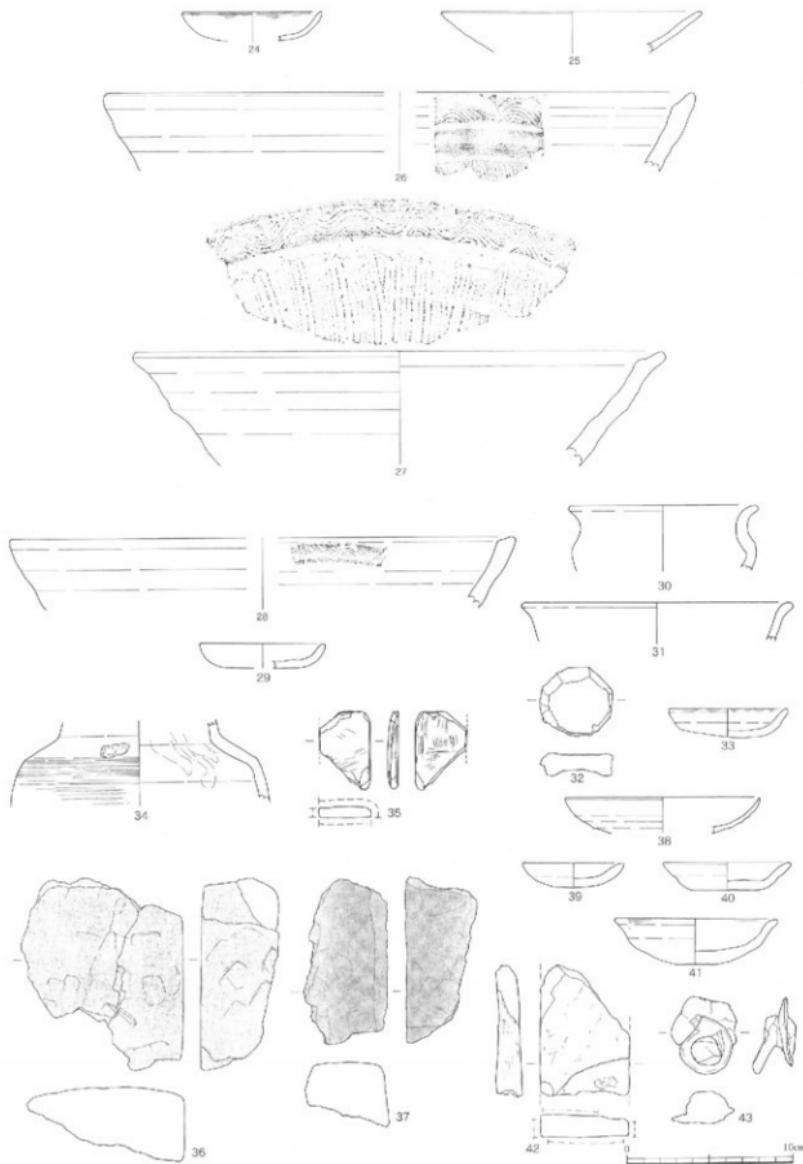
- 土器や陶磁器の分類・年代決定については以下の文献を参考にした。
- 石川県立埋蔵文化財センター 1984 「誓正寺遺跡」
- 上田 秀夫 1982 「14~16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究2』 日本貿易陶磁研究会
- 加賀市教育委員会 1987 「二木だいもん遺跡」
- 柿田 祐司 2006 「加賀・能登の様相」『中世北陸のカワラケと輸入陶磁器・瀬戸美濃製品』 北陸中世考古学研究会
- 田嶋 明人 1988 「古代土器編年録の設定」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 田中照久・木村宏一郎 2005 「越前」『全国シンポジウム中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年』 文部科学省特定領域研究
- 藤澤 良祐 2005 「瀬戸系(施釉陶器生産技術の伝播)」『全国シンポジウム中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年』 文部科学省特定領域研究
- 北陸中世考古学研究会 1998 「北陸中世の金属性一生产と流通」
- 森田 勉 1982 「14~16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究2』 日本貿易陶磁研究会
- 吉岡 康樹 1994 「中世須恵器の研究」 吉岡弘文館



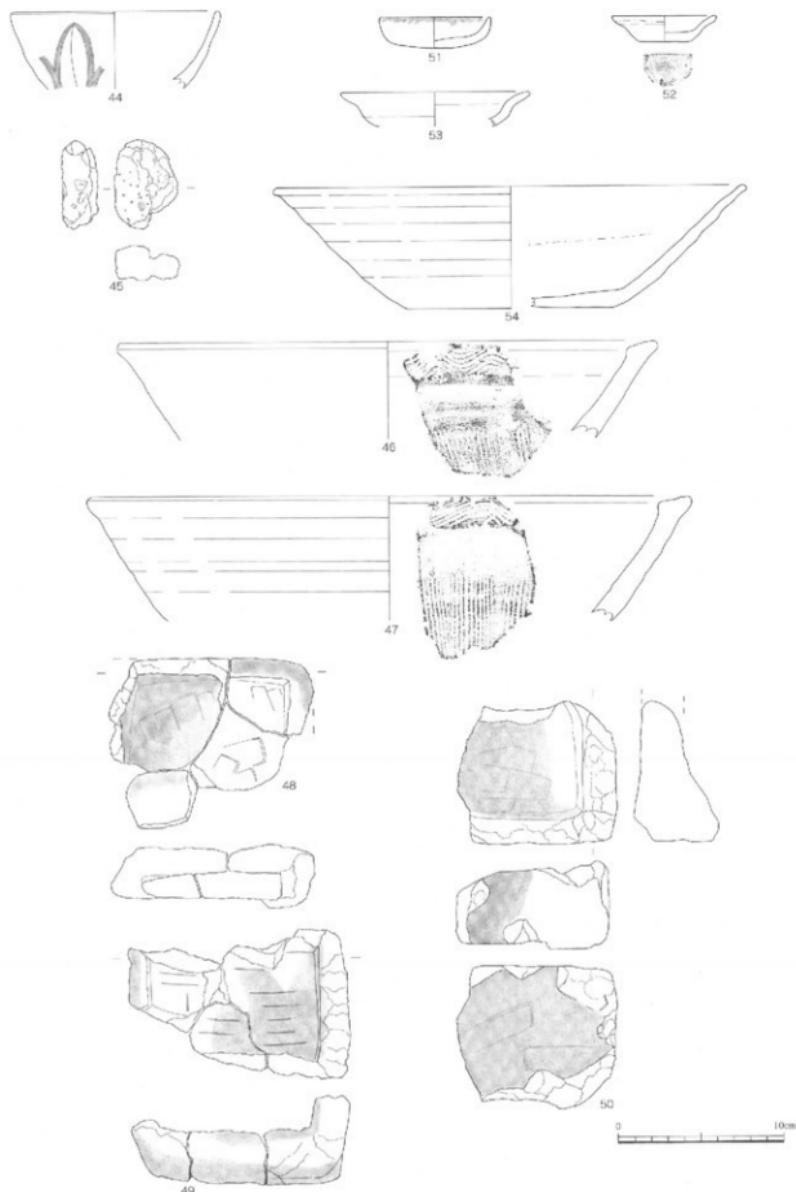
第29図 SB01(1~4)・SB03(5~14)・SB05(16)・SB06(17~18)・SA02(19)出土遺物(S=1/3)



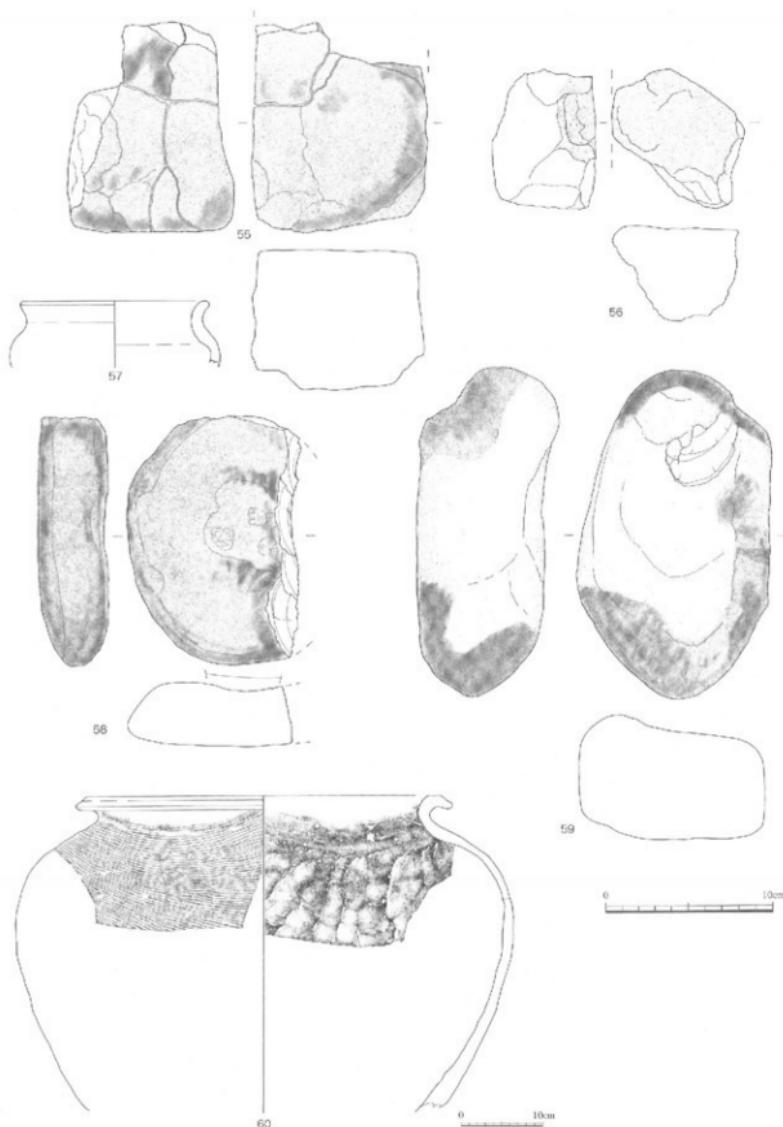
第30図 SB14(20~23)出土遺物(S=1/3)



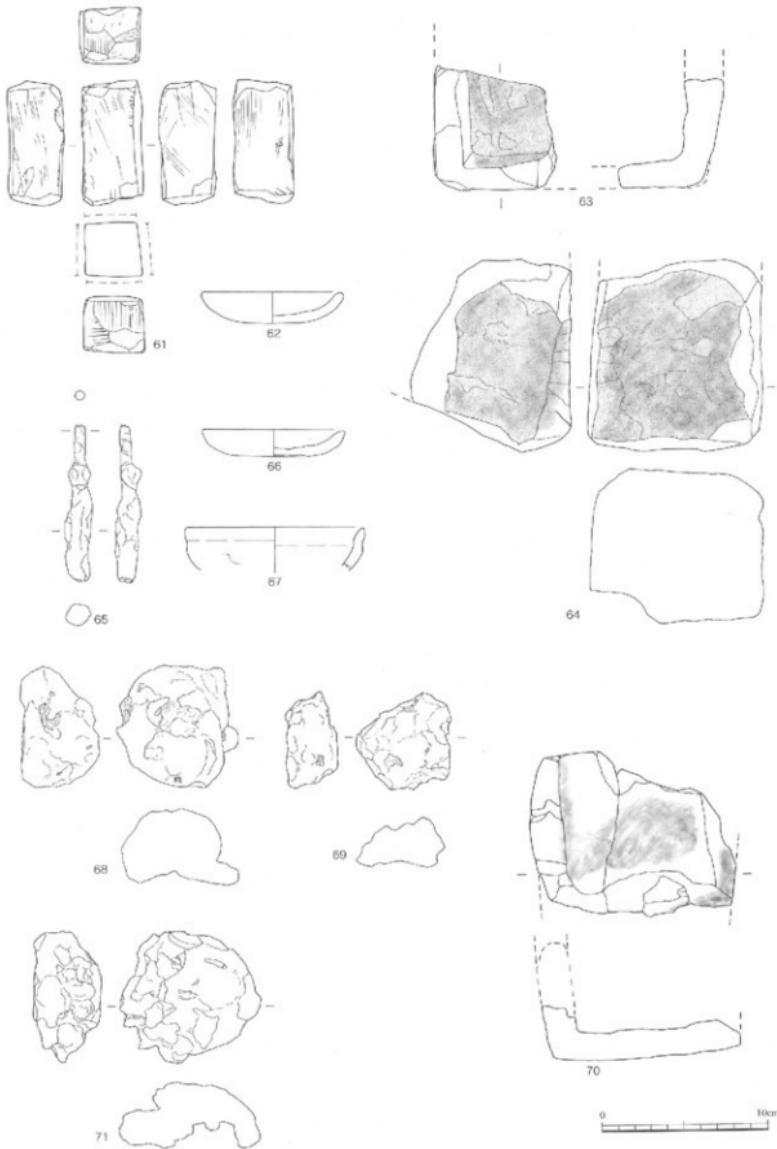
第31図 SI01(24~27)・SI02(28~32)・SI03(33)・SI06(34~37)・SI07(38~43)出土遺物(S=1/3)



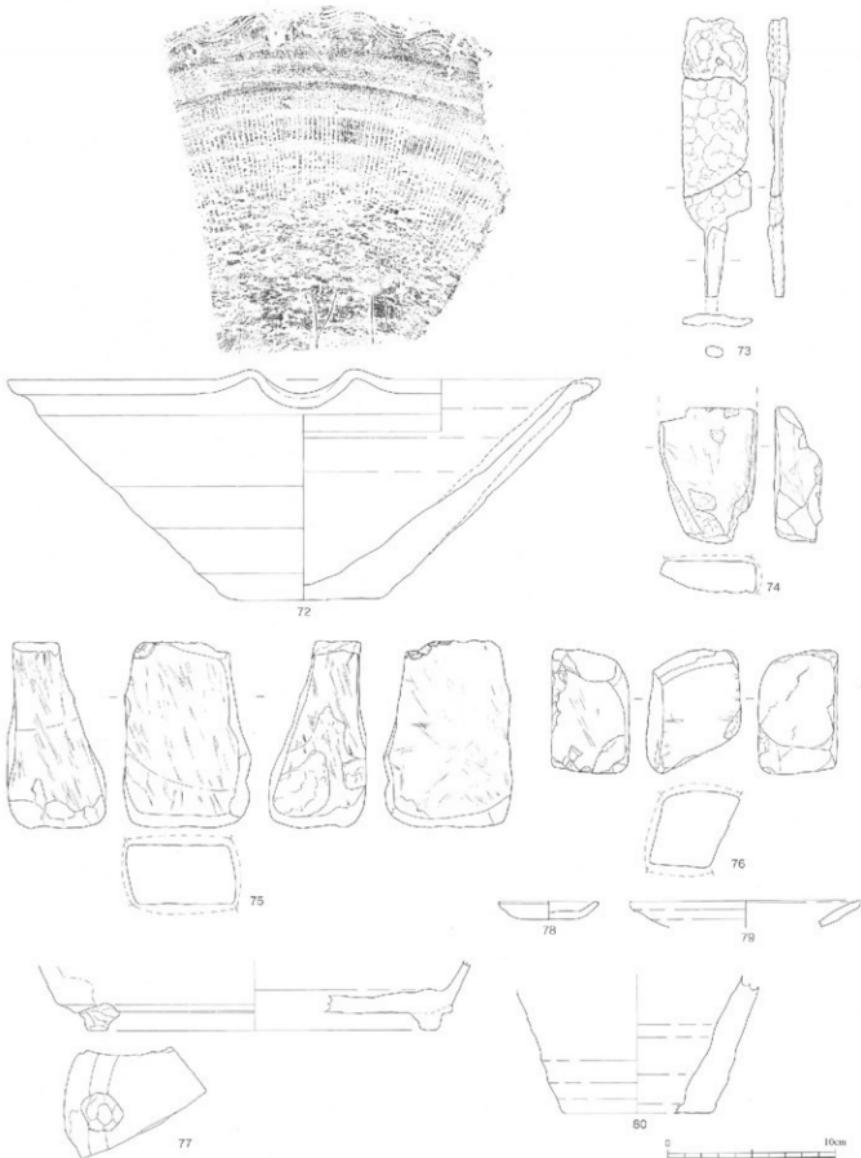
第32図 SK07(44~50)・SK08(51~54)出土遺物(S=1/3)



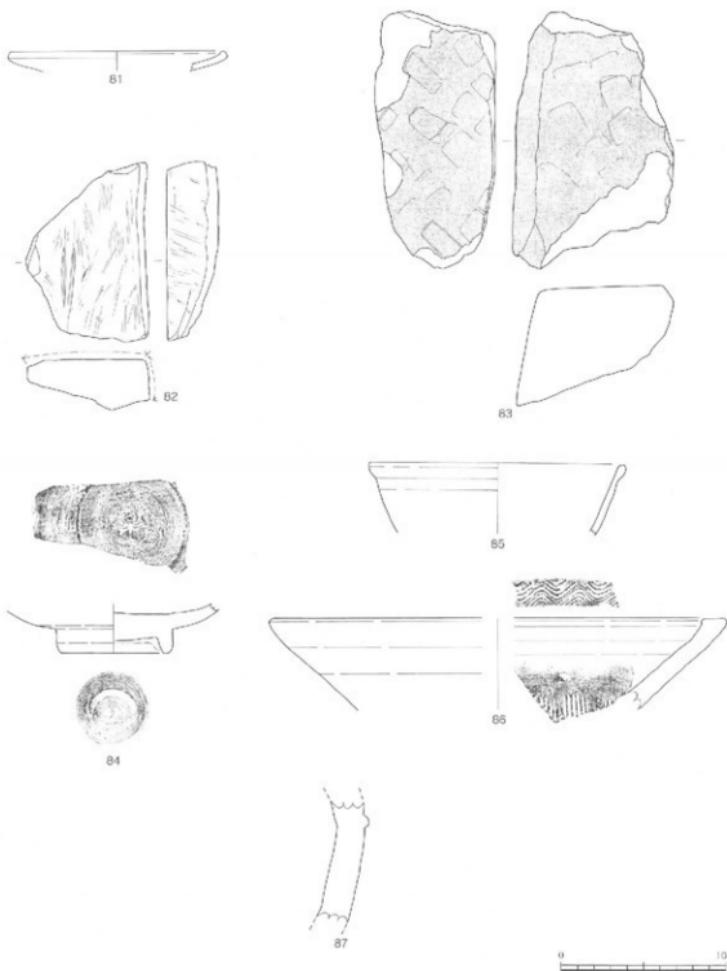
第33図 SK09(55~60)出土遺物 (S=1/3・60:S=1/6)



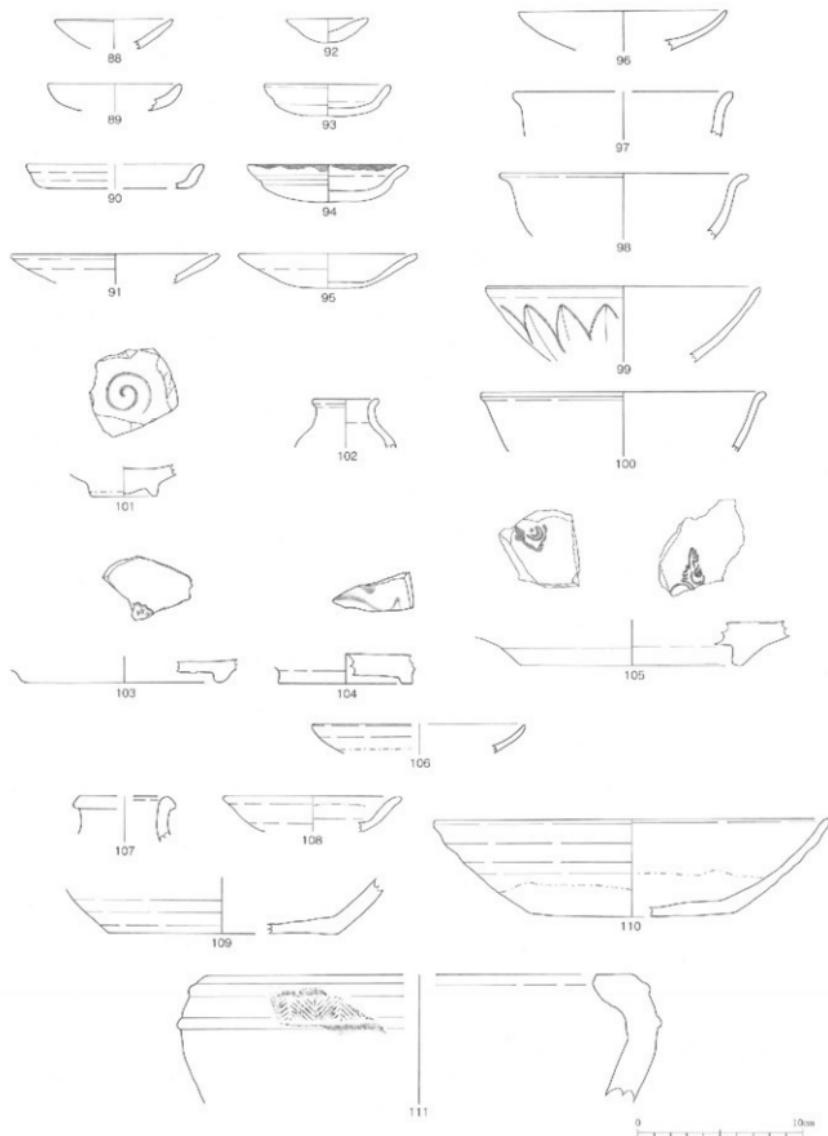
第34図 SK11(61~62)・SK12(63)・SK13(64)・SK14(65~68)・  
SK24(69)・SK25(70)・SK27(71)出土遺物(S=1/3)



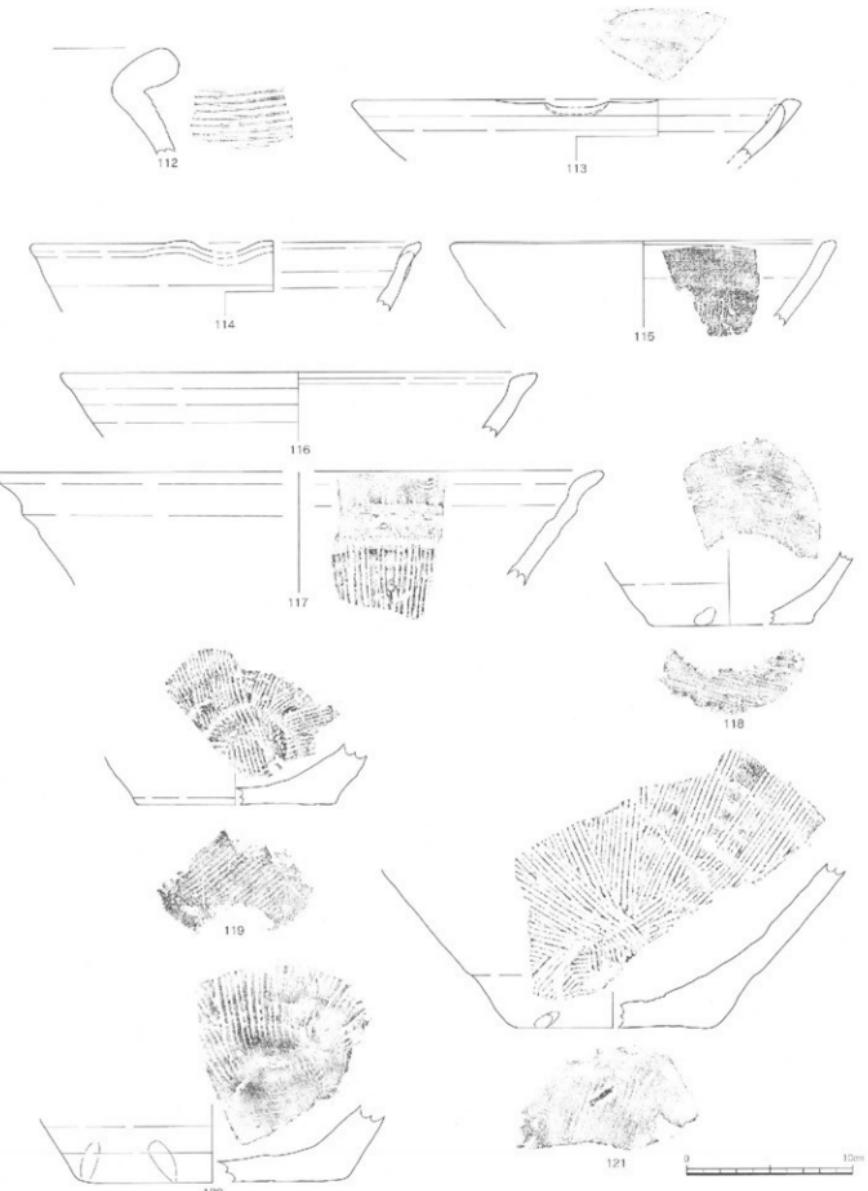
第35図 SK32(72)・SK33(73～77)・SK34(78～80)出土遺物(S=1/3)



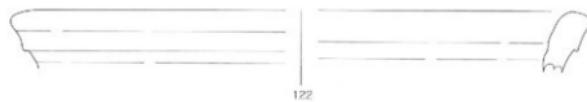
第36図 SK38(81～82)・SK40(83)・SK42(84)・SK43(85～87)出土遺物(S=1/3)



第37図 SD01(88~111)出土遺物(S=1/3)



第38図 SD01(112~121)出土遺物(S=1/3)



122



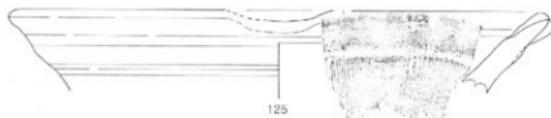
123



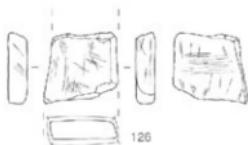
124



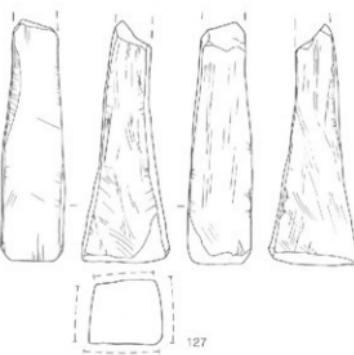
124



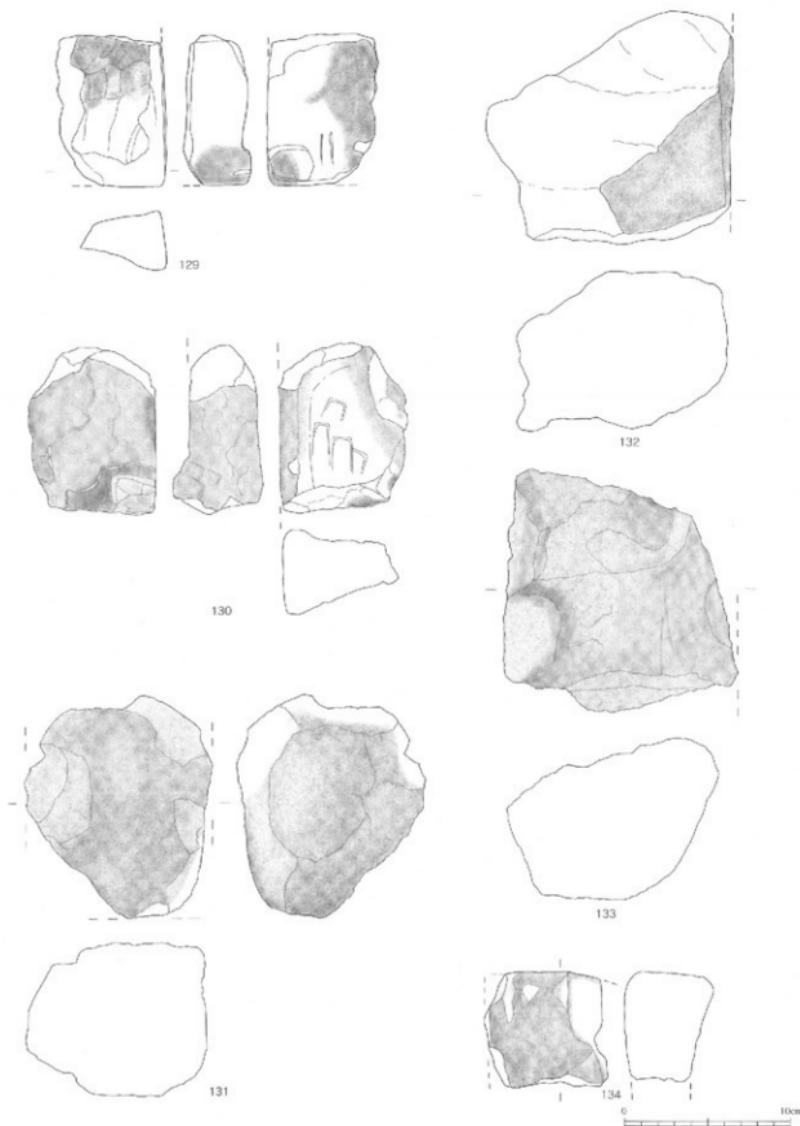
125



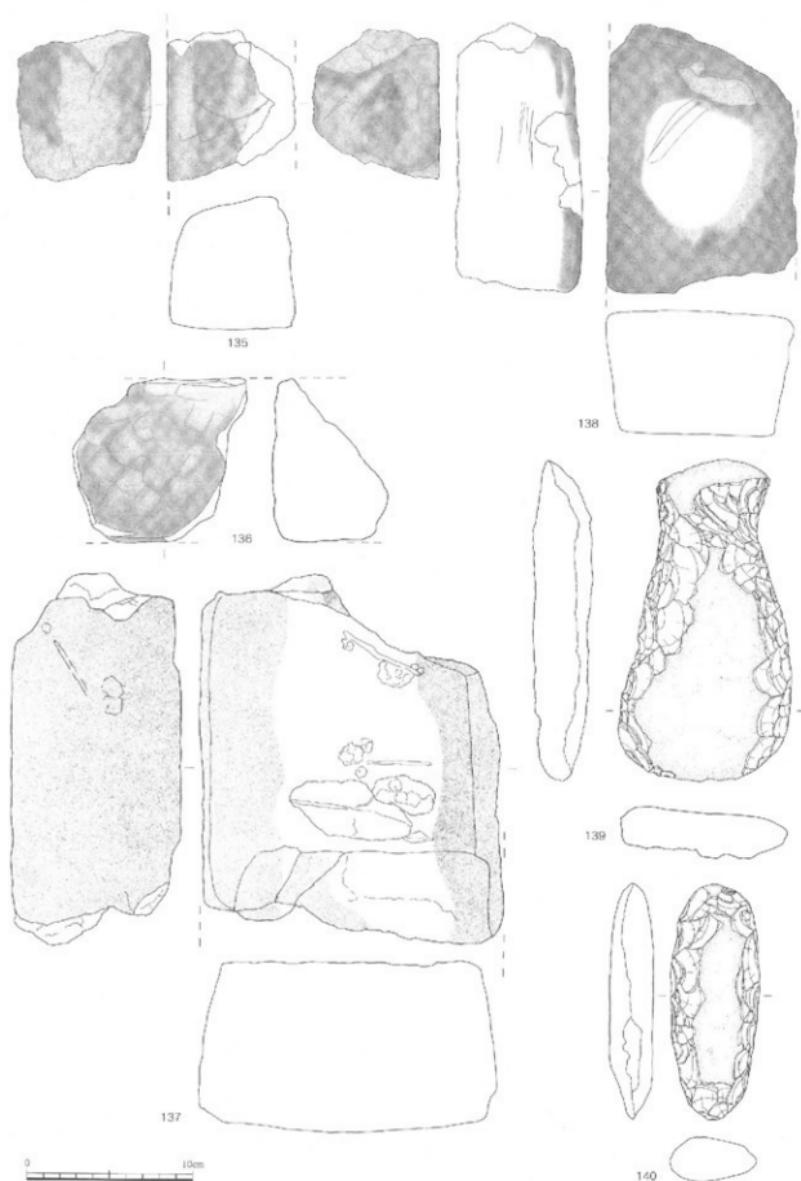
126



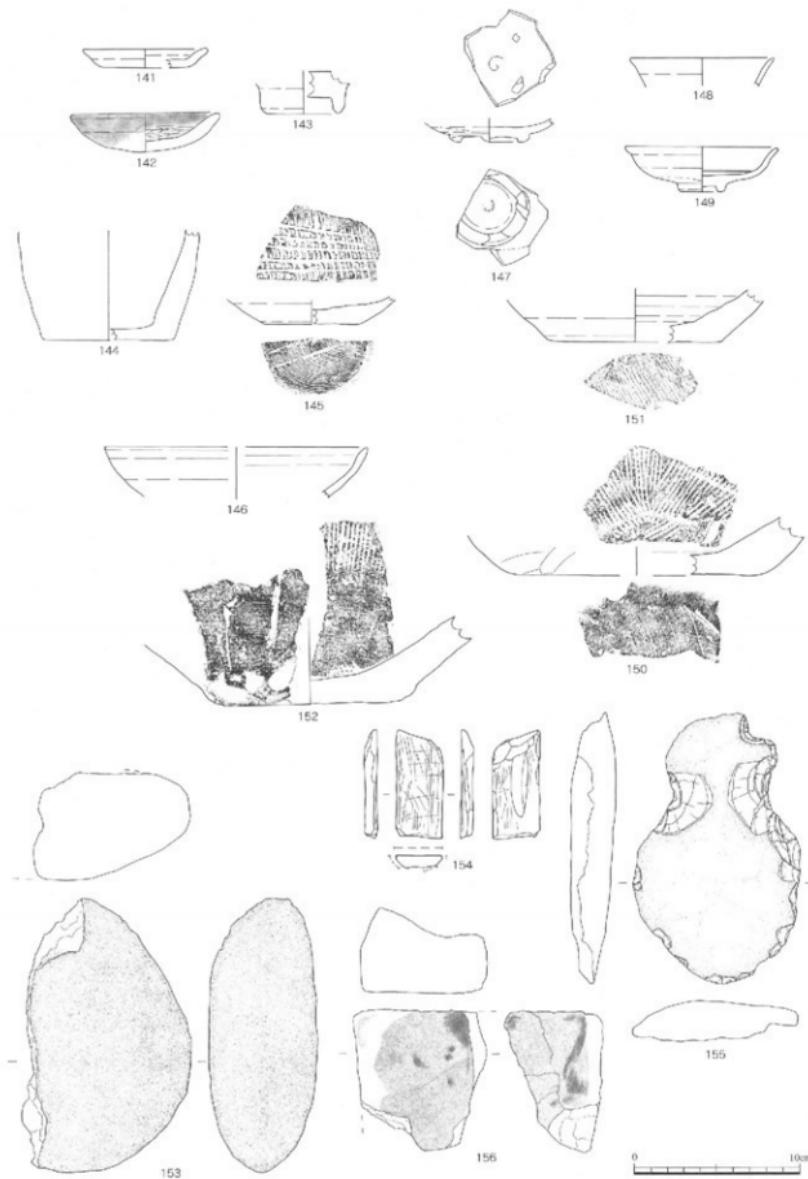
第39図 SD01(122~128)出土遺物(S=1/3)



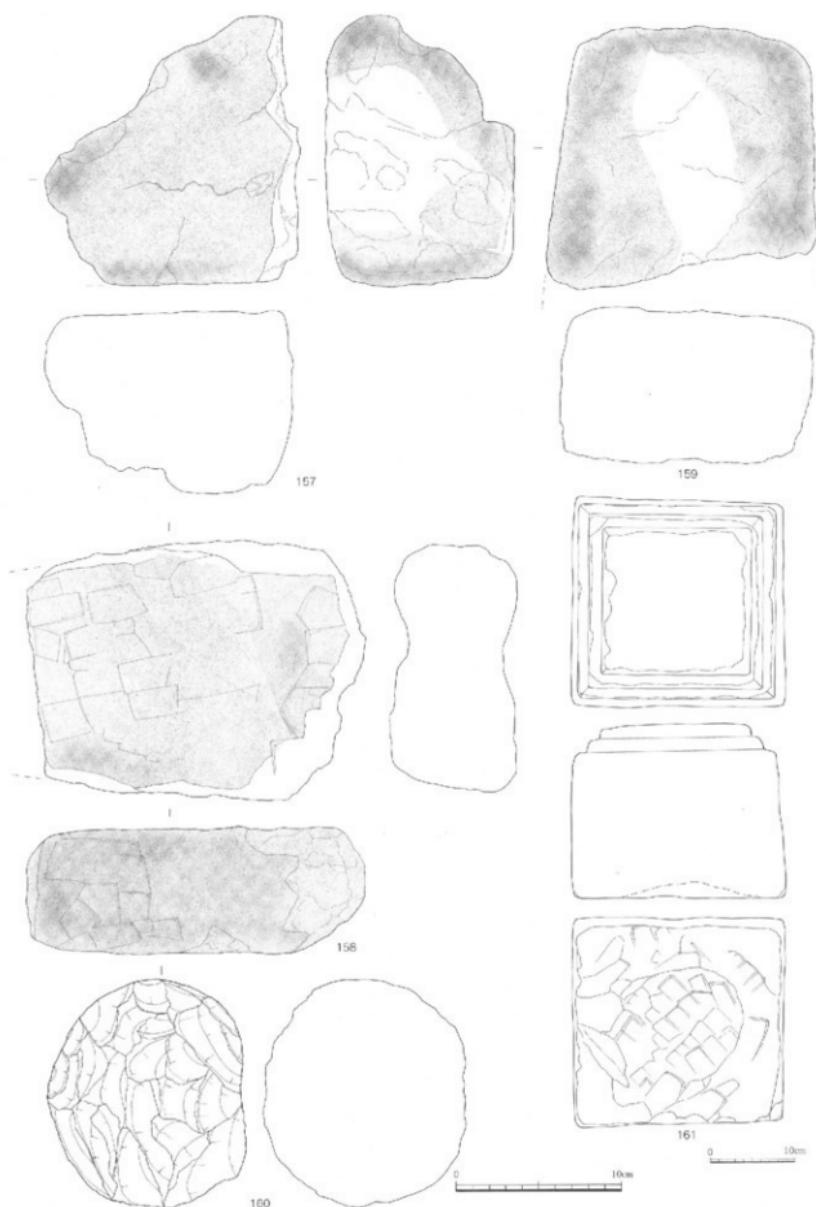
第40図 SD01(129~134)出土遺物(S=1/3)



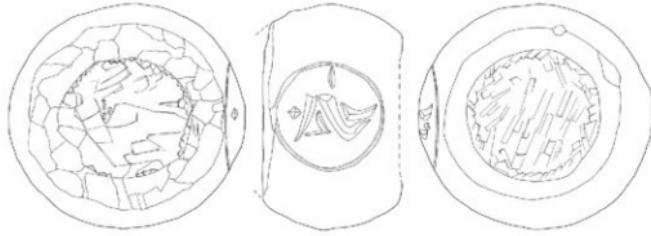
第41図 SD01(135~140)出土遺物(S=1/3)



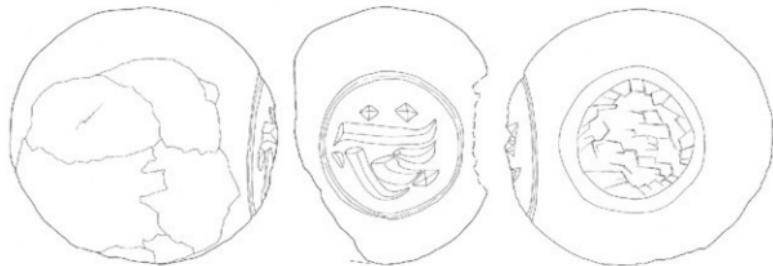
第42図 SD02(141~156)出土遺物(S=1/3)



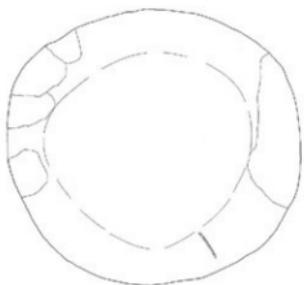
第43図 SD02(157~161)出土遺物(S=1/3・161:S=1/6)



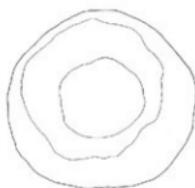
162



163



164



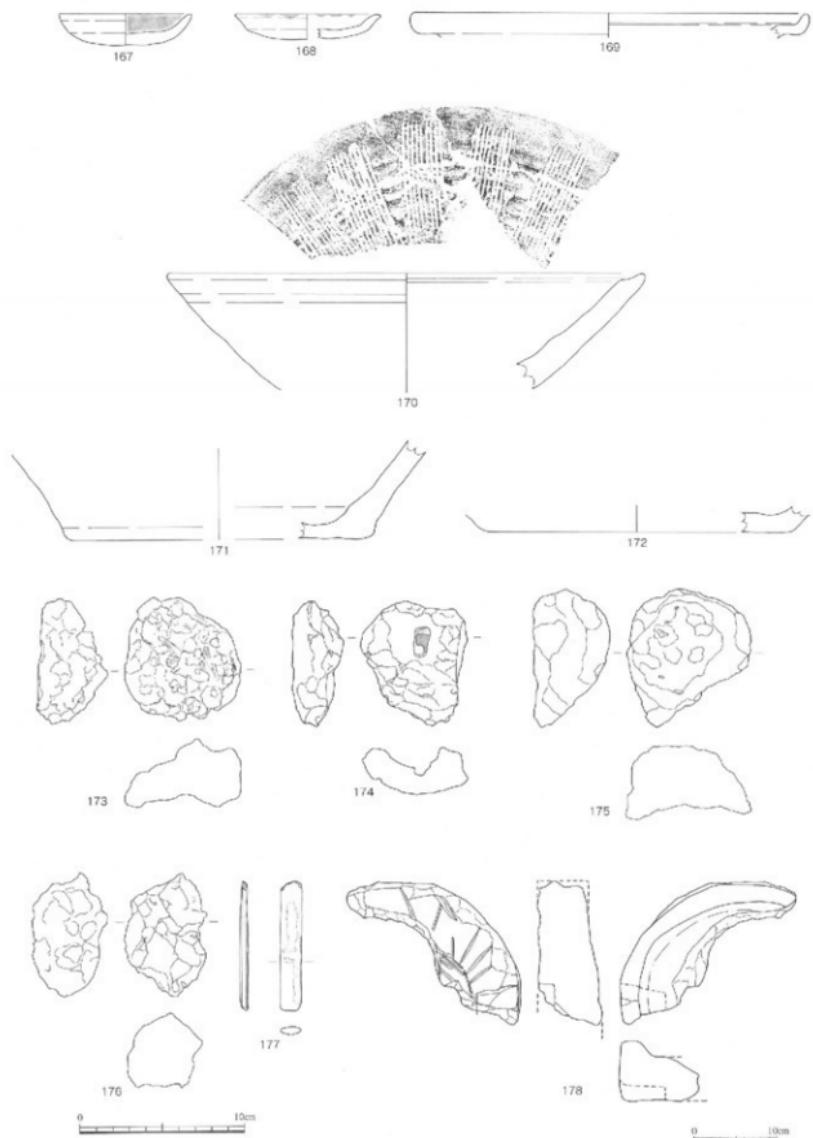
165



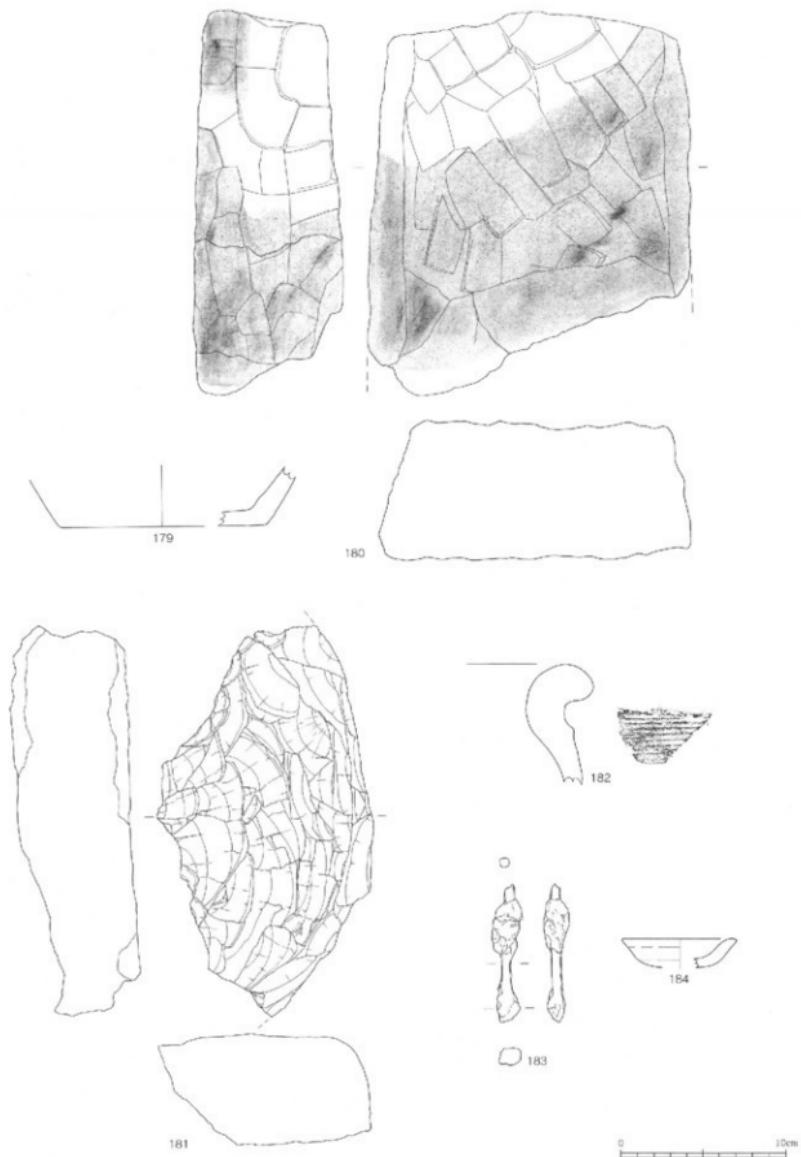
166

0 10cm

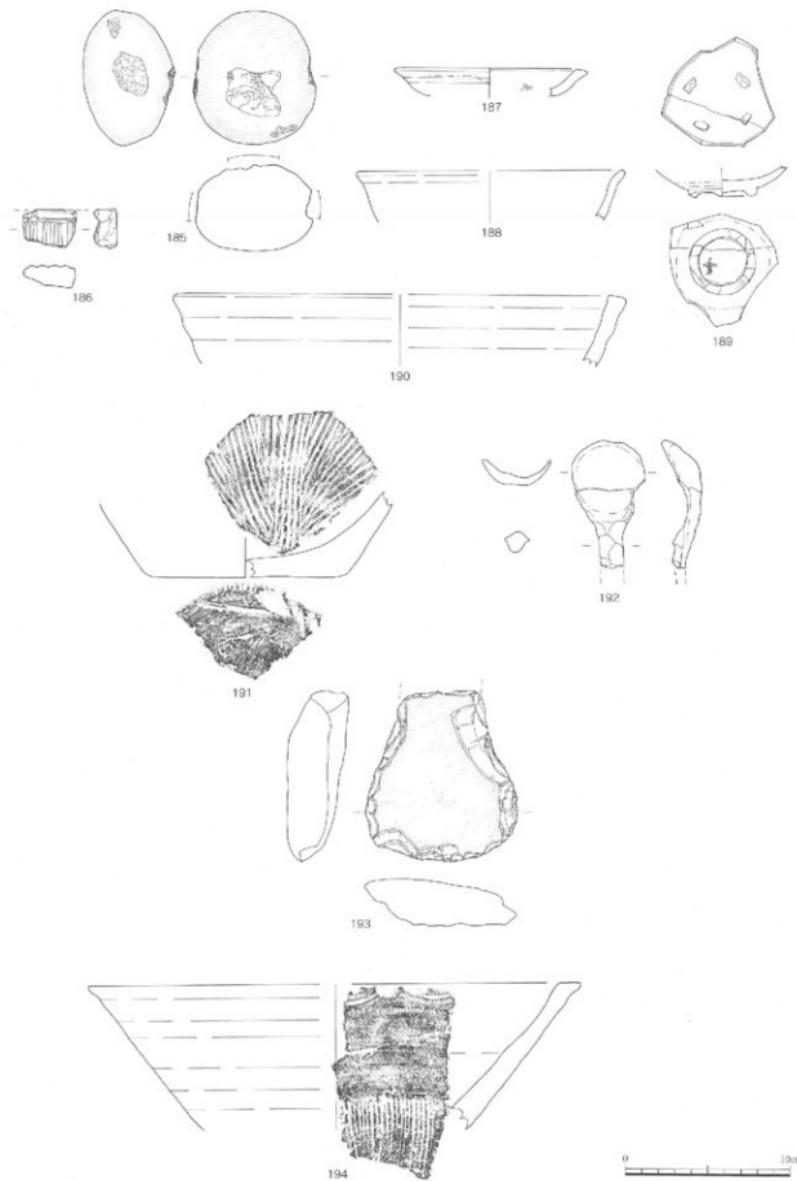
第44図 SD02(162~166)出土遺物(S=1/6)



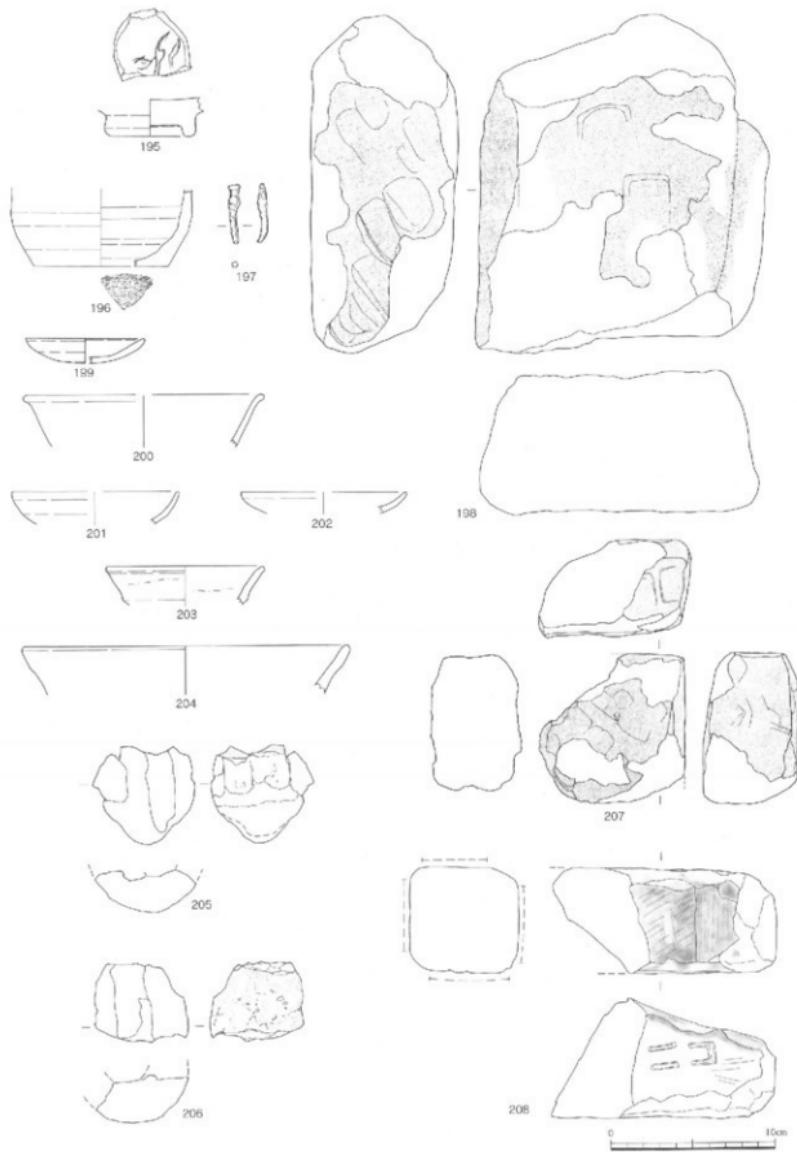
第45図 SD03(167~178)出土遺物(S=1/3・172、178:S=1/6)



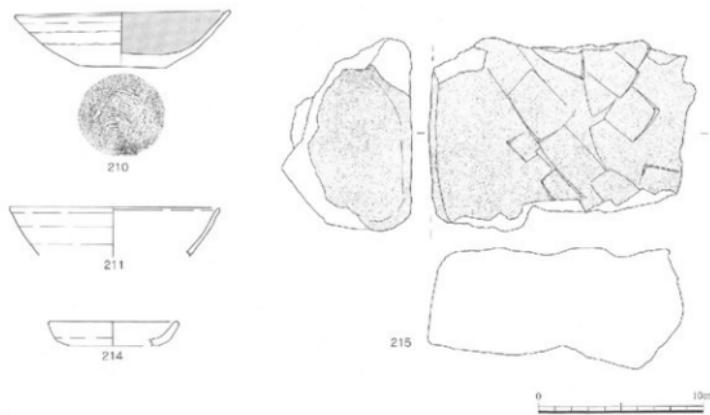
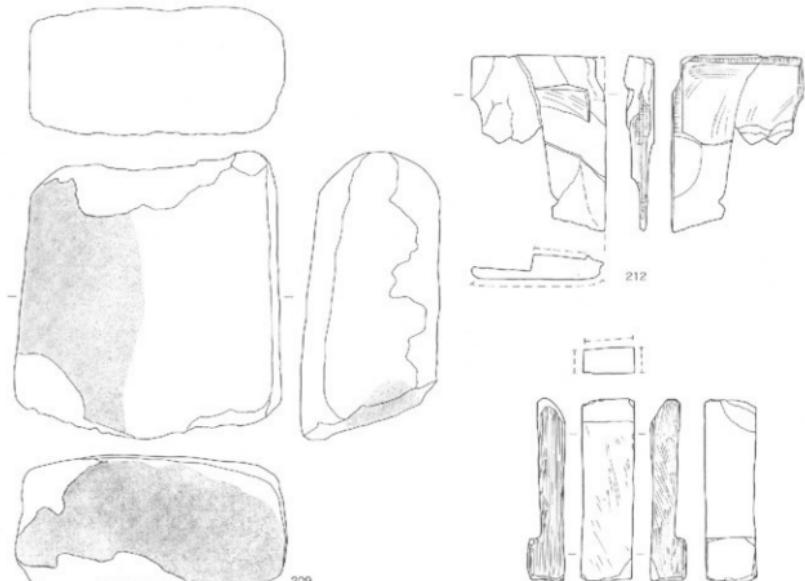
第46図 SD04(179~181)・SD05(182~184)出土遺物(S=1/3)



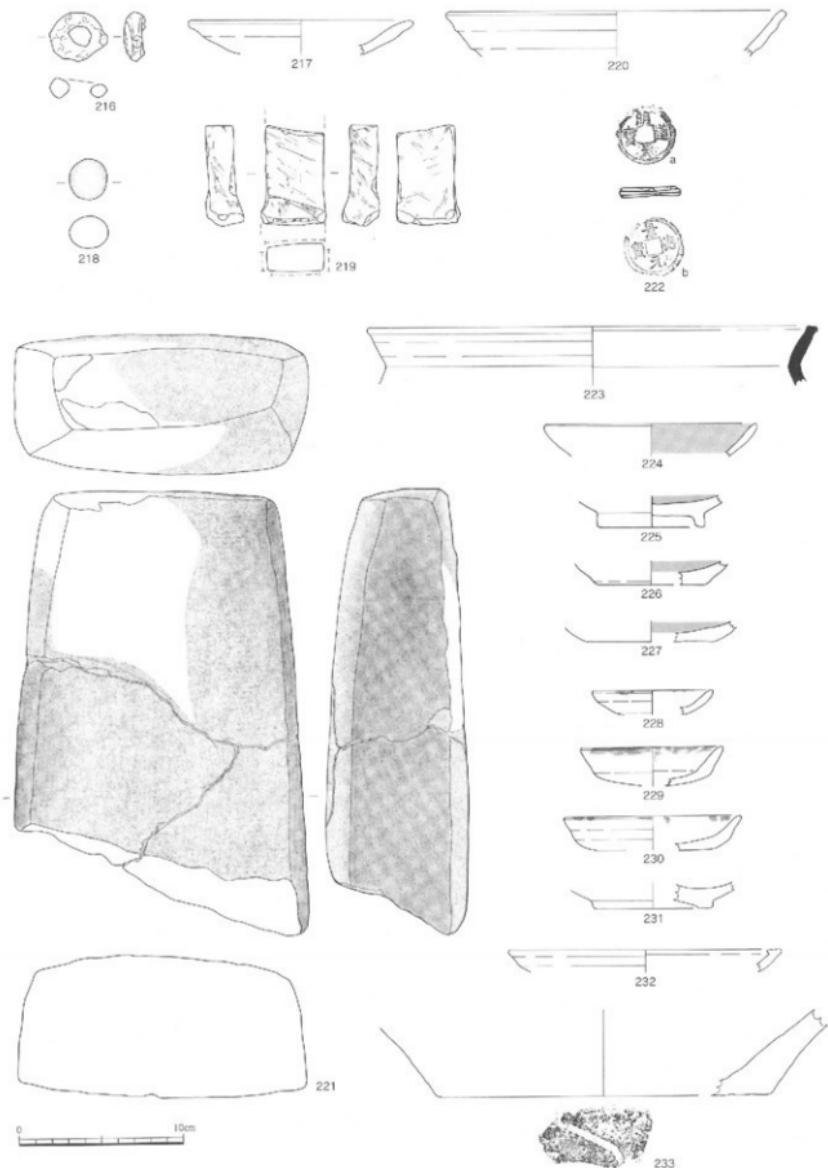
第47図 SD09(185~190)・SD10(191~192)・SD11(193)・SD12(194)出土遺物(S=1/3)



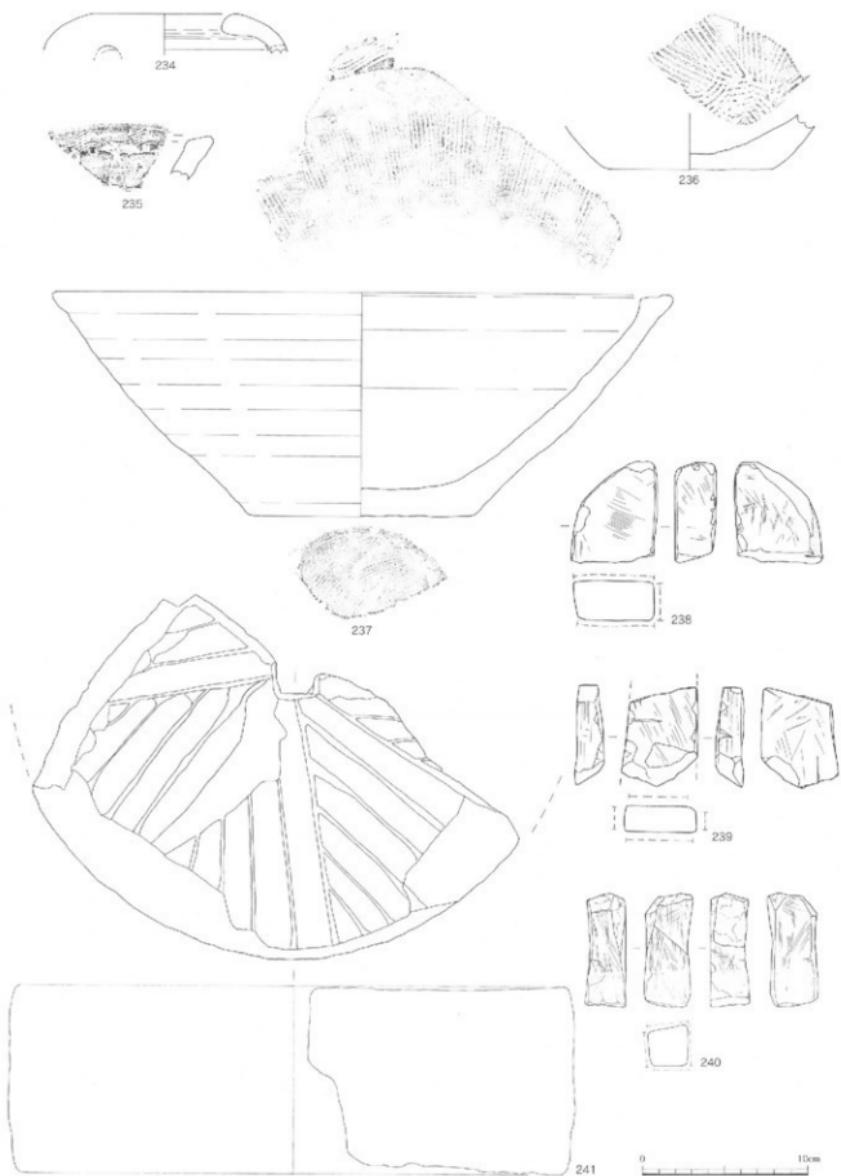
第48図 SD17(195~198)・SD18(199~208)出土遺物(S=1/3)



第49図 SD18(209)・P01(210)・P02(211)・P03(212)・P04(213)・P05(214)・P06(215)出土遺物(S=1/3)



第50図 P07(216)・P08(217)・P09(218)・P10(219)・P11(220)・P12(221)  
SX01(222)・包含層(223～233)出土遺物(S=1/3・222:S=1/2)



第51図 包含層(234~241)出土遺物(S=1/3)

第2表 遺物懸野表

遺物名	発見場所(日本)	遺物名	種類	機種	高さ (m)	幅員 (m)	斜度 (%)	色調(外観)		寸法	寸法	寸法	
								底面	側面				
1 N-126	22KB3P28	SB01	上部器	塊	96	112	10%	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.2	沙波S.1	沙波S.1
2 T-99	22KB3P28	SB01	下部器	塊	—	102	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
3 N-127	22KB3P28	SB01	頭部器	片	—	280	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
4 T-100	22KB3P29	SB01	下部器	塊	—	90	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
5 N-110	22KB3P26	SB01(P4)	上部器	塊	—	125	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
6 N-107	22KB3P26	SB01(P4)	上部器	塊	—	124	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
7 N-104	22KB3P26	SB01(P4)	土師器	塊	—	138	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
8 T-101	22KB3P26	SB01(P4)	土師器	塊	—	188	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
9 N-103	22KB3P26	SB01(P4)	土師器	塊	—	151	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
10 N-109	22KB3P26	SB01(P4)	土師器	塊	—	151	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
11 N-106	22KB3P26	SB01(P4)	土師器	塊	—	148	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
12 N-108	22KB3P26	SB01(P4)	上部器	塊	—	56	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
13 N-102	22KB3P26	SB01(P4)	上部器	塊	—	70	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
14 N-128	22KB3P26	SB01(P4)	頭部器	塊	—	48	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
15 N-05	22KBEP26	SB01	頭部器	塊	—	212	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
16 T-98	22KB4P20	SE05	頭部器	片蓋	—	154	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
17 N-129	22KB4P19	SB06	頭部器	折	—	—	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
18 N-127	22KB4P21	SB06	頭部器	鉢	—	150	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
19 N-133	22KB4P15	SA02(P22)	土師器	塊	—	49	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
20 M-223	52KB3P217	SB14	土製品	打目鉢	—	195	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
21 N-240	52KB3P217	SB14	土製品	打目鉢	—	312	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
22 N-239	52KB3P217	SB14	土製品	打目鉢	—	148	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
23 T-232	52KB3P29	SB14	上部器	鉢	—	50	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
24 T-61	22KB4SK-1	SI01	上部器	皿	—	86	—	灰白色	灰白色	白色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
25 T-62	22KB4SK-1	SI01	上部器	皿	—	160	—	灰白色	灰白色	白色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
26 N-131	22KB4SK01	SI01	珠洲焼	すり鉢	—	326	—	灰白色	灰白色	白色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
27 T-59	22KB4SK01	SI01	珠洲焼	すり鉢	—	—	—	灰白色	灰白色	白色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
28 N-82	22KB4SK09	SI02	珠洲焼	鉢	—	—	—	灰白色	灰白色	白色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
29 N-83	22KB4SK09	SI02	土師器	皿	—	78	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
30 N-84	22KB4SK09	SI02	青磁	壺	—	16	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
31 N-86	22KB4SK09	SI02	青磁	壺	—	167	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
32 N-85	22KB4SK09	SI02	瀬戸美濃	天日茶碗	—	40	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
33 N-125	12KA4SK01	SI03	土師器	皿	—	—	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
34 M-255	52KB4SK21	SI06	南陽瓦	壺	—	47	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
35 N-20	52KB4SK21	SI06	南陽瓦	瓦石	—	104	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
36 M-219	52KB4SK21	SI06	南陽瓦	砂輪石	—	100	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
37 T-219	52KB4SK21	SI06	打磨石	壺	—	50	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
38 T-226	52KB4SK316	SI07	土師器	壺	—	120	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
39 N-226	52KB4SK322	SI07	土師器	壺	—	62	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1
40 T-231	52KB4SK316	SI07	土師器	壺	—	98	—	灰褐色	灰褐色	褐色	沙波S.1	沙波S.1	沙波S.1

参考十: 柄の大きさをS(1mm以下)、M(1~2mm)、L(3~20mm)とし、盤面のほとんど含まない、1つや多い、2つや多い、3つ多いで差した。

測定No.	光頭No.	出土場所(組番)	測定No.	種類	口径 (mm)	地質 (mm)	物理 (mm)	保存状 態	色調 (外因) 石, 材	色調 (内因) 石, 木	断面 (外因) 石, 木	断面 (内因) 石, 木	備考
41	N-229	5次BBSK16	SK07	土師器	皿	W0	81	56	に赤い黄褐色 淡灰白	に赤い黄褐色	砂礫S-1, 素色無化粧	砂礫S-1, 素色無化粧	油煙付着 14C後半
42	T-222	5次BBSK16	SK07	右汲用	瓶	W0	48.5	40	明褐色	明褐色	80	80	小端打
43	T-244	5次BBSK16	SK07	汲用	瓶	W0	27	19	明オリーブ灰色	明オリーブ灰色	12	12	油煙付着 S-1
44	T-53	2次BBSK02	SK07	氣泡	皿	W0	35	39	22.5	22.5	65	65	油煙付着 S-1
45	T-58	2次BBSK02	SK07	釋迦燒	すり鉢	W0	370	370	灰白色	灰白色	175	175	油煙付着 V端 (14C後半~ 15C前半) V端 (14C後半~ 15C前半)
46	T-52	2次BBSK02	SK07	難波燒	すり鉢	W0	368	368	灰白色	灰白色	砂礫S-1	砂礫S-1	油煙付着 V端 (14C後半~ 15C前半) V端 (14C後半~ 15C前半)
47	T-31	2次BBSK02	SK07	難波燒	火灰	W0	125	105	34	口幅1.76	220	220	油煙付着 14C後半~ 15C前半
48	T-54-57	2次BBSK02	SK07	難波燒	火灰	W0	98	89	55	口幅1.76	215	215	油煙付着 14C後半~ 15C前半
49	T-56	2次BBSK02	SK07	難波燒	火灰	W0	93	55	35	口幅1.76	215	215	油煙付着 14C後半~ 15C前半
50	T-55	2次BBSK02	SK07	難波燒	火灰	W0	125	105	34	口幅1.76	215	215	油煙付着 14C後半~ 15C前半
51	N-93	2次AESK13	SK08	土師器	灯明小皿	W0	69	55	19	全体1.12	に赤い黄褐色 黒色	砂礫S-1, 赤色無化粧	油煙付着 14C後半~ 15C前半
52	N-95	2次AESK13	SK08	土師器	灯明小皿	W0	64	38	16	全体1.12	に赤い黄褐色 黒色	砂礫S-1, 赤色無化粧	油煙付着 14C後半~ 15C前半
53	N-94	2次AESK13	SK08	土師器	皿	W0	116	116	口幅1.49	全体1.18	75	75	油煙付着 14C後半~ 15C前半
54	N-96	2次AESK13	SK08	土師器	直腹大皿	W0	290	126	75	口幅1.5	700	700	油煙付着 14C後半~ 15C前半
55	T-121	2次AESK11	SK09	有底盆	金剛石	W0	131	107	101	全体1.12	700	700	油煙付着 14C後半~ 15C前半
56	T-120	2次AESK11	SK09	有底盆	金剛石	W0	87	80	63	口幅1.6	205	205	油煙付着 14C後半~ 15C前半
57	T-122	2次AESK11	SK09	有底盆	金剛石	W0	110	107	43	オーリーブ灰色	205	205	油煙付着 14C後半~ 15C前半
58	T-115	2次AESK11	SK09	自然石	金剛石	W0	154	107	43	オーリーブ灰色	1,130	1,130	油煙付着 14C後半~ 15C前半
59	T-124	2次AESK11	SK09	自然石	金剛石	W0	203	118	87	オーリーブ灰色	2,730	2,730	油煙付着 14C後半~ 15C前半
60	T-120	2次AESK11	SK09	自然石	金剛石	W0	458	37	35	全体1.12	180	180	油煙付着 14C後半~ 15C前半
61	N-77	2次AESK10	SK11	土師器	皿	W0	77	77	35	全体1.12	180	180	油煙付着 14C後半~ 15C前半
62	V-76	2次AESK10	SK11	土師器	皿	W0	87	40	19.5	全体1.12	180	180	油煙付着 14C後半~ 15C前半
63	N-80	2次AESK06	SK12	土器	火灰	W0	77	78	25	全体1.12	220	220	油煙付着 14C後半~ 15C前半
64	N-78	2次AESK06	SK13	有底盆	金剛石	W0	119	108	99	全体1.12	24.2	24.2	油煙付着 14C後半~ 15C前半
65	N-140	4次AESK11	SK14	長乳頭	火灰	W0	96	18	17	全体1.12	24.2	24.2	油煙付着 14C後半~ 15C前半
66	N-134	4次AESK11	SK14	長乳頭	火灰	W0	88	88	17	全体1.12	24.2	24.2	油煙付着 14C後半~ 15C前半
67	N-138	4次AESK11	SK14	圓筒形	火灰	W0	110	99	29	全体1.12	24.2	24.2	油煙付着 14C後半~ 15C前半
68	N-136	4次AESK11	SK14	圓筒形	火灰	W0	75	64	48	全体1.12	270	270	油煙付着 14C後半~ 15C前半
69	N-137	4次AESK11	SK14	圓筒形	火灰	W0	60	58.5	33	全体1.12	121.6	121.6	油煙付着 14C後半~ 15C前半
70	N-141	4次AESK22	SK25	土器	火灰	W0	124	75	42	全体1.12	20	20	油煙付着 14C後半~ 15C前半
71	N-186	4次AESK16	SK27	圓筒形	火灰	W0	82	66	42	全体1.12	249	249	油煙付着 14C後半~ 15C前半
72	T-142	4次AESK22	SK32	圓筒形	火灰	W0	362	82	142	全体1.12	55.6	55.6	油煙付着 14C後半~ 15C前半
73	T-152	4次AESK22	SK33	圓筒形	火灰	W0	173	51.5	13	全体1.12	125	125	油煙付着 14C後半~ 15C前半
74	T-202	4次AESK32	SK33	圓筒形	火灰	W0	84	59	29	全体1.12	270	270	油煙付着 14C後半~ 15C前半
75	T-145	4次AESK22	SK33	圓筒形	火灰	W0	115	78	60	全体1.12	125	125	油煙付着 14C後半~ 15C前半
76	T-144	4次AESK22	SK33	圓筒形	火灰	W0	77	66	48	全体1.12	249	249	油煙付着 14C後半~ 15C前半
77	T-147	4次AESK22	SK33	圓筒形	火灰	W0	62	30	11	全体1.12	249	249	油煙付着 14C後半~ 15C前半
78	T-143	4次AESK219	SK34	上部器	皿	W0	140	140	11	全体1.12	249	249	油煙付着 14C後半~ 15C前半
80	T-148	4次AESK210	SK34	基部	皿	W0	90	90	11	全体1.12	249	249	油煙付着 14C後半~ 15C前半
81	T-248	5次BBSK25	SK38	石器品	砾石	W0	119	75	32	全体1.12	310	310	油煙付着 14C後半~ 15C前半
82	T-217	5次BBSK25	SK38	石器品	砾石	W0	157	107	74	全体1.12	610	610	油煙付着 14C後半~ 15C前半
83	M-260	5次BBSK11	SK40	石器品	砾石	W0	—	—	—	全体1.12	—	—	油煙付着 14C後半~ 15C前半

地質番号	東経度	北緯度	測量番号	種類	幅( mm)	高さ( mm)	露頂( mm)	露底( mm)	残存厚( mm)	色調(外観)		色調(内面)		地十漂和物	備考	
										石	材	色	度	等級		
84 M-259	東経50°	北緯35°	SK42	角選	6	55	53.4	52.4	1	灰色	オリーブ色	灰色	1	砂漠S-1	田正X、15C削手	
85 T-249	50EBSK44	SK43	角選	6	56	54.2	53.2	1	白色	オリーブ色	灰色	1	砂漠S-1	1C削手		
86 N-233	50EBSK44	SK43	角選	6	56	54.2	53.2	1	白色	オリーブ色	灰色	1	砂漠S-1	1C削手		
87 N-234	50EBSK44	SK43	角選	6	56	54.2	53.2	1	白色	オリーブ色	灰色	1	砂漠S-1	1C削手		
88 T-72	2KAESD01下層	SD01	土壠	72	18	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-1	14C削手
89 N-11	2KAESD01	SD01	土壠	72	8	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
90 N-38	2KAESD01上層	SD01	土壠	72	19	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
91 T-114	2KAESD01	SD01	土壠	72	19	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
92 T-73	2KAESD01下層	SD01	土壠	72	10	15	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
93 T-67	2KAESD01	SD01	土壠	72	20	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
94 T-1	2KAESD01	SD01	土壠	72	22	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
95 T-71	2KAESD01	SD01	土壠	72	23	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
96 N-49	2KAESD01上層	SD01	土壠	72	24	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
97 N-40	2KAESD01上層	SD01	土壠	72	25	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
98 N-32	2KAESD01下層	SD01	土壠	72	26	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
99 T-69	2KAESD01	SD01	土壠	72	27	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
100 N-44	2KAESD01	SD01	土壠	72	28	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
101 N-37	2KAESD01上層	SD01	土壠	72	29	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
102 T-33	2KAESD01下層	SD01	土壠	72	30	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
103 N-34	2KAESD01下層	SD01	土壠	72	31	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
104 N-45	2KAESD01	SD01	土壠	72	32	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
105 T-68	2KAESD01	SD01	土壠	72	33	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
106 N-12	2KAESD01上層	SD01	土壠	72	34	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
107 N-39	2KAESD01上層	SD01	土壠	72	35	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
108 T-70	2KAESD01	SD01	土壠	72	36	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
109 N-16	2KAESD01	SD01	土壠	72	37	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
110 N-8-13	2KAESD01下層	SD01	土壠	72	38	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
111 N-18	2KAESD01下層	SD01	土壠	72	39	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
112 N-29	2KAESD01下層	SD01	土壠	72	40	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
113 N-26-27	2KAESD01下層	SD01	土壠	72	41	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
114 N-31	2KAESD01下層	SD01	土壠	72	42	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
115 T-3	2KAESD01下層	SD01	土壠	72	43	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
116 N-35	2KAESD01下層	SD01	土壠	72	44	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
117 N-47	2KAESD01	SD01	土壠	72	45	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
118 N-28	2KAESD01下層	SD01	土壠	72	46	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
119 N-42	2KAESD01下層	SD01	土壠	72	47	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
120 N-25	2KAESD01下層	SD01	土壠	72	48	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
121 N-24	2KAESD01下層	SD01	土壠	72	49	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手
122 N-46	2KAESD01	SD01	土壠	72	50	口幅16	口幅16	口幅16	口幅16	1	淡黄色	淡黄色	淡黄色	1	砂漠S-2	14C削手

地物No.	采掘場	通路No.	種類	緯度	経度	口幅 (m)	掘進 (m)	残存率	岩質 (外観)	色調 (内因)	色調 (外因)	岩質 (内因)	地質学的特徴	備考
123 N-17	2KAES01	SD01	鉱脈	要	-	-	-	-	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-M-1	-	
124 N-41	2KAESD01下層	SD01	鉱脈	要	-	-	-	-	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-M-1, 石英	-	
125 N-14	2KAESD01	SD01	鉱脈	要	-	-	-	-	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	片岩 内外面削面に煤付岩	
126 T-19	2KAESD01下層	SD01	右側風	要	-	-	-	-	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	出露石	
127 N-19	2KAESD01下層	SD01	右側風	要	149	51	40	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	山城石 5~6年程の使用	
128 T-7	2KAESD01下層	SD01	右側風	要	140	51.5	46	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	-	
129 N-30	2KAESD01下層	SD01	右側風	要	67	54	42	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	内外側にノミ状の風化 前面削面側にノミ卦丁風化	
130 T-4	2KAESD01	SD01	右側風	要	140	56	46	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	ノミ卦丁風化	
131 T-6	2KAESD01	SD01	右側風	要	139	116	95.5	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	ノミ卦丁風化	
132 N-23	2KAESD01下層	SD01	右側風	要	146	104	90	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	ノミ卦丁風化	
133 T-9	2KAESD01	SD01	右側風	要	140	143	100	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	ノミ卦丁風化	
134 N-22	2KAESD01	SD01	右側風	要	75	72	54	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	ノミ卦丁風化	
135 T-5	2KAESD01	SD01	右側風	要	93	78	62	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	ノミ卦丁風化	
136 N-21	2KAESD01	SD01	右側風	要	107	102	71	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	ノミ卦丁風化	
137 T-113	2KAESD01	SD01	右側風	要	255	188	143	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	ノミ卦丁風化	
138 T-3	2KAESD01	SD01	右側風	要	167	115	75	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	ノミ卦丁風化	
139 T-10	2KAESD01	SD01	右側風	要	200	105.5	37	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	ノミ卦丁風化	
140 N-36	2KAESD01下層	SD01	右側風	要	145.5	96	27	金木J-6	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	14C後半	
141 N-194	4KAESX15	SD02	上側風	要	76	52	12	金木J-6	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	油膜付層	
142 N-187	4KAESX20	SD02	上側風	要	-	-	-	金木J-6	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	油膜付層	
143 N-190	4KAESX20上層	SD02	上側風	要	-	-	-	金木J-6	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	油膜付層	
144 T-179	4KAESX12	SD02	右側風	要	90	80	60	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	15C後半	
145 N-189	4KAESX20	SD02	右側風	要	94	30	28	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	15C後半	
146 N-196	4KAESX12	SD02	右側風	要	167	115	107	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	14C後半~15C後半	
147 N-197	4KAESX12	SD02	右側風	要	48	-	-	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	14C後半~15C後半	
148 N-195	4KAESX12	SD02	右側風	要	90	119.5	119.5	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	15C後半	
149 N-193	4KAESX12	SD02	右側風	要	94	30	28	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	15C後半	
150 N-191	4KAESX12	SD02	右側風	要	-	-	-	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	15C後半	
151 N-192	4KAESX12	SD02	右側風	要	-	-	-	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	15C後半	
152 T-182	4KAESX12	SD02	右側風	要	100	100	95	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	15C後半	
153 T-186	4KAESX12	SD02	右側風	要	170	104	67	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	15C後半	
154 N-196	4KAESX12	SD02	右側風	要	67	30	8.5	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	15C後半	
155 T-178	4KAESX12	SD02	右側風	要	167	103	28	完形	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	15C後半	
156 T-183	4KAESX12	SD02	右側風	要	67	62	60	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	15C後半	
157 T-184	4KAESX12	SD02	右側風	要	167	115	107	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	15C後半	
158 T-185	4KAESX12	SD02	右側風	要	208	162	81	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	15C後半	
159 T-181	4KAESX12	SD02	右側風	要	164	116	105	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	15C後半	
160 T-186	4KAESX12	SD02	右側風	要	122	141	123	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	15C後半	
161 N-207	4KAESX12	SD02	右側風	要	258	260	215	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	15C後半	
162 T-204	4KAESX12	SD02	右側風	要	266	278	170	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	15C後半	
163 T-205	4KAESX12	SD02	右側風	要	316	225	-	天草	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	砂礫S-I	15C後半	

遺物No.	文庫No.	出土場所(印記)	遺物No.	種類	輪廓	直径 (mm)	実径 (mm)	周長 (mm)	残存率	色調 (外観)	色調 (内観)	断面形態	備考
164	T-206	4KA15SX12	SD002	五輪塔	水瓶	339	339	210	谷口質	褐色質	褐色質	円筒形質	内燃油質質(液化物) 14℃未~15℃未満
165	M-208	4KA15SX12	SD002	五輪塔	水瓶	230	231	175	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
166	T-205	4KA15SX12	SD002	五輪塔	水瓶	235	278	229	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
167	N-174	4KA15SD16	SD003	十輪塔	丸形瓦	81	19	73	浅灰色	黑色	浅灰色	円筒形質	14℃未~15℃未満
168	N-175	4KA15SD16	SD003	十輪塔	丸形瓦	60	44	15	浅灰色	黑色	浅灰色	円筒形質	14℃未~15℃未満
169	N-177	4KA15SD16	SD003	普燈	盤	242	19	119	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
170	N-163	4KA15SD16-17	SD003	瓶状壺	口付鉢	291	—	—	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
171	N-172	4KA15SD16	SD003	加敷燒	瓶	—	—	—	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
172	T-158	4KA15SD16	SD003	高脚碗	瓦	77	77	53	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
173	T-160	4KA15SD16	SD003	楕圓形	楕圓形	77	77	53	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
174	T-170	4KA15SD16	SD003	盞座	楕圓形	77	65	32	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
175	N-171	4KA15SD16	SD003	盞座	楕圓形	86	75	47	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
176	N-176	4KA15SD16	SD003	椭圆形	小口瓶	76	60	46	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
177	N-173	4KA15SD16	SD003	椭圆形	小口瓶	80	13	5	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
178	T-15	4KA15SD16	SD003	不規	瓶	125	—	—	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
179	N-164	4KA15SD16	SD004	石器皿	加幅行	238	198	91	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
180	T-157	4KA15SD17	SD004	石器皿	不規	241	162	82	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
181	N-156	4KA15SD17	SD004	石器皿	不規	19	16	11	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
182	N-165	4KA15SD18	SD005	椭圆形	甕	85	70	57	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
183	N-167	4KA15SD18	SD005	椭圆形	甕	83	74	57	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
184	N-166	4KA15SD18	SD005	椭圆形	甕	—	—	—	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
185	N-162	4KA15SD25上層	SD009	自然石	口付瓶	14	14	11	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
186	T-210	4KA15SD25	SD009	瓦片	口付瓶	14	14	11	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
187	N-169	4KA15SD25	SD009	椭圆形	瓶	119	119	119	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
188	N-168	4KA15SD25	SD009	椭圆形	瓶	41	41	41	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
189	N-159-161	4KA15SK301+	SD009	口付瓶	口付瓶	276	—	—	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
190	N-209	4KA15SD25	SD009	椭圆形	口付瓶	128	128	128	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
191	T-153	4KB15SD28	SD010	椭圆形	口付瓶	45	45	37	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
192	T-154	4KB15SD28	SD010	椭圆形	口付瓶	97	97	89	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
193	T-155	4KB15SD28	SD011	椭圆形	口付瓶	95	94	87	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
194	T-A	4KB15SD27	SD012	椭圆形	口付瓶	56	56	48	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
195	M-295	5KB15SD240	SD017	椭圆形	瓶	82	—	—	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
196	M-294	5KB15SD240	SD017	椭圆形	瓶	35	35	27	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
197	M-297	5KB15SD240	SD017	椭圆形	多様石	106	106	92	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
198	M-291	5KB15SD240	SD018	椭圆形	多様石	148	148	130	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
199	N-257	5KB15SD240	SD018	椭圆形	多様石	7	7	5	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
200	N-258	5KB15SD240	SD018	椭圆形	多様石	119	119	101	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
201	N-243	5KB15SD240	SD018	椭圆形	多様石	119	119	101	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
202	N-241	5KB15SD240上層	SD018	椭圆形	口付瓶	98	98	80	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
203	N-242	5KB15SD240上層	SD018	椭圆形	口付瓶	221	221	143	褐色質	褐色質	褐色質	円筒形質	14℃未~15℃未満
204	M-268	5KB15SD240	SD018	口付瓶	60	60	23	新切口	褐色質	褐色質	褐色質	5KB15SD240	褐色質
205	N-228	5KB15SD240	SD018	口付瓶	60	60	23	新切口	褐色質	褐色質	褐色質	5KB15SD240	褐色質

地名	地番	測量No.	測量年	地類	面積	形状	口徑	底長 (m)	幅員 (m)	段	色調 (外見) 石 材	色調 (内見) 浅灰色 褐灰色 褐灰色	地土混和物	重き約(g)
足尾町(旧番)	光輪地	50005-S49	N-221	石造物	206	黒口引	49	37	26	0段1/3	褐灰色	褐灰色	砂礫S-2	270
		50005-S49	M-263	石造物	207	金合利	88	92	58	1段	褐灰色	褐灰色	砂礫S-2	270
		50005-S49	M-225	石造物	208	金合利	136	66.5	74	1段	褐灰色	褐灰色	砂礫S-2	270
		50005-S49	M-222	石造物	209	金合利	170	163	89	1段	褐灰色	褐灰色	砂礫S-2	270
		50005-S49	M-220	石造物	210	金合利	133	50	36	0段完	褐灰色	褐灰色	砂礫S-2	1,700
		50005-S49	M-219	石造物	211	金合利	130	130	106	0段完	褐灰色	褐灰色	砂礫S-2	1,700
		50005-S49	M-218	石造物	212	金合利	110	82	18	0段完	褐灰色	褐灰色	砂礫S-2	1,700
		50005-S49	M-217	石造物	213	金合利	114	33	22	1段1/4	褐灰色	褐灰色	砂礫S-2	1,700
		50005-S49	M-216	石造物	214	金合利	89	50	15	1段1/4	褐灰色	褐灰色	砂礫S-2	1,700
		50005-S49	M-215	石造物	215	金合利	119	79	15	1段1/4	褐灰色	褐灰色	砂礫S-2	1,700
		50005-S49	M-214	石造物	216	金合利	30	35	13	1段1/4	褐灰色	褐灰色	砂礫S-2	1,700
		50005-S49	M-213	石造物	217	金合利	136	116	1段1/6	浅灰色	浅灰色	砂礫S-2	8	
		50005-S49	M-212	石造物	218	金合利	24	20	1段1/6	浅灰色	浅灰色	砂礫S-2	15	
		50005-S49	M-211	石造物	219	金合利	62	62	39	1段1/6	浅灰色	浅灰色	砂礫S-2	68
		50005-S49	M-210	石造物	220	金合利	208	177	118	1段1/6	浅灰色	浅灰色	砂礫S-2	3,250
		50005-S49	M-209	石造物	221	金合利	267	87	1段1/6	浅灰色	浅灰色	砂礫S-2	3,250	
		50005-S49	M-208	石造物	222	金合利	25	25	1.5	1段1/6	浅灰色	浅灰色	砂礫S-2	3,250
		50005-S49	M-207	石造物	223	金合利	24	24	1.5	1段1/6	浅灰色	浅灰色	砂礫S-2	3,250
		50005-S49	M-206	石造物	224	金合利	274	116	1段1/6	浅灰色	浅灰色	砂礫S-2	8.4	
		50005-S49	M-205	石造物	225	金合利	130	20	1段1/12	灰白色	灰白色	砂礫S-2	15	
		50005-S49	M-204	石造物	226	金合利	66	66	47	1段1/12	灰白色	灰白色	砂礫S-2	15
		50005-S49	M-203	石造物	227	金合利	68	68	47	1段1/6	灰白色	灰白色	砂礫S-2	15
		50005-S49	M-202	石造物	228	金合利	73	73	47	1段1/6	灰白色	灰白色	砂礫S-2	15
		50005-S49	M-201	石造物	229	金合利	86	86	47	1段1/6	灰白色	灰白色	砂礫S-2	15
		50005-S49	M-200	石造物	230	金合利	108	21	21	1段1/6	灰白色	灰白色	砂礫S-2	15
		50005-S49	M-199	石造物	231	金合利	72	72	47	1段1/6	灰白色	灰白色	砂礫S-2	15
		50005-S49	M-198	石造物	232	金合利	167	167	112	1段1/6	灰白色	灰白色	砂礫S-2	15
		50005-S49	M-197	石造物	233	金合利	78	78	47	1段1/6	灰白色	灰白色	砂礫S-2	15
		50005-S49	M-196	石造物	234	金合利	126	126	47	1段1/6	灰白色	灰白色	砂礫S-2	15
		50005-S49	M-195	石造物	235	金合利	116	116	47	1段1/6	灰白色	灰白色	砂礫S-2	15
		50005-S49	M-194	石造物	236	金合利	238	238	47	1段1/6	灰白色	灰白色	砂礫S-2	15
		50005-S49	M-193	石造物	237	金合利	276	140	138	1段1/3	灰白色	灰白色	砂礫S-2	14
		50005-S49	M-192	石造物	238	金合利	60	50	25	1段1/6	灰白色	灰白色	砂礫S-2	14
		50005-S49	M-191	石造物	239	金合利	62	47	18	1段1/6	灰白色	灰白色	砂礫S-2	14
		50005-S49	M-190	石造物	240	金合利	70	31	25	1段1/6	灰白色	灰白色	砂礫S-2	14
		50005-S49	M-189	石造物	241	金合利	61						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-188	石造物	242	金合利	112						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-187	石造物	243	金合利	111						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-186	石造物	244	金合利	110						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-185	石造物	245	金合利	109						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-184	石造物	246	金合利	108						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-183	石造物	247	金合利	107						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-182	石造物	248	金合利	106						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-181	石造物	249	金合利	105						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-180	石造物	250	金合利	104						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-179	石造物	251	金合利	103						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-178	石造物	252	金合利	102						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-177	石造物	253	金合利	101						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-176	石造物	254	金合利	100						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-175	石造物	255	金合利	99						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-174	石造物	256	金合利	98						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-173	石造物	257	金合利	97						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-172	石造物	258	金合利	96						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-171	石造物	259	金合利	95						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-170	石造物	260	金合利	94						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-169	石造物	261	金合利	93						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-168	石造物	262	金合利	92						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-167	石造物	263	金合利	91						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-166	石造物	264	金合利	90						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-165	石造物	265	金合利	89						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-164	石造物	266	金合利	88						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-163	石造物	267	金合利	87						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-162	石造物	268	金合利	86						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-161	石造物	269	金合利	85						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-160	石造物	270	金合利	84						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-159	石造物	271	金合利	83						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-158	石造物	272	金合利	82						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-157	石造物	273	金合利	81						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-156	石造物	274	金合利	80						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-155	石造物	275	金合利	79						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-154	石造物	276	金合利	78						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-153	石造物	277	金合利	77						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-152	石造物	278	金合利	76						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-151	石造物	279	金合利	75						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-150	石造物	280	金合利	74						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-149	石造物	281	金合利	73						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-148	石造物	282	金合利	72						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-147	石造物	283	金合利	71						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-146	石造物	284	金合利	70						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-145	石造物	285	金合利	69						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-144	石造物	286	金合利	68						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-143	石造物	287	金合利	67						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-142	石造物	288	金合利	66						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-141	石造物	289	金合利	65						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-140	石造物	290	金合利	64						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-139	石造物	291	金合利	63						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-138	石造物	292	金合利	62						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-137	石造物	293	金合利	61						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-136	石造物	294	金合利	60						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-135	石造物	295	金合利	59						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-134	石造物	296	金合利	58						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-133	石造物	297	金合利	57						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-132	石造物	298	金合利	56						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-131	石造物	299	金合利	55						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-130	石造物	300	金合利	54						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-129	石造物	301	金合利	53						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-128	石造物	302	金合利	52						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-127	石造物	303	金合利	51						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-126	石造物	304	金合利	50						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-125	石造物	305	金合利	49						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-124	石造物	306	金合利	48						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-123	石造物	307	金合利	47						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-122	石造物	308	金合利	46						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-121	石造物	309	金合利	45						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-120	石造物	310	金合利	44						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-119	石造物	311	金合利	43						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-118	石造物	312	金合利	42						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-117	石造物	313	金合利	41						砂礫S-2	14
		50005-S49	M-116	石造物	314									

## 第4章 総括

### 古代

古代の遺構は、A区東で掘立柱建物SB01～SB07を確認した。

掘立柱建物は何れも南北棟で、建物のほとんどは調査区外に伸びていくため全体の様相が分かるのはSB06とSB07のみである。また、SB02～SB07は重複しており、当該期のうちに建替えを行ったものと思われるが、前後関係が確認できたのはSB02・SB03、SB05・SB06で、柱穴の切り合いかからそれぞれSB03、SB06の方が新しいことが分かった。A区東に集中するこれらの建物は、南北ラインのSA01を境に明確に分かれ、SB01～SB03は東方に、SB04～SB07は西方にそれぞれ群を成して構築している。

SB07以外の建物の柱穴からは遺物が出土しており、その中でも時期を特定できたのはSB01・SB03・SB05・SB06から出土した土器器内黒碗などで、時期は10世紀代に位置づけられる。

当該時期の遺跡の性格は集落跡と推測するが、建物の配置がSA01を挟んで規格的であること、瓦塔の小片が出土していることから、公的な施設であった可能性もある。

### 中世

中世は前半と後半の大きく2つの時期に分かれ、何れも集落跡である。

中世前半の遺構は、D区東側の掘立柱建物SB10とSB11、柵列SA04とSA05である。遺物の出土量は少なく、図示できるものは無かつたが、12世紀代と考えられる。

SB10とSB11は重複していることから、建替えがあつたようだが、前後関係は不明である。SB10のすぐ西側にはSA04が、また、北と東にはSA05が建ち、SB10を柵列で囲い込むような建物配置を見せていく。このように、掘立柱建物が柵列で囲まれる形態は当遺跡から東3kmの扇形丘ヤグラダ遺跡で確認することができる。扇形丘ヤグラダ遺跡で見つかった柵列で仕切られた建物は7棟数えられ、時期は12世紀中頃から13世紀初め頃とされている。

当該時期の性格は、建物構造や遺物のあり方から一般庶民層の居宅地にあたると考えられる。

中世後半の遺構については、B・C・F区に集中する。時期は、14世紀中頃から15世紀代である。

B区SD01とF区SD18は同一の遺構で、東西方向から南北方向にクランクする溝である。C区SD09も直角に折れ曲がる構造をしており、これらの溝は、エリアを明確に区割りする区画溝となり、溝に囲まれた中には掘立柱建物や堅穴状遺構など生活に直結するような遺構・遺物が見つかっていることから、溝で囲まれた内部は居宅地と想定できる。

B区SD01とF区SD18は幅約3m、深さ約60～100cmの規模をもち、周辺で確認した溝の中で最も規模が大きい。大溝SD01とSD18で囲まれたエリア(F区)にはSB13及びSB14の掘立柱建物やSI06・SI07の堅穴状遺構、SK37・SK38・SK40といった土坑など居住用施設となる遺構群を見ることがある。これらの遺構はSD01及びSD18から約5m離れたところに集中しており、大溝と遺構群との間は空隙地であったことが認められる。大溝は本報告以外の発掘調査から、四周に巡っていたことが分かっている。

このSD01とSD18で囲まれた宅地内及び周辺からは、日常容器類のほかに大きな漆箱につく環付金具や文房具である硯、太刀を保持したとされる鳴滝石が発見されている。このような遺物組成と、掘削により思われる大溝SD01・18などの遺構状況から、このエリアは開発領主層の館にあたると考えられる。

C区SD09は最大幅約2.0m、最大深さ約80cmの規模で、前述したSD01及びSD18よりは小さいものの、計画的な区画を目的とした溝と認められる。SD09で画された宅地には掘立柱建物や堅穴状遺構、土坑などが密集して見つかっている。一部の遺構には掘り直しが認められ、宅地内ではある時期に遺構配置が

大きく変わる様相を見出すことができるが、計画的な配置状況を復元することはできなかった。

この宅地内からは、碗皿等の食膳具をはじめとする生活用具類が多量に出土しており、その組成から一般庶民層の居住域と考えられる。遺物の中には鍛冶解の存在をうかがわせる鉄滓・鷺羽口や、木地師が工具を整える砥石が見つかっていることから、庶民層の中でも職人層が居住していた可能性が極めて高い。

C区北側のSD02からは、五輪塔・宝篋印塔など7点集中して発見された。周囲は墓地が存在し、石塔が整然と立ち並ぶ風景を見る事ができたと思われる。発見された石塔は、完塔になるものではなく一部破損しているものもあり、集落終焉とともに墓の存在意義もなくなり、そのために溝に投棄されたものと推測する。

本調査では、古代から中世にかけての集落遺跡として大きな成果を挙げることができた。特に中世後半の集落は、計画的な宅地割が行われ、各エリアに在地領主層の館や一般層の宅地、信仰対象地となる墓地が明確に分かれていることが明らかになった。本遺跡は、本報告以外の箇所でも発掘調査を実施しており、数々の成果を得ている。今後、これらの成果を改めて報告し、徳用クヤダ遺跡の全容を明らかにしていきたい。

#### 参考文献

- 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター 2002 「金沢市藤江C遺跡Ⅳ・V第3分冊 古代中世編」  
野々市町 2003 「野々市町史資料編1」  
野々市町教育委員会 2002 「扇が丘ヤグラダ遺跡」



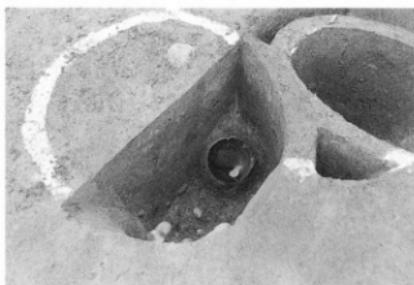
調査地遠景(北西から)



A・B区全景



A区SB01・SB02・SB03(北から)



A区P01土師器塙(210)出土状況



A区SB04・SB05・SB06(北から)



A区全景(東から)



A区SI01(南から)



B区SK09(北から)



B区SD01(北西から)



C区SK17(北から)



B区全景(東から)



C区SD02(東から)



B区全景(南西から)



C区SD02(西から)



C区SD09(西から)



C区全景(南東から)



C区SD02石塔(161・162・164・165)出土状況



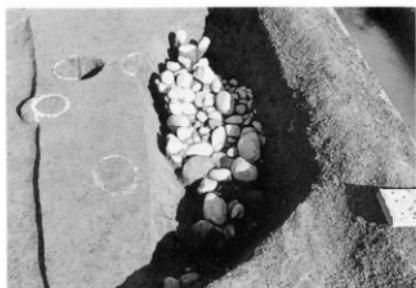
C区全景(南西から)



C区SD02宝箧印塔(166)出土状況



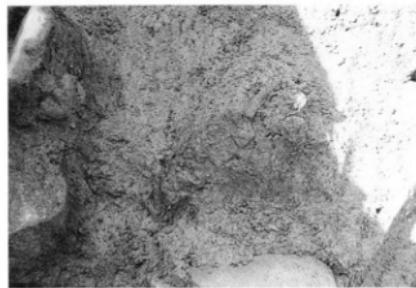
D区SB10・SB11・SA04・SA05(南から)



D区SK33石堆積状況(南から)



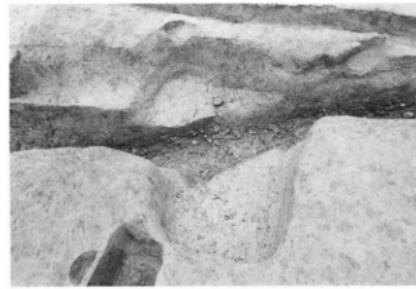
D区SD13・SD14・SD15(南から)



D区SK33鉄製品(73)出土状況



D区全景(東から)



D区SK34(西から)



F区SI07(南から)



F区 SD107鉄製品(43)出土状況



F区 SD18(南から)



F区 SK41(西から)



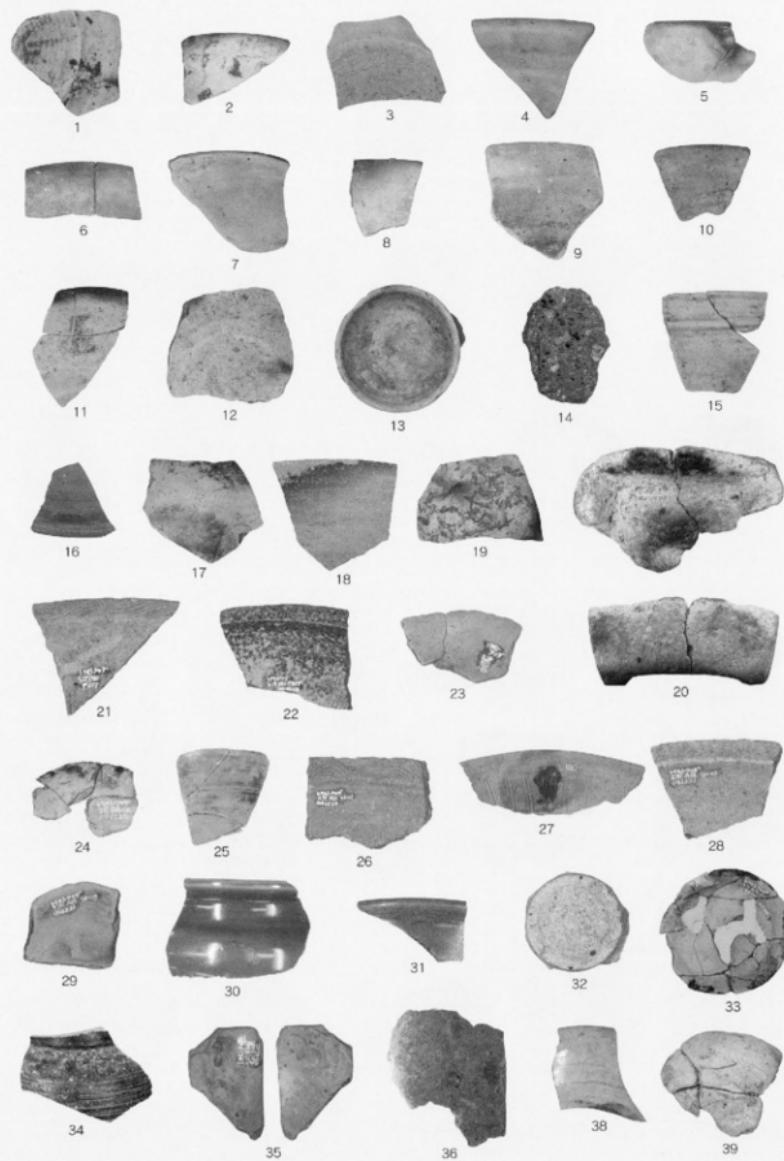
F区 全景(北東から)

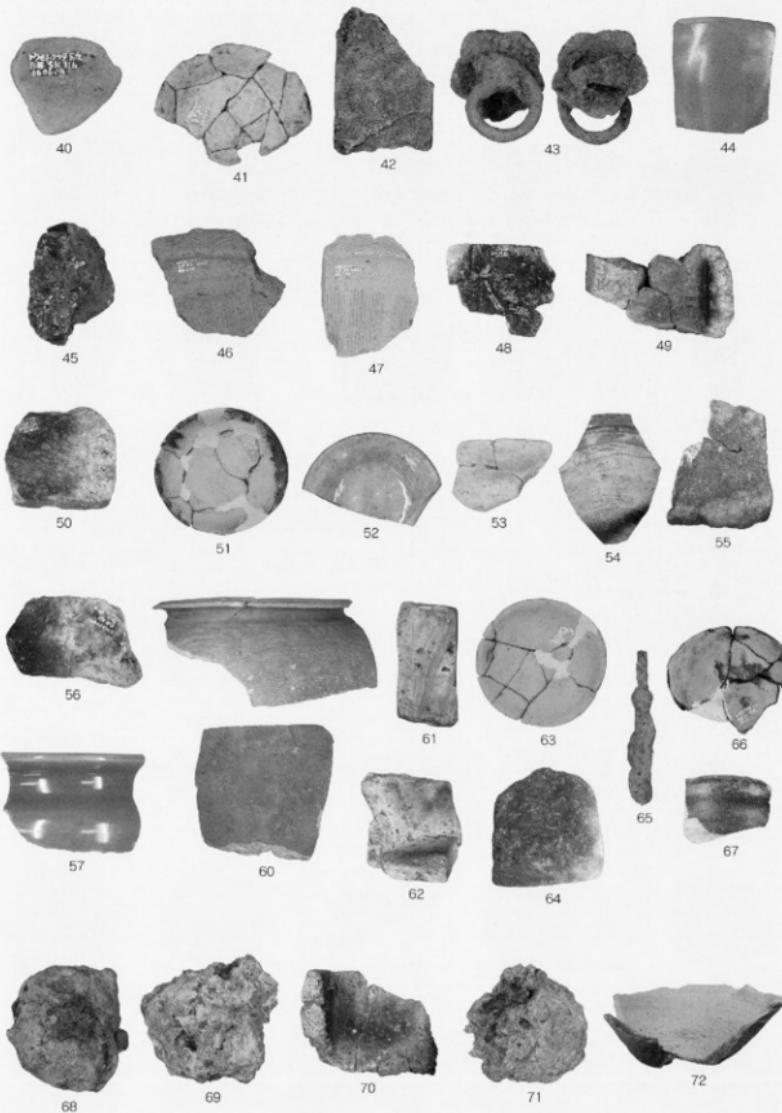


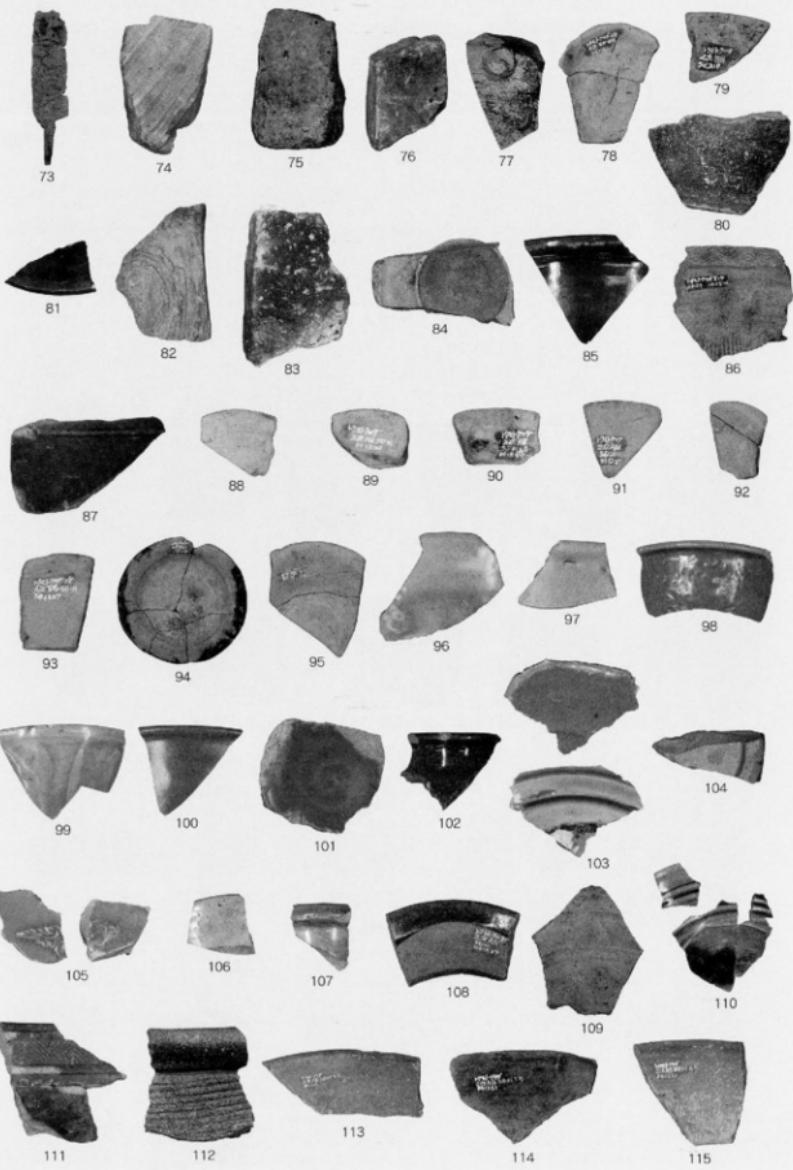
F区 SD18(北から)

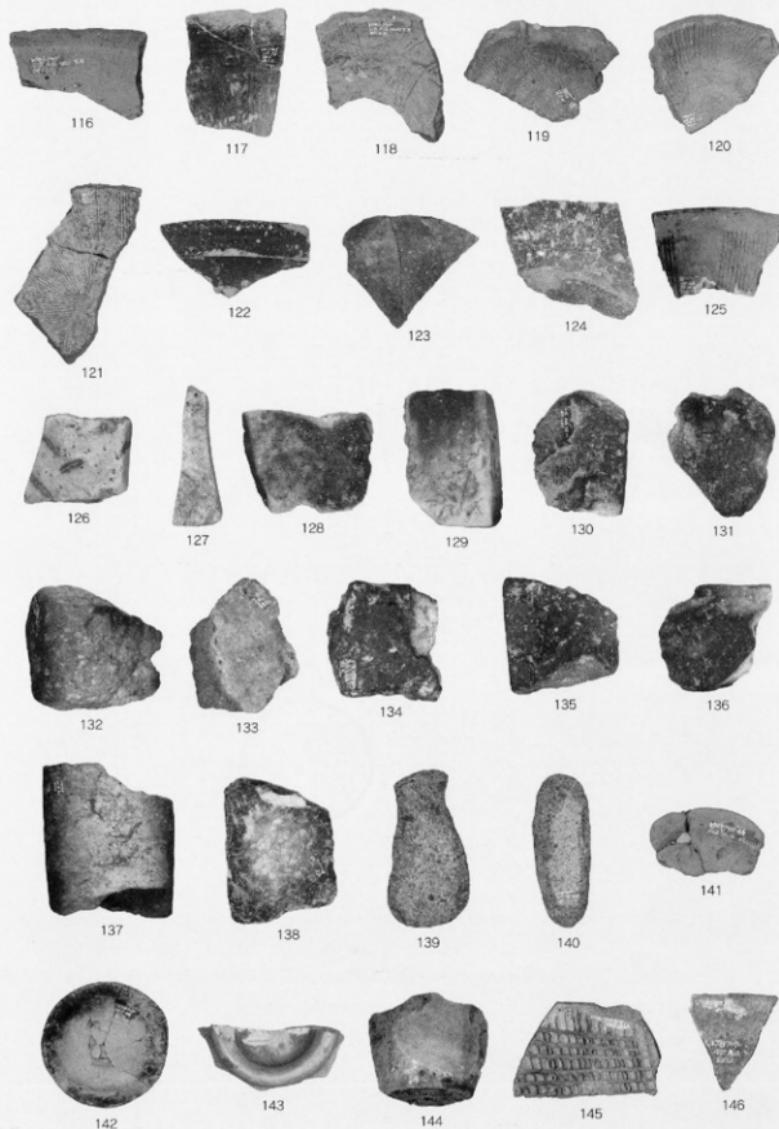


F区 全景(北西から)











147



148



149



150



151



152



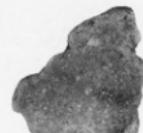
154



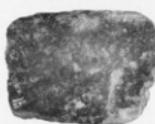
155



156



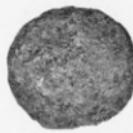
157



158



159



160



161



162



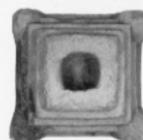
163



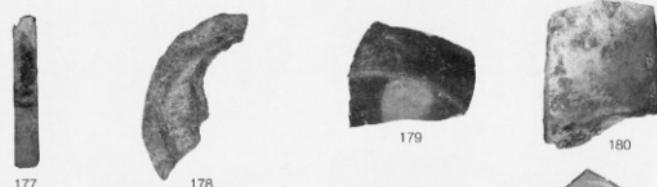
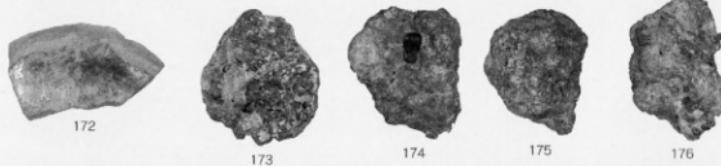
164

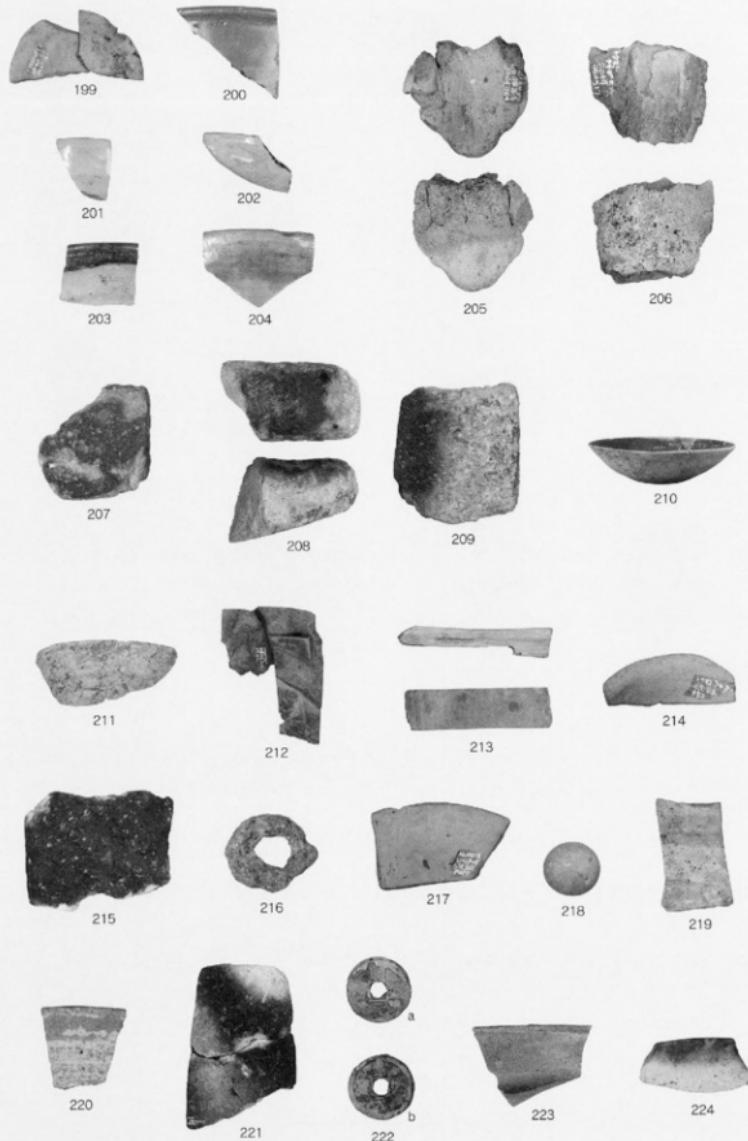


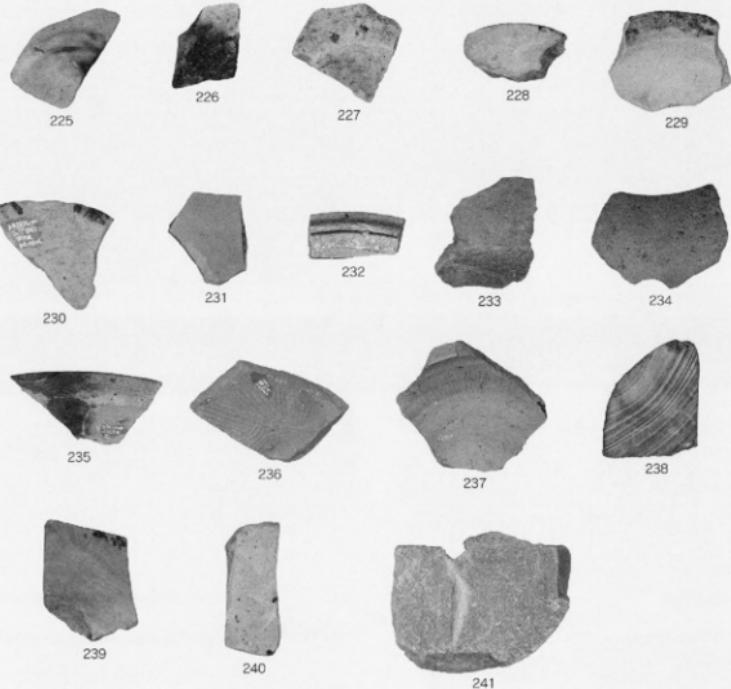
165



166







報告書抄録

野々市町北西部土地区画整理事業に係る  
平成文化財発掘調査報告書

### 徳用クヤダ遺跡 I

発行日 平成21年3月31日  
発行者 野々市町教育委員会  
〒921-8510  
石川県石川郡野々市町字三納18街区1  
電話 076-227-6122  
bunka@town.nonoichi.lg.jp  
印 刷 (株) 画遊

